

桑折町男女共同参画に関する町民意識調査 調査報告書

令和4年9月

桑 折 町

< 目 次 >

第1章 調査概要	3
I. 調査目的	3
II. 調査概要	3
III. 調査項目	3
IV. 留意事項	3
第2章 調査の分析	7
I. 調査結果の要約	7
(1) 回答者の属性	7
(2) 男女平等について	7
(3) 結婚と家庭生活について	7
(4) 男性の家事・育児の参加について	8
(5) 子育てについて	8
(6) 介護について	8
(7) 就労について	9
(8) ワーク・ライフ・バランスについて	9
(9) 社会参加について	10
(10) セクシャル・ハラスメント、DV について	10
(11) 性的マイノリティについて	11
(12) 防災・災害復興について	11
(13) SDGs（エス・ディー・ジーズ）について	11
(14) 行政の役割について	12
II. 調査結果の詳細	13
1. 回答者の属性	13
(1) 性別（自認する性）	13
(2) 年齢	13
(3) 職業	14
(4) 婚姻の状況	14
(5) 共働きの状況	15
(6) 同居の状況	15
(7) 世帯の収入	16
(8) 現在の居住地	16
2. 男女平等について	17
(1) 男女平等について	17
3. 結婚と家庭生活について	22
(1) 結婚と家庭生活について	22
(2) 家庭での仕事の分担	27

4. 男性の家事・育児の参加について	33
(1) 男性の育児休業取得	33
(2) 女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと	34
5. 子育てについて	36
(1) 教育方針	36
(2) 人権や男女平等意識の育成を重視した教育に必要なこと	37
6. 介護について	39
(1) 介護を主として女性が担うことについて	39
(2) 援助や介護が必要になったら	40
(3) 誰に介護してもらいたいのか	41
(4) 男性の介護休業取得	42
7. 就労について	43
(1) 望ましい女性の就労	43
(2) 職場での女性の地位向上に必要なこと	44
(3) 女性が働きつづけるために必要なこと	45
(4) 仕事の内容や接遇面における男女差	47
(5) 具体的な事例	48
(6) 新型コロナウイルス感染症の拡大による、働き方や仕事内容の変化	49
(7) 働き方や仕事内容に変化があった理由	50
8. ワーク・ライフ・バランスについて	52
(1) 男女の望ましい生き方	52
(2) 仕事と生活について	54
(3) 日常生活の中で満足する時間がとれているか	56
9. 社会参加について	60
(1) 現在、関心のある活動	60
(2) 活動に参加しようとするときの障害	61
10. セクシャル・ハラスメント、DV について	62
(1) 身近なところのセクシャル・ハラスメント	62
(2) セクシャル・ハラスメントを受けた場	63
(3) セクシャル・ハラスメントの内容	63
(4) 身近なところのDV	64
(5) DVの内容	65
(6) DVを受けたことについての相談先	66
(7) 相談しなかった、出来なかった理由	66
(8) DVについて相談できる窓口の認知度	67

11. 性的マイノリティについて	68
(1) 性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉の認知度	68
(2) 自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか.....	69
(3) 性的マイノリティ（またはLGBT等）にとって生活しづらい社会か.....	70
(4) 性的マイノリティ（またはLGBT等）が生活しやすくなるための対策.....	71
12. 防災・災害復興について	73
(1) 震災後、生活において強く意識していること	73
(2) 災害が発生して避難が必要になった時に心配なこと	74
(3) 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要か.....	75
(4) 性別に配慮した対応が必要なこと	76
13. SDGs（エス・ディー・ジーズ）について	78
(1) SDGs（持続可能な開発目標）の認知度	78
(2) SDGsの取り組みに参加したいか.....	79
(3) 「桑折町SDGs推進町民会議」の認知度	80
(4) 桑折町SDGs推進町民会議の取り組みについて.....	81
14. 行政の役割について	83
(1) 男女共同参画社会実現のため行政に望むこと	83
Ⅲ. 自由記述	85

第3章 資料（調査票）	91
-------------------	----

第 1 章 調査概要

第1章 調査概要

I. 調査目的

本調査は、本町の「第3次男女共同参画プラン」の策定にあたり、町民意向とニーズを的確に捉えて施策の基本的方向性・実施目標などを定めるために実施しました。

II. 調査概要

- 調査実施期間：令和4年7月13日～令和4年7月29日
- ※集計処理にあたっては、8月12日回収分まで含めて集計しております。
- 調査対象：15才以上の町民から800名を無作為に抽出
- 調査方法：無記名式調査票の郵送配付・郵送、WEB回答
- 総回収数・率：297件（37.1%）
- 有効回答件数・率：297件（37.1%）

III. 調査項目

- 回答者の属性
- 男女平等について
- 結婚と家庭生活について
- 男性の家事・育児の参加について
- 子育てについて
- 介護について
- 就労について
- ワーク・ライフ・バランスについて
- 社会参加について
- セクシャル・ハラスメント、DVについて
- 性的マイノリティについて
- 防災・災害復興について
- SDGs（エス・ディー・ジーズ）について
- 行政の役割について

IV. 留意事項

- ・グラフ・表中の調査数「n」（Number of cases）は、アンケートの有効回収数を示しています。
- ・調査数が少ない項目については、分析対象から除外している場合があります。
- ・回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。そのため、各項目の値の合計が総数と一致しない場合があります。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の設問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える場合があります。
- ・調査票における設問及び選択肢の語句等を一部簡略化している場合があります。

第2章 調査の分析

第2章 調査の分析

I. 調査結果の要約

(1) 回答者の属性

- 性別については、「男性」が46.1%、「女性」が52.5%となっています。
- 年齢については、「40代」が20.9%と最も多く、以下、「30代」(18.9%)、「70代以上」(15.8%)となっています。
- 主たる職業については、「会社員（正社員）」が33.0%と最も多く、以下、「無職」(12.8%)、「パート・アルバイト」(10.1%)となっています。
- 婚姻の状況については、「既婚（配偶者あり）」が56.9%と最も多く、以下、「未婚」(33.7%)、「離婚・死別」(8.1%)となっています。
- 共働きの状況については、「共働き」が63.9%と最も多く、以下、「一方が家事専念」(24.3%)、「共に無職」(10.7%)となっています。
- 同居の状況については、「親と子の世帯」が56.6%と最も多く、以下、「夫婦だけの世帯」(15.8%)、「親と子と孫の世帯」(14.1%)となっています。
- 世帯の収入については、「100～300万円未満」と「300～500万円未満」が25.3%と最も多く、以下、「500～700万円未満」(16.2%)、「700～900万円未満」(10.4%)となっています。
- 現在の居住地については、「桑折地域」が51.9%と最も多く、以下、「半田地区」(21.5%)、「睦合地区」(14.1%)、「伊達崎地区」(11.1%)となっています。

(2) 男女平等について

- 各分野での男女平等の意識について、「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合を比べると、〈⑤社会通念・しきたり上で〉が69.3%と最も多く、以下、〈③政治の場で〉が67.7%となっています。また、〈⑦地域社会で〉は47.8%、〈⑥法律や制度上で〉は46.5%、〈②職場の中で〉は42.8%と、いずれも4割を超えています。一方、「平等になっている」と回答した割合を比べると、〈④学校の中で〉が47.5%と最も多く、以下、〈①家庭の中で〉が44.8%となっています。

(3) 結婚と家庭生活について

- 〈①一人で暮らしていけばあえて結婚する必要はない〉という考え方では、49.1%が「どちらかといえばそうは思わない」又は「そう思わない」と回答しています。
- 〈②結婚したい場合でも、経済的な事情等で実際には結婚が難しい側面もある〉という考え方では、74.7%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。
- 〈③特定の人と一緒に暮らしていく場合でも、結婚という形式に拘る必要はない〉という考え方では、65.0%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。
- 〈④結婚しても、必ずしも子供をもたなくてもよい〉という考え方では、65.0%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。

- 〈⑤選択的夫婦別姓の結婚が認められてもよい〉という考え方では、65.0%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。
 - 〈⑥男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ〉という考え方では、86.2%が「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」と回答しています。
 - 〈⑦男性も家事や子育てなどの家庭の責任を分担して担うべきだ〉という考え方では、86.8%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。
 - 家庭での仕事の分担について、「主として妻」が最も多くなっているのは、〈②掃除〉〈③洗濯〉〈④食事のしたく〉〈⑤食事の片づけ〉〈⑥家計の管理〉〈⑦育児・教育〉となっており、いずれも4割を超えています。
- 一方、〈①生活費を得る〉では、「主として夫」が56.8%と最も多く、〈⑨地域活動（PTAや町内会等）〉では「夫婦同程度」が31.4%と最も多くなっています。〈⑧高齢者の世話・介護〉では、「該当なし」を除くと、「夫婦同程度」が22.5%と最も多くなっています。

（4）男性の家事・育児の参加について

- 男性が育児休業を取得することについては、「賛成」が57.2%と最も多く、以下、「どちらかといえば賛成」（26.3%）、「どちらかといえば反対」（6.4%）となっています。
- 女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことについては、「労働時間短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇、休業制度を普及させること」が34.7%と最も多く、以下、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりなどを改めること」（34.0%）、「男女ともに家事などができるような能力を身につけること」（29.0%）となっています。

（5）子育てについて

- お子さんの教育方針については、「性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた（育てたい）」が77.1%と最も多く、以下、「男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるように育てた（育てたい）」（52.9%）、「男は仕事ができ、女は家庭を守るよう育てた（育てたい）」（3.7%）となっています。
- 人権や男女平等意識の育成を重視した教育に必要なことについては、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望や能力を重視する」が62.6%と最も多く、以下、「学校における特別活動や、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」（61.3%）、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行う」（38.0%）となっています。

（6）介護について

- 介護を主として女性が担うことについては、「女性が主として介護することは、好ましくはないで、男性も介護するべきだ」が48.8%と最も多く、以下、「女性が主として介護することは、好ましくはないが、やむを得ない」（25.3%）、「介護される側のことを考えると、女性が介護する方が好ましい」（14.1%）となっています。
- 援助や介護が必要になったら、どうしたいと思うかについては、「介護サービスを受けながら自宅で暮らす」が48.5%と最も多く、以下、「介護の施設に入所する」（37.7%）、「家族に介護してもらって自宅で暮らす」（6.4%）となっています。

- 家族、親族のどなたに介護してもらいたいかについては、「配偶者」が68.4%と最も多く、以下、「娘」(21.1%)、「息子」(5.3%)となっています。
- 男性が介護休業を取得することについては、「賛成」が59.9%と最も多く、以下、「どちらかといえば賛成」(24.9%)、「どちらかといえば反対」(3.4%)となっています。

(7) 就労について

- 望ましい女性の就労については、「生涯を通じて仕事を持ち、結婚後、出産後も家庭と両立させる」が54.5%と最も多く、以下、「出産後いったん退職し、子どもがある程度大きくなったら、再び仕事を持つ」(35.4%)、「出産を機に退職し、家庭のことに専念する」「女性は仕事を持たない方がよい」(ともに1.3%)となっています。
- 職場での女性の地位向上のために必要なことについては、「男女ともに育児休業や介護休業がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと」が57.9%と最も多く、以下、「職場において、配置や研修で性別による差をつけないこと」(43.8%)、「男女平等意識の向上のために管理職や従業員を対象とした教育や啓発を実施すること」(23.2%)となっています。
- 女性が働きつづけるために必要なことについては、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど働きやすい労働条件とする」が44.4%と最も多く、以下、「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」(38.0%)、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」(26.9%)となっています。
- 仕事の内容や接遇面における男女差については、「男女に差はない」が36.4%と最も多く、以下、「男性が優遇されていると思う」(20.5%)、「女性が優遇されていると思う」(5.1%)となっています。
- 仕事の内容や接遇面における具体的な事例については、「業務内容に差がある」が53.9%と最も多く、以下、「賃金に差がある」「昇進、昇格に差がある」(ともに39.5%)となっています。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による、働き方や仕事内容の変化については、「特に変化はなかった」が43.8%、「何かしらの変化があった」が40.7%となっています。
- 働き方や仕事内容に変化があった理由については、「業績が悪化したから」が26.4%と最も多く、以下、「経営・運営状況（営業時間等）が変化したから」(24.8%)、「コロナを機に仕事のニーズが高まり忙しくなったから」(17.4%)となっています。

(8) ワーク・ライフ・バランスについて

- 女性及び男性の望ましいと思う生き方については、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」が、〈①男性の生き方〉、〈②女性の生き方〉ともに最も多くなっていますが、2番目に多いものは、〈①男性の生き方〉では、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」(30.0%)で、〈②女性の生き方〉では、「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」(21.9%)となっています。
- 仕事と生活について、最も近い考え方については、〈①考え方（理想）〉では、「「仕事」と「家庭生活」をともに両立」が、37.7%と最も多く、以下、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う」(33.3%)、「「家庭生活」を優先」(6.7%)となっています。
 〈②現実（現状）〉では、「「仕事」を優先」が39.7%と最も多く、以下「「仕事」と「家庭生活」をともに両立」が25.9%、「「家庭生活」を優先」が14.1%となっています。

- 日常生活の中で満足する時間が取れているかについて、「十分取れている」又は「まあまあ取れている」と回答した割合は、〈①仕事のための時間〉が80.5%と最も多く、以下、〈③家族・恋人・友人と過ごす時間〉(62.3%)、〈⑥休養〉(61.3%)となっており、6割を超えています。一方、「あまり取れていない」又は「まったく取れていない」と回答した割合は、〈⑤地域活動に参加する時間〉が61.7%と最も多く、以下、〈④個人の時間(学習・趣味・スポーツなど)〉(40.7%)、〈⑥休養〉が33.3%となっています。

(9) 社会参加について

- 現在、関心のある活動については、「芸術・文化・スポーツなど趣味のグループ活動」が33.0%と最も多く、以下、「町内会・自治会などの地域活動」(18.5%)、「高齢者・障がい者等のためのボランティア活動」(10.8%)となっています。
- 活動に参加しようとするときの障害については、「仕事が忙しい」が34.7%と最も多く、以下、「経済的余裕がない」(21.2%)、「情報が少ない」(20.2%)となっています。

(10) セクシャル・ハラスメント、DVについて

- 身近なところ(職場・地域・学校)のセクシャル・ハラスメントについては、「見たり聞いたりしたことがある」が27.9%と最も多く、以下、「自分自身が受けたことがある」(11.8%)、「自分自身がしたことがある」(1.7%)となっています。
- セクシャル・ハラスメントを受けた場については、「職場で」が88.6%と最も多く、以下、「学校で」(17.1%)、「地域で」「家庭で」(ともに8.6%)となっています。
- 受けたことがあるセクシャル・ハラスメントの内容については、「容姿や服装についてあれこれ言われた」が37.1%と最も多く、以下、「性的な冗談や冷やかしを言われた」(34.3%)、「肩や尻など身体に触られた」(31.4%)となっています。
- 身近なところのDVについては、「暴力について見たり聞いたりしたことがある」が17.2%と最も多く、以下、「自分自身が暴力を受けたことがある」(5.7%)、「自分自身が暴力をふるったことがある」(1.3%)となっています。
- DVの内容については、「大声でどなられたりおどされた」が76.5%と最も多く、以下、「医師の治療を必要としないくらいの暴力を受けた」(35.3%)、「「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われた」「何を言っても無視された」(ともに29.4%)となっています。
- DVを受けたことについての相談先については、「友人・知人に相談した」が52.9%と最も多く、以下、「家族や親せきに相談した」「どこ(だれ)にも相談しなかった」(ともに29.4%)となっています。
- 相談しなかった、出来なかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」が60.0%と最も多く、以下、「相談するほどのことではないと思ったから」「どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」(ともに40.0%)となっています。
- DVについて相談できる窓口の認知度については、「警察」が72.4%と最も多く、以下、「女性のための相談支援センター、男女共生センター」(37.4%)、「保健福祉事務所、女性相談員」(20.2%)となっています。

(11) 性的マイノリティについて

- 性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っているかについては、「はい」が70.0%、「いいえ」が27.6%となっています。
- 自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるかについては、「はい」が3.4%、「いいえ」が93.9%となっています。
- 性的マイノリティ（またはLGBT等）にとって生活しやすい社会かについては、「どちらかといえばそう思う」が36.0%と最も多く、以下、「そう思う」(24.2%)、「どちらかといえばそう思わない」(5.4%)となっています。
- 性的マイノリティ（またはLGBT等）が生活しやすくなるための対策については、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が43.0%と最も多く、以下、「法令の制定や制度の見直し」(38.5%)、「幼少期からの教育の充実」(35.8%)となっています。

(12) 防災・災害復興について

- 震災後、生活において強く意識していることについては、「非常時に備え、防災グッズや水・食料などの準備」が63.0%と最も多く、以下、「家具の転倒防止など、家の中の安全対策」(62.0%)、「避難所や避難経路の確認」(39.4%)となっています。
- 災害が発生して避難が必要になった時に心配なことについては、「災害についての的確な情報が得られるか」が67.0%と最も多く、以下、「家族との連絡がとれなくなるのではないか」(56.2%)、「避難所が安心か」(42.8%)となっています。
- 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要かについては、「必要がある」が53.5%と最も多く、以下、「どちらかといえば必要がある」(30.6%)、「必要ない」(1.7%)となっています。
- 防災・災害復興対策で、性別に配慮した対応が必要だと思うことについては、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」が86.0%と最も多く、以下、「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）」(47.6%)、「避難所運営の責任者に男女が共に配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」(46.8%)となっています。

(13) SDGs（エス・ディー・ジーズ）について

- SDGs（持続可能な開発目標）の認知度については、「言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」が51.2%と最も多く、以下、「意味（内容）まで知っている」(34.7%)、「知らなかった」(13.1%)となっています。
- SDGsの取り組みに参加したいかについては、「機会があれば参加したい」が48.6%と最も多く、以下、「参加したい（すでに参加している）」(18.4%)、「参加したくない」(6.7%)となっています。
- 「桑折町SDGs推進町民会議」の認知度については、「知らなかった」が61.3%と最も多く、以下、「言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」(26.9%)、「意味（内容）まで知っている」(11.1%)となっています。

- 桑折町 SDG s 推進町民会議の取り組みについて、〈①町全体として重点的に取り組むべき〉については、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が 76.8%となっています。一方、「どちらかといえばそうは思わない」又は「そう思わない」は 6.1%となっています。
- また、〈②あなた自身が取り組みに参加したい〉については、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が 56.9%となっています。一方、「どちらかといえばそうは思わない」又は「そう思わない」は 16.5%となっています。

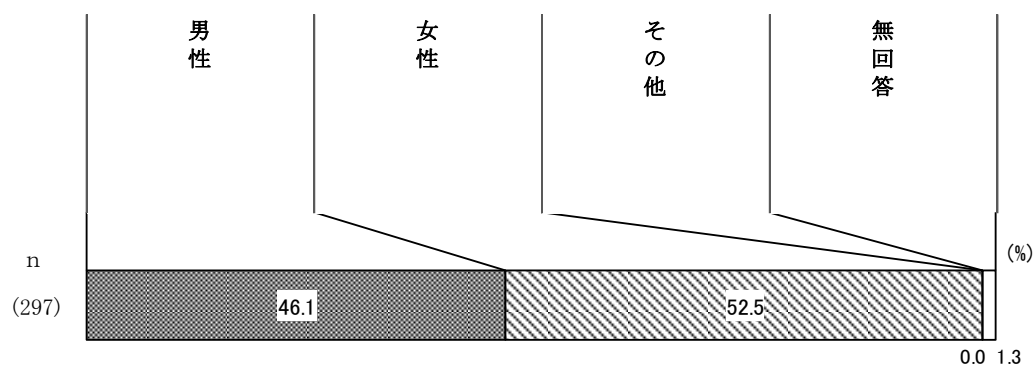
(14) 行政の役割にについて

- 男女共同参画社会実現のため行政に望むことについては、「育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える」が 55.6%と最も多く、以下、「子育て支援の施策を充実する」(48.5%)、「企業主など雇う側が女性差別をしないよう働きかけをする」(28.3%) となっています。

Ⅱ. 調査結果の詳細

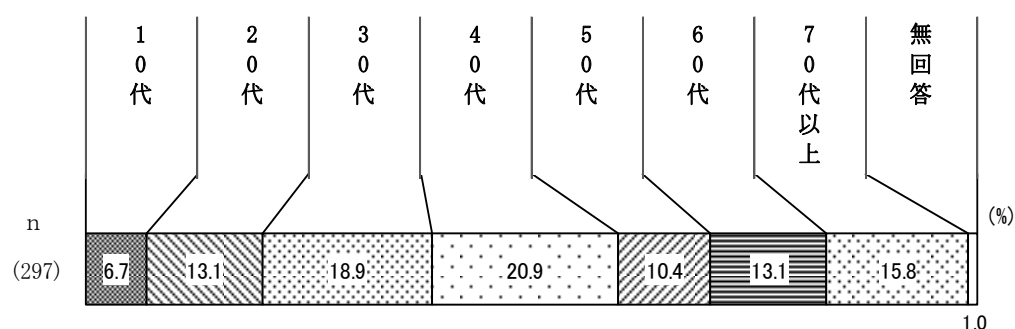
1. 回答者の属性

(1) 性別（自認する性）



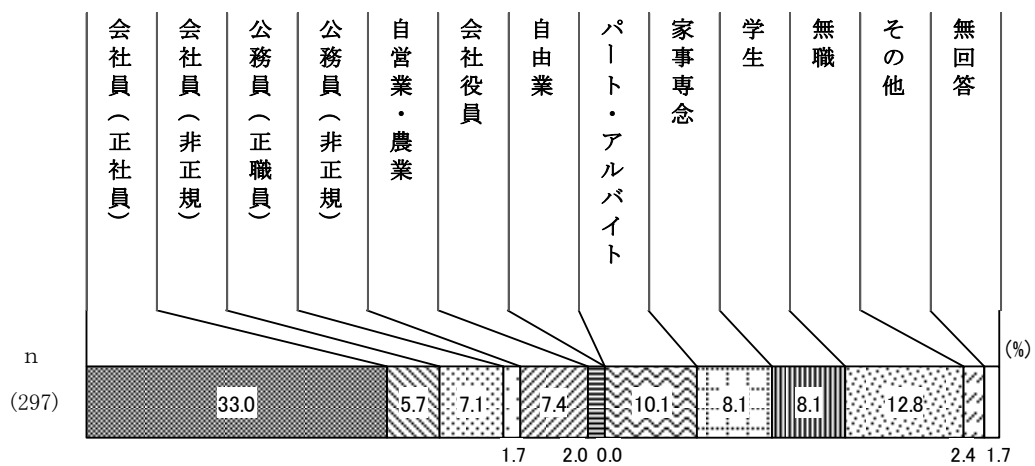
性別については、「男性」が46.1%、「女性」が52.5%となっています。

(2) 年齢



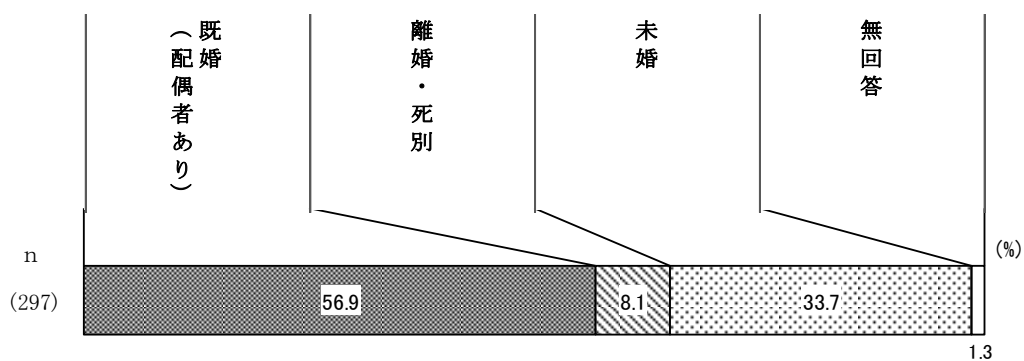
年齢については、「40代」が20.9%と最も多く、以下、「30代」(18.9%)、「70代以上」(15.8%)となっています。

(3) 職業



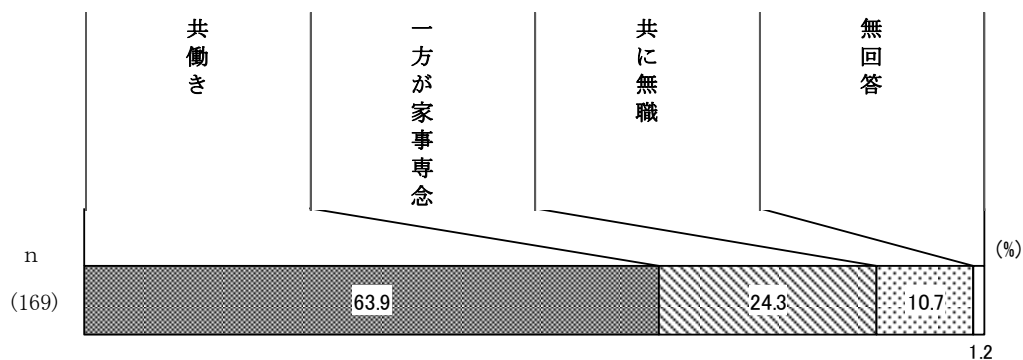
主たる職業については、「会社員（正社員）」が33.0%と最も多く、以下、「無職」（12.8%）、「パート・アルバイト」（10.1%）となっています。

(4) 婚姻の状況



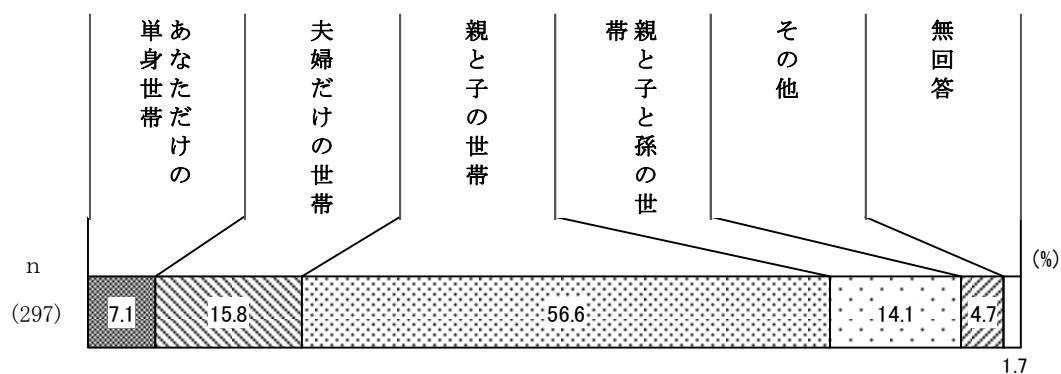
婚姻の状況については、「既婚（配偶者あり）」が56.9%と最も多く、以下、「未婚」（33.7%）、「離婚・死別」（8.1%）となっています。

(5) 共働きの状況



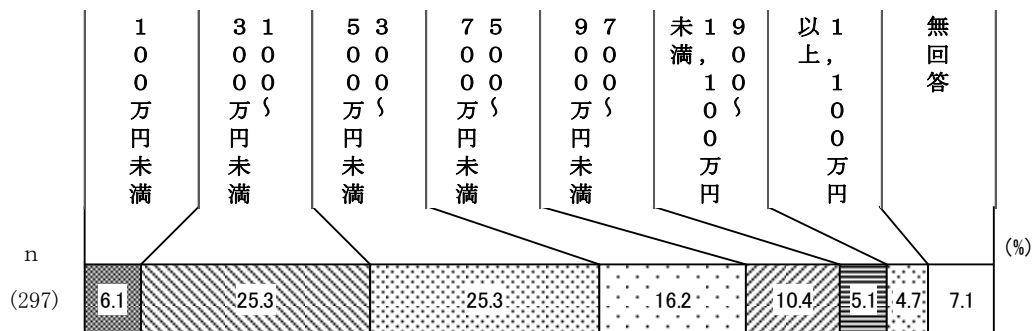
共働きの状況については、「共働き」が63.9%と最も多く、以下、「一方が家事専念」(24.3%)、「共に無職」(10.7%)となっています。

(6) 同居の状況



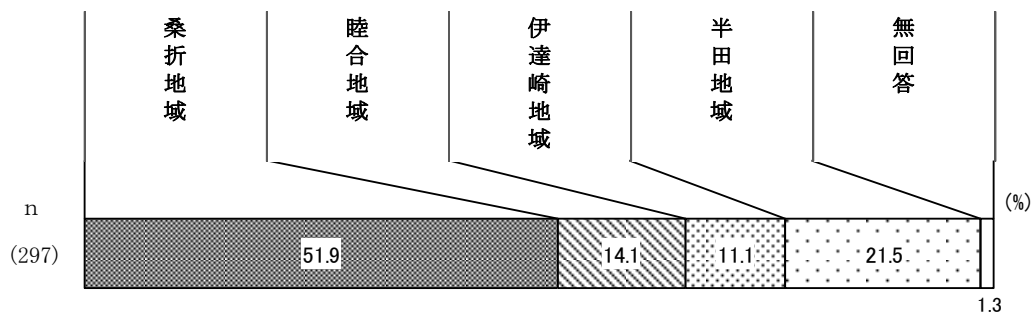
同居の状況については、「親と子の世帯」が56.6%と最も多く、以下、「夫婦だけの世帯」(15.8%)、「親と子と孫の世帯」(4.7%)となっています。

(7) 世帯の収入



世帯の収入については、「100～300万円未満」と「300～500万円未満」がともに25.3%と最も多く、以下、「500～700万円未満」(16.2%)、「700～900万円未満」(10.4%)となっています。

(8) 現在の居住地



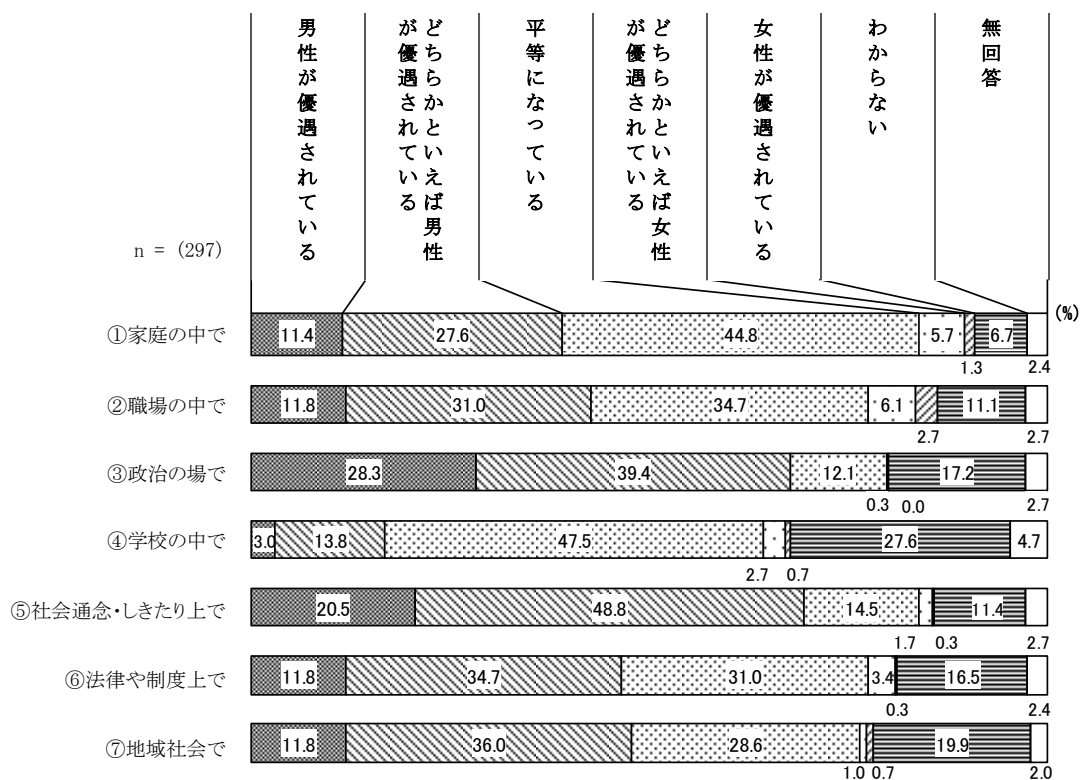
現在の居住地については、「桑折地域」が51.9%と最も多く、以下、「半田地区」(21.5%)、「睦合地区」(14.1%)、「伊達崎地区」(11.1%)となっています。

2. 男女平等について

(1) 男女平等について

問2 次の各分野で男女が平等になっていると思いますか。

それぞれの項目で1～6の中から1つだけ選んで○をしてください。



各分野での男女平等の意識について、「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合を比べると、〈⑤社会通念・しきたり上で〉が69.3%と最も多く、以下、〈③政治の場で〉が67.7%となっています。また、〈⑦地域社会で〉は47.8%、〈⑥法律や制度上で〉は46.5%、〈②職場の中で〉は42.8%と、いずれも4割を超えています。一方、「平等になっている」と回答した割合を比べると、〈④学校の中で〉が47.5%と最も多く、以下、〈①家庭の中で〉が44.8%となっています。

《問2 ①家庭の中で》

〈①家庭の中で〉について男女別にみると、『女性』では「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」が46.2%と、『男性』に比べ多く、「平等になっている」(40.4%) よりも多くなっています。

年代別でみると、「平等になっている」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【①家庭の中で/男女別/年代別】

		調査数	男性が優遇されている	男性が優遇されている	平等になっている	男性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答
全 体		297 100.0	34 11.4	82 27.6	133 44.8	17 5.7	4 1.3	20 6.7	7 2.4
男女別	男性	137 100.0	13 9.5	31 22.6	68 49.6	10 7.3	2 1.5	9 6.6	4 2.9
	女性	156 100.0	21 13.5	51 32.7	63 40.4	7 4.5	2 1.3	11 7.1	1 0.6
年代別	20代以下	59 100.0	2 3.4	14 23.7	35 59.3	3 5.1	2 3.4	3 5.1	0 0.0
	30～50代	149 100.0	21 14.1	39 26.2	67 45.0	11 7.4	2 1.3	8 5.4	1 0.7
	60代以上	86 100.0	11 12.8	29 33.7	30 34.9	3 3.5	0 0.0	9 10.5	4 4.7

上段：件数、下段：%

《問2 ②職場の中で》

〈②職場の中で〉について男女別にみると、男女ともに「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が、「平等になっている」と比べ多くなっています。

年代別でみると、「平等になっている」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【②職場の中で/男女別/年代別】

		調査数	男性が優遇されている	男性が優遇されている	平等になっている	男性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答
全 体		297 100.0	35 11.8	92 31.0	103 34.7	18 6.1	8 2.7	33 11.1	8 2.7
男女別	男性	137 100.0	15 10.9	38 27.7	51 37.2	10 7.3	6 4.4	13 9.5	4 2.9
	女性	156 100.0	19 12.2	53 34.0	52 33.3	8 5.1	2 1.3	20 12.8	2 1.3
年代別	20代以下	59 100.0	3 5.1	12 20.3	31 52.5	2 3.4	1 1.7	9 15.3	1 1.7
	30～50代	149 100.0	19 12.8	50 33.6	51 34.2	15 10.1	7 4.7	7 4.7	0 0.0
	60代以上	86 100.0	13 15.1	29 33.7	21 24.4	1 1.2	0 0.0	17 19.8	5 5.8

上段：件数、下段：%

《問2 ③政治の中で》

〈③政治の中で〉について男女別にみると、男女ともに「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が、「平等になっている」と比べ多くなっています。

年代別でみると、「平等になっている」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【③政治の中で/男女別/年代別】

		調査数	男性が優遇されている	男性が優遇されている割合	平等になっている	男性が優遇されている割合	女性が優遇されている	わからない	無回答
全 体		297	84	117	36	1	0	51	8
		100.0	28.3	39.4	12.1	0.3	0.0	17.2	2.7
男女別	男性	137	31	58	22	1	0	21	4
		100.0	22.6	42.3	16.1	0.7	0.0	15.3	2.9
女性		156	52	58	14	0	0	30	2
		100.0	33.3	37.2	9.0	0.0	0.0	19.2	1.3
年代別	20代以下	59	16	22	9	0	0	11	1
		100.0	27.1	37.3	15.3	0.0	0.0	18.6	1.7
	30～50代	149	49	58	19	0	0	23	0
		100.0	32.9	38.9	12.8	0.0	0.0	15.4	0.0
	60代以上	86	19	36	8	1	0	17	5
		100.0	22.1	41.9	9.3	1.2	0.0	19.8	5.8

上段：件数、下段：%

《問2 ④学校の中で》

〈④学校の中で〉について男女別にみると、男女ともに「平等になっている」と回答した割合が「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と比べ多くなっています。

年代別でみると、「平等になっている」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【④学校の中で/男女別/年代別】

		調査数	男性が優遇されている	男性が優遇されている割合	平等になっている	男性が優遇されている割合	女性が優遇されている	わからない	無回答
全 体		297	9	41	141	8	2	82	14
		100.0	3.0	13.8	47.5	2.7	0.7	27.6	4.7
男女別	男性	137	3	14	71	5	2	36	6
		100.0	2.2	10.2	51.8	3.6	1.5	26.3	4.4
女性		156	5	27	69	3	0	46	6
		100.0	3.2	17.3	44.2	1.9	0.0	29.5	3.8
年代別	20代以下	59	1	7	37	3	1	9	1
		100.0	1.7	11.9	62.7	5.1	1.7	15.3	1.7
	30～50代	149	4	21	73	4	1	44	2
		100.0	2.7	14.1	49.0	2.7	0.7	29.5	1.3
	60代以上	86	4	13	30	1	0	29	9
		100.0	4.7	15.1	34.9	1.2	0.0	33.7	10.5

上段：件数、下段：%

《問2 ⑤社会通念・しきたり上で》

〈⑤社会通念・しきたり上で〉について男女別にみると、男女ともに「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した割合が、「平等になっている」と比べ多くなっています。

年代別でみると、『60代以上』では「平等になっている」が5.8%と、他の年代に比べ少なくなっています。

【⑤社会通念・しきたり上で/男女別/年代別】

		調査数	男性が優遇されている	男性が優遇されている割合	平等になっている	平等になっている割合	女性に優遇されている	女性に優遇されている割合	わからない	無回答
全 体		297 100.0	61 20.5	145 48.8	43 14.5	5 1.7	1 0.3	34 11.4	8 2.7	
男女別	男性	137 100.0	22 16.1	70 51.1	20 14.6	5 3.6	1 0.7	15 10.9	4 2.9	
	女性	156 100.0	38 24.4	74 47.4	23 14.7	0 0.0	0 0.0	19 12.2	2 1.3	
年代別	20代以下	59 100.0	10 16.9	27 45.8	16 27.1	2 3.4	0 0.0	3 5.1	1 1.7	
	30～50代	149 100.0	37 24.8	68 45.6	22 14.8	2 1.3	1 0.7	19 12.8	0 0.0	
	60代以上	86 100.0	14 16.3	49 57.0	5 5.8	1 1.2	0 0.0	12 14.0	5 5.8	

上段：件数、下段：%

《問2 ⑥法律や制度上で》

〈⑥法律や制度上で〉について男女別にみると、『女性』では「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」が55.8%と、『男性』と比べ多く、「平等になっている」(21.8%)よりも多くなっています。

年代別でみると、「平等になっている」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【⑥法律や制度上で/男女別/年代別】

		調査数	男性が優遇されている	男性が優遇されている割合	平等になっている	平等になっている割合	女性に優遇されている	女性に優遇されている割合	わからない	無回答
全 体		297 100.0	35 11.8	103 34.7	92 31.0	10 3.4	1 0.3	49 16.5	7 2.4	
男女別	男性	137 100.0	8 5.8	42 30.7	57 41.6	7 5.1	1 0.7	19 13.9	3 2.2	
	女性	156 100.0	26 16.7	61 39.1	34 21.8	3 1.9	0 0.0	30 19.2	2 1.3	
年代別	20代以下	59 100.0	5 8.5	21 35.6	23 39.0	2 3.4	0 0.0	7 11.9	1 1.7	
	30～50代	149 100.0	17 11.4	54 36.2	44 29.5	6 4.0	1 0.7	27 18.1	0 0.0	
	60代以上	86 100.0	13 15.1	28 32.6	24 27.9	2 2.3	0 0.0	15 17.4	4 4.7	

上段：件数、下段：%

《問2 ⑦地域社会で》

〈⑦地域社会で〉について男女別にみると、『女性』では「男性が優遇されている」又は「どちらかといえば男性が優遇されている」が54.5%と、『男性』と比べ多く、「平等になっている」(23.1%) よりも多くなっています。

年代別でみると、『60代以上』では、「平等になっている」が16.3%と、他の年代に比べ少なくなっています。

【⑦地域社会で/男女別/年代別】

		調査数	男性が優遇されている	どちらが優遇されている男	平等になっている	どちらが優遇されている女	女性が優遇されている	わからない	無回答
全 体		297 100.0	35 11.8	107 36.0	85 28.6	3 1.0	2 0.7	59 19.9	6 2.0
男女別	男性	137 100.0	9 6.6	47 34.3	48 35.0	3 2.2	2 1.5	25 18.2	3 2.2
	女性	156 100.0	25 16.0	60 38.5	36 23.1	0 0.0	0 0.0	34 21.8	1 0.6
年代別	20代以下	59 100.0	5 8.5	15 25.4	25 42.4	0 0.0	0 0.0	13 22.0	1 1.7
	30～50代	149 100.0	17 11.4	54 36.2	45 30.2	2 1.3	2 1.3	29 19.5	0 0.0
	60代以上	86 100.0	13 15.1	38 44.2	14 16.3	1 1.2	0 0.0	17 19.8	3 3.5

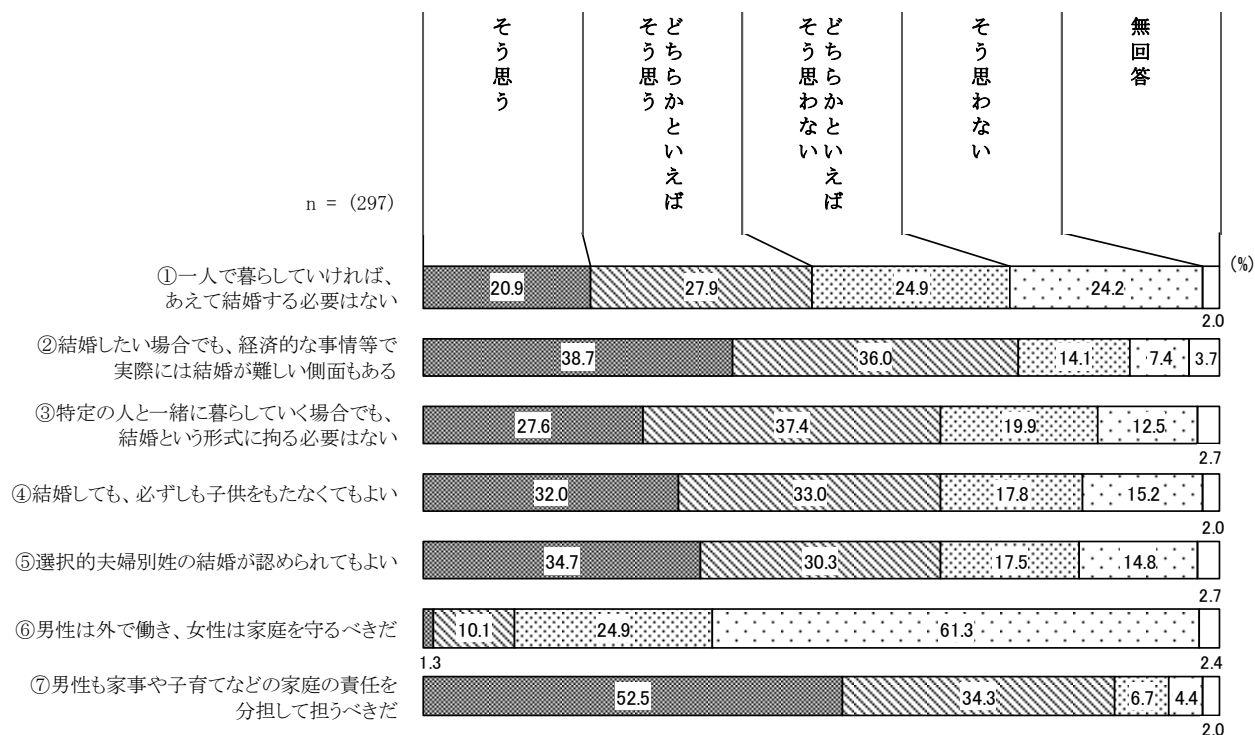
上段：件数、下段：%

3. 結婚と家庭生活について

(1) 結婚と家庭生活について

問3 次の項目について、あなたはどのように思いますか。

それぞれ1～4の中から1つだけ選んで○をしてください。



〈①一人で暮らしていければ、あえて結婚する必要はない〉という考え方では、49.1%が「どちらかといえばそうは思わない」又は「そう思わない」と回答しています。

〈②結婚したい場合でも、経済的な事情等で実際には結婚が難しい側面もある〉という考え方では、74.7%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。

〈③特定の人と一緒に暮らしていく場合でも、結婚という形式に拘る必要はない〉という考え方では、65.0%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。

〈④結婚しても、必ずしも子供をもたなくてもよい〉という考え方では、65.0%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。

〈⑤選択的夫婦別姓の結婚が認められてもよい〉という考え方では、65.0%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。

〈⑥男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ〉という考え方では、86.2%が「どちらかといえばそうは思わない」又は「そう思わない」と回答しています。

〈⑦男性も家事や子育てなどの家庭の責任を分担して担うべきだ〉という考え方では、86.8%が「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答しています。

《問3 ①一人で暮らしていければ、あえて結婚する必要はない》

〈①一人で暮らしていければ、あえて結婚する必要はない〉について男女別でみると、『女性』では、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が54.5%となっています。

年代別でみると、『30～50代』では、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が54.4%と、他の年代に比べ多くなっています。

【①一人で暮らしていければ、あえて結婚する必要はない/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう 思う か と い え ば	そ ど う 思 わ な い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
全 体		297 100.0	62 20.9	83 27.9	74 24.9	72 24.2	6 2.0
男女別	男性	137 100.0	22 16.1	37 27.0	38 27.7	38 27.7	2 1.5
	女性	156 100.0	39 25.0	46 29.5	36 23.1	33 21.2	2 1.3
年代別	20代以下	59 100.0	15 25.4	15 25.4	21 35.6	7 11.9	1 1.7
	30～50代	149 100.0	36 24.2	45 30.2	32 21.5	36 24.2	0 0.0
	60代以上	86 100.0	11 12.8	23 26.7	21 24.4	28 32.6	3 3.5

上段：件数、下段：%

《問3 ②結婚したい場合でも、経済的な事情等で実際には結婚が難しい側面もある》

〈②結婚したい場合でも、経済的な事情等で実際には結婚が難しい側面もある〉について男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別でみると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」は、年代が下がるにつれ少なくなっています。

【②結婚したい場合でも、経済的な事情等で実際には結婚が難しい側面もある/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう 思う か と い え ば	そ ど う 思 わ な い え ば	そ う 思 わ な い	無 回 答
全 体		297 100.0	115 38.7	107 36.0	42 14.1	22 7.4	11 3.7
男女別	男性	137 100.0	58 42.3	48 35.0	18 13.1	9 6.6	4 2.9
	女性	156 100.0	57 36.5	58 37.2	24 15.4	12 7.7	5 3.2
年代別	20代以下	59 100.0	27 45.8	21 35.6	9 15.3	1 1.7	1 1.7
	30～50代	149 100.0	59 39.6	55 36.9	19 12.8	14 9.4	2 1.3
	60代以上	86 100.0	29 33.7	31 36.0	14 16.3	6 7.0	6 7.0

上段：件数、下段：%

《問3 ③特定の人と一緒に暮らしていく場合でも、結婚という形式に拘る必要はない》

〈③特定の人と一緒に暮らしていく場合でも、結婚という形式に拘る必要はない〉について男女別で見ると、『女性』では「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が72.4%となっています。

年代別でみると、『60代以上』では「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」が47.7%と、他の年代に比べ多くなっています。

【③特定の人と一緒に暮らしていく場合でも、結婚という形式に拘る必要はない/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう 思う か と い え ば	そ ど う 思 わ な い え ば	そ う 思 わ な い	無回答
全 体		297 100.0	82 27.6	111 37.4	59 19.9	37 12.5	8 2.7
男女別	男性	137 100.0	35 25.5	44 32.1	33 24.1	22 16.1	3 2.2
	女性	156 100.0	47 30.1	66 42.3	25 16.0	15 9.6	3 1.9
年代別	20代以下	59 100.0	19 32.2	25 42.4	10 16.9	4 6.8	1 1.7
	30～50代	149 100.0	53 35.6	56 37.6	26 17.4	14 9.4	0 0.0
	60代以上	86 100.0	10 11.6	30 34.9	22 25.6	19 22.1	5 5.8

上段：件数、下段：%

《問3 ④結婚しても、必ずしも子供をもたなくてもよい》

〈④結婚しても、必ずしも子供をもたなくてもよい〉について男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別でみると、『60代以上』では「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」が57.0%と、他の年代に比べ多くなっています。

【④結婚しても、必ずしも子供をもたなくてもよい/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう 思う か と い え ば	そ ど う 思 わ な い え ば	そ う 思 わ な い	無回答
全 体		297 100.0	95 32.0	98 33.0	53 17.8	45 15.2	6 2.0
男女別	男性	137 100.0	34 24.8	52 38.0	23 16.8	26 19.0	2 1.5
	女性	156 100.0	61 39.1	45 28.8	30 19.2	18 11.5	2 1.3
年代別	20代以下	59 100.0	27 45.8	21 35.6	7 11.9	3 5.1	1 1.7
	30～50代	149 100.0	59 39.6	52 34.9	18 12.1	20 13.4	0 0.0
	60代以上	86 100.0	9 10.5	25 29.1	28 32.6	21 24.4	3 3.5

上段：件数、下段：%

《問3 ⑤選択的夫婦別姓の結婚が認められてもよい》

〈⑤選択的夫婦別姓の結婚が認められてもよい〉について男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別でみると、『60代以上』では、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」が53.5%と、他の年代に比べて多くなっています。

【⑤選択的夫婦別姓の結婚が認められてもよい/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう思うか といえ ば	そう 思わ ない い え ば	そう 思わ ない	無回答
全 体		297 100.0	103 34.7	90 30.3	52 17.5	44 14.8	8 2.7
男女別	男性	137 100.0	47 34.3	38 27.7	28 20.4	20 14.6	4 2.9
	女性	156 100.0	56 35.9	52 33.3	24 15.4	22 14.1	2 1.3
年代別	20代以下	59 100.0	24 40.7	21 35.6	9 15.3	4 6.8	1 1.7
	30～50代	149 100.0	65 43.6	48 32.2	22 14.8	14 9.4	0 0.0
	60代以上	86 100.0	14 16.3	21 24.4	21 24.4	25 29.1	5 5.8

上段：件数、下段：%

《問3 ⑥男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ》

〈⑥ 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ〉について男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別でみると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」は、年代が下がるにつれ少なくなっています。

【⑥男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう思うか といえ ば	そう 思わ ない い え ば	そう 思わ ない	無回答
全 体		297 100.0	4 1.3	30 10.1	74 24.9	182 61.3	7 2.4
男女別	男性	137 100.0	1 0.7	14 10.2	35 25.5	84 61.3	3 2.2
	女性	156 100.0	3 1.9	15 9.6	38 24.4	98 62.8	2 1.3
年代別	20代以下	59 100.0	1 1.7	3 5.1	20 33.9	34 57.6	1 1.7
	30～50代	149 100.0	1 0.7	15 10.1	31 20.8	102 68.5	0 0.0
	60代以上	86 100.0	2 2.3	12 14.0	22 25.6	46 53.5	4 4.7

上段：件数、下段：%

《問3 ⑦男性も家事や子育てなどの家庭の責任を分担して担うべきだ》

〈⑦男性も家事や子育てなどの家庭の責任を分担して担うべきだ〉について男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別でみると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」は、年代が下がるにつれ少なくなっています。

【⑦男性も家事や子育てなどの家庭の責任を分担して担うべきだ/男女別/年代別】

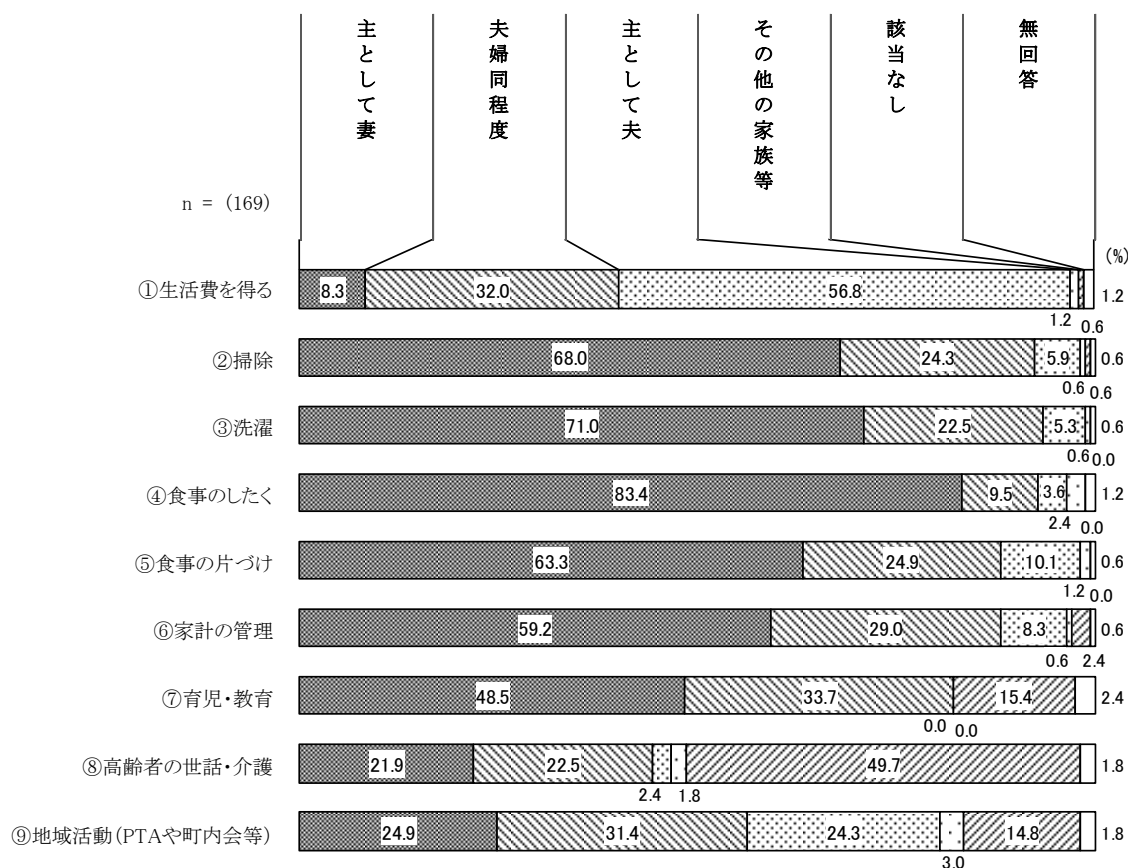
		調査数	そう思う	そう 思う か と い え ば	そ ど う ち 思 わ か な い い え ば	そう 思 わ な い	無 回 答
全 体		297 100.0	156 52.5	102 34.3	20 6.7	13 4.4	6 2.0
男女別	男性	137 100.0	61 44.5	56 40.9	7 5.1	10 7.3	3 2.2
	女性	156 100.0	95 60.9	45 28.8	12 7.7	3 1.9	1 0.6
年代別	20代以下	59 100.0	35 59.3	21 35.6	2 3.4	1 1.7	0 0.0
	30～50代	149 100.0	88 59.1	45 30.2	9 6.0	7 4.7	0 0.0
	60代以上	86 100.0	33 38.4	36 41.9	8 9.3	5 5.8	4 4.7

上段：件数、下段：%

(2) 家庭での仕事の分担

問4 既婚の方にお尋ねします。あなたの家庭では、次の項目の仕事は夫婦のうち、どちらが主に担当されていますか。

それぞれ1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。



家庭での仕事の分担について、「主として妻」が最も多くなっているのは、〈②掃除〉〈③洗濯〉〈④食事のしたく〉〈⑤食事の片づけ〉〈⑥家計の管理〉〈⑦育児・教育〉となっており、いずれも4割を超えています。

一方、〈①生活費を得る〉では、「主として夫」が56.8%と最も多く、〈⑨地域活動(PTAや町内会等)〉では「夫婦同程度」が31.4%と最も多くなっています。〈⑧高齢者の世話・介護〉では、「該当なし」を除くと、「夫婦同程度」が22.5%と最も多くなっています。

《問4 ①生活費を得る》

〈①生活費を得る〉について男女別にみると、『男性』では「主として夫」が63.3%と、最も多くなっています。

年代別でみると、「主として夫」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【①生活費を得る/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	14 8.3	54 32.0	96 56.8	2 1.2	1 0.6	2 1.2
男女別	男性	90 100.0	6 6.7	23 25.6	57 63.3	1 1.1	1 1.1	2 2.2
	女性	78 100.0	8 10.3	31 39.7	39 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年代別	20代以下	10 100.0	1 10.0	2 20.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	5 5.1	32 32.7	61 62.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60代以上	61 100.0	8 13.1	20 32.8	28 45.9	2 3.3	1 1.6	2 3.3

上段：件数、下段：%

《問4 ②掃除》

〈②掃除〉について男女別にみると、『女性』では「主として妻」が76.9%と、最も多くなっています。

年代別でみると、「夫婦同程度」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【②掃除/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	115 68.0	41 24.3	10 5.9	1 0.6	1 0.6	1 0.6
男女別	男性	90 100.0	54 60.0	25 27.8	8 8.9	1 1.1	1 1.1	1 1.1
	女性	78 100.0	60 76.9	16 20.5	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年代別	20代以下	10 100.0	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	62 63.3	27 27.6	7 7.1	1 1.0	1 1.0	0 0.0
	60代以上	61 100.0	46 75.4	11 18.0	3 4.9	0 0.0	0 0.0	1 1.6

上段：件数、下段：%

《問4 ③洗濯》

〈③洗濯〉について男女別にみると、『女性』では「主として妻」が80.8%と、最も多くなっています。
年代別でみると、「夫婦同程度」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【③選択/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	120 71.0	38 22.5	9 5.3	1 0.6	0 0.0	1 0.6
男女別	男性	90 100.0	56 62.2	25 27.8	7 7.8	1 1.1	0 0.0	1 1.1
	女性	78 100.0	63 80.8	13 16.7	2 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年代別	20代以下	10 100.0	7 70.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	64 65.3	27 27.6	6 6.1	1 1.0	0 0.0	0 0.0
	60代以上	61 100.0	49 80.3	8 13.1	3 4.9	0 0.0	0 0.0	1 1.6

上段：件数、下段：%

《問4 ④食事のしたく》

〈④食事のしたく〉について男女別にみると、男女ともに「主として妻」が83.3%となっています。
年代別でみると、どの年代も「主として妻」が最も多くなっています。

【④食事のしたく/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	141 83.4	16 9.5	6 3.6	4 2.4	0 0.0	2 1.2
男女別	男性	90 100.0	75 83.3	8 8.9	2 2.2	3 3.3	0 0.0	2 2.2
	女性	78 100.0	65 83.3	8 10.3	4 5.1	1 1.3	0 0.0	0 0.0
年代別	20代以下	10 100.0	8 80.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	80 81.6	10 10.2	4 4.1	3 3.1	0 0.0	1 1.0
	60代以上	61 100.0	53 86.9	5 8.2	1 1.6	1 1.6	0 0.0	1 1.6

上段：件数、下段：%

《問4 ⑤食事の片づけ》

〈⑤食事の片づけ〉について男女別にみると、『女性』では「主として妻」が70.5%と、最も多くなっています。

年代別でみると、「夫婦同程度」は、年代が下がるにつれ多くなっています。

【⑤食事の片づけ/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	107 63.3	42 24.9	17 10.1	2 1.2	0 0.0	1 0.6
男女別	男性	90 100.0	51 56.7	25 27.8	12 13.3	1 1.1	0 0.0	1 1.1
	女性	78 100.0	55 70.5	17 21.8	5 6.4	1 1.3	0 0.0	0 0.0
年代別	20代以下	10 100.0	5 50.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	60 61.2	27 27.6	11 11.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60代以上	61 100.0	42 68.9	10 16.4	6 9.8	2 3.3	0 0.0	1 1.6

上段：件数、下段：%

《問4 ⑥家計の管理》

〈⑥家計の管理〉について男女別にみると、『女性』では「主として妻」が64.1%と、最も多くなっています。

年代別でみると、『60代以上』では「主として妻」が62.3%と、他の年代に比べ多くなっています。

【⑥家計の管理/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	100 59.2	49 29.0	14 8.3	1 0.6	4 2.4	1 0.6
男女別	男性	90 100.0	49 54.4	31 34.4	5 5.6	1 1.1	3 3.3	1 1.1
	女性	78 100.0	50 64.1	18 23.1	9 11.5	0 0.0	1 1.3	0 0.0
年代別	20代以下	10 100.0	5 50.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	57 58.2	30 30.6	8 8.2	1 1.0	2 2.0	0 0.0
	60代以上	61 100.0	38 62.3	16 26.2	4 6.6	0 0.0	2 3.3	1 1.6

上段：件数、下段：%

《問4 ⑦育児・教育》

〈⑦育児・教育〉について男女別にみると、『女性』では「主として妻」が62.8%と、最も多くなっています。

年代別でみると、『30～50代』では「夫婦同程度」が41.8%と、他の年代に比べ多くなっています。

【⑦育児・教育/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	82 48.5	57 33.7	0 0.0	0 0.0	26 15.4	4 2.4
男女別	男性	90 100.0	32 35.6	41 45.6	0 0.0	0 0.0	14 15.6	3 3.3
	女性	78 100.0	49 62.8	16 20.5	0 0.0	0 0.0	12 15.4	1 1.3
年代別	20代以下	10 100.0	5 50.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	49 50.0	41 41.8	0 0.0	0 0.0	7 7.1	1 1.0
	60代以上	61 100.0	28 45.9	14 23.0	0 0.0	0 0.0	16 26.2	3 4.9

上段：件数、下段：%

《問4 ⑧高齢者の世話・介護》

〈⑧高齢者の世話・介護〉について男女別にみると、『女性』では「主として妻」が30.8%となっています。

年代別でみると、『60代以上』では「主として妻」が37.7%と、他の年代に比べ多くなっています。

【⑧高齢者の世話・介護/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	37 21.9	38 22.5	4 2.4	3 1.8	84 49.7	3 1.8
男女別	男性	90 100.0	12 13.3	22 24.4	4 4.4	2 2.2	47 52.2	3 3.3
	女性	78 100.0	24 30.8	16 20.5	0 0.0	1 1.3	37 47.4	0 0.0
年代別	20代以下	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	9 90.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	14 14.3	24 24.5	4 4.1	1 1.0	54 55.1	1 1.0
	60代以上	61 100.0	23 37.7	14 23.0	0 0.0	1 1.6	21 34.4	2 3.3

上段：件数、下段：%

《問4 ⑨地域活動（PTAや町内会等）》

〈⑨地域活動（PTAや町内会等）〉について男女別にみると、『男性』では「夫婦同程度」が37.8%となっています。

年代別でみると、『60代以上』では「主として夫」が37.7%と、他の年代と比べ多くなっています。

【⑨地域活動（PTAや町内会等）/男女別/年代別】

		調査数	主として妻	夫婦同程度	主として夫	その他の家族等	該当なし	無回答
全 体		169 100.0	42 24.9	53 31.4	41 24.3	5 3.0	25 14.8	3 1.8
男女別	男性	90 100.0	19 21.1	34 37.8	20 22.2	5 5.6	10 11.1	2 2.2
	女性	78 100.0	23 29.5	19 24.4	20 25.6	0 0.0	15 19.2	1 1.3
年代別	20代以下	10 100.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	6 60.0	0 0.0
	30～50代	98 100.0	31 31.6	33 33.7	17 17.3	3 3.1	14 14.3	0 0.0
	60代以上	61 100.0	11 18.0	18 29.5	23 37.7	1 1.6	5 8.2	3 4.9

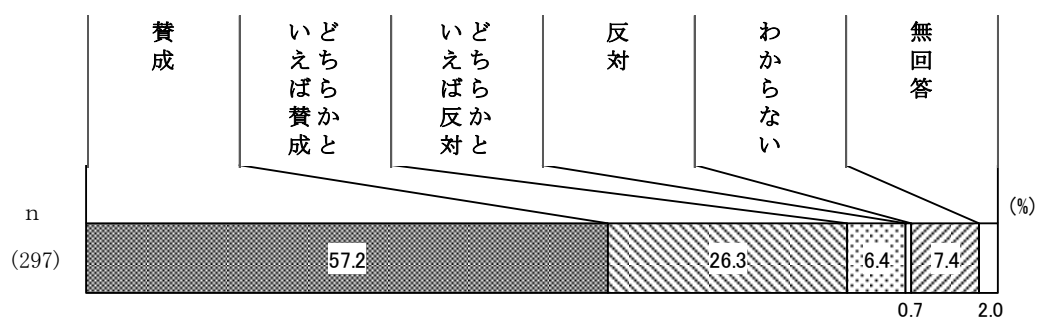
上段：件数、下段：%

4. 男性の家事・育児の参加について

(1) 男性の育児休業取得

問5 男性が育児休業を取得することについて、どう思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。



男性が育児休業を取得することについては、「賛成」が57.2%と最も多く、以下、「どちらかといえば賛成」(26.3%)、「どちらかといえば反対」(6.4%)となっています。

男女別でみると、男女ともに「賛成」又は「どちらかといえば賛成」が「どちらかといえば反対」又は「反対」と比べ多く、8割を超えています。

年代別でみると、『60代以上』では「反対」又は「どちらかといえば反対」が11.7%と、他の年代に比べ多くなっています。

【男性の育児休業取得/男女別/年代別】

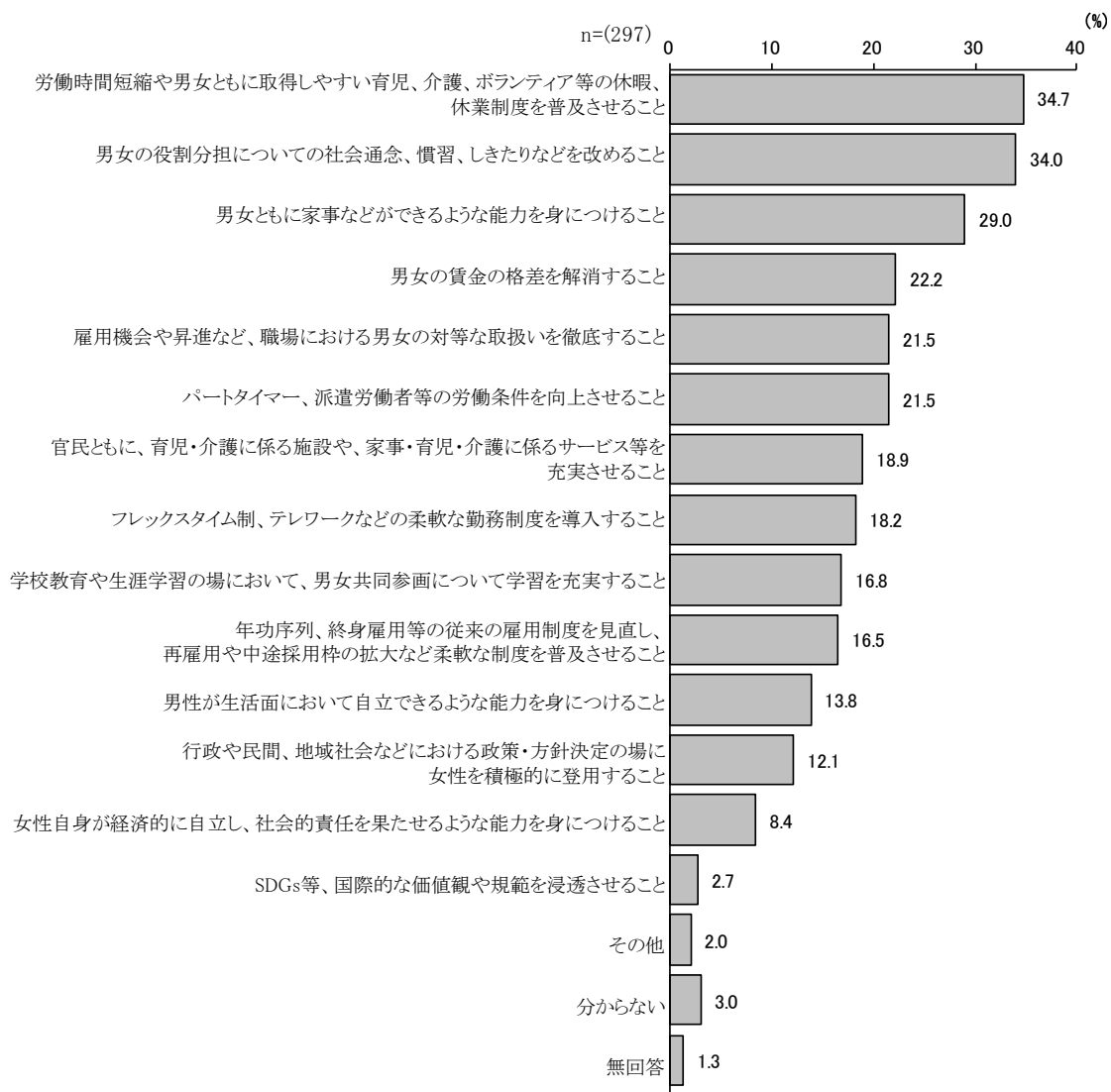
	調査数	賛成	賛成 どちらか といえ ば	反対 どちらか といえ ば	反対	わ か ら な い	無 回 答
全 体	297 100.0	170 57.2	78 26.3	19 6.4	2 0.7	22 7.4	6 2.0
男女別	男性	137 100.0	75 54.7	43 31.4	8 5.8	1 0.7	8 5.8
	女性	156 100.0	94 60.3	34 21.8	11 7.1	0 0.0	13 8.3
年代別	20代以下	59 100.0	51 86.4	6 10.2	0 0.0	1 1.7	1 1.7
	30～50代	149 100.0	90 60.4	35 23.5	10 6.7	0 0.0	11 7.4
	60代以上	86 100.0	28 32.6	36 41.9	9 10.5	1 1.2	10 11.6

上段：件数、下段：%

(2) 女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

問6 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～16の中から3つ以内で選んで○をしてください。



女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なことについては、「労働時間短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇、休業制度を普及させること」が34.7%と最も多く、以下、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりなどを改めること」(34.0%)、「男女ともに家事などができるような能力を身につけること」(29.0%)となっています。

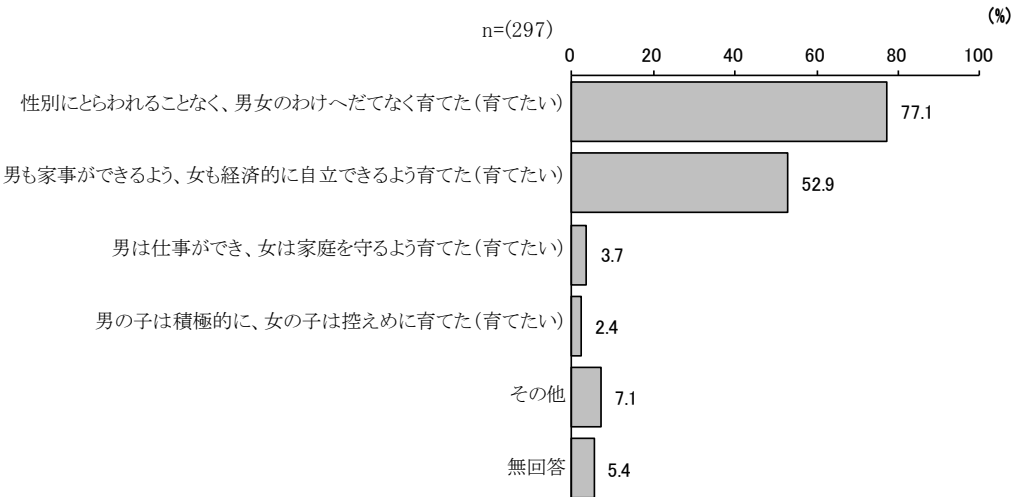
年代別でみると、『20 代以下』では「労働時間短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇、休業制度を普及させること」が 47.5%と、他の年代に比べ 10 ポイント以上多くなっています。

上段：件数、下段：%

5. 子育てについて

(1) 教育方針

問7 お子さんをどのような教育方針で育てられましたか。また、どのように育てたいと思いますか。
次の1～5の中から2つ以内で選んで○をしてください。



お子さんの教育方針については、「性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた(育てたい)」が77.1%と最も多く、以下、「男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるよう育てた(育てたい)」(52.9%)、「男は仕事ができ、女は家庭を守るよう育てた(育てたい)」(3.7%)となっています。

男女別でみると、男女ともに「性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた(育てたい)」が最も多く、7割を超えています。以下、男女ともに「男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるよう育てた(育てたい)」が4割を超えています。

年代別でみると、『20代以下』では「性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた(育てたい)」が91.5%、『60代以上』では「男は仕事ができ、女は家庭を守るよう育てた(育てたい)」が8.1%と、他の年代に比べ多くなっています。

【教育方針/男女別/年代別】

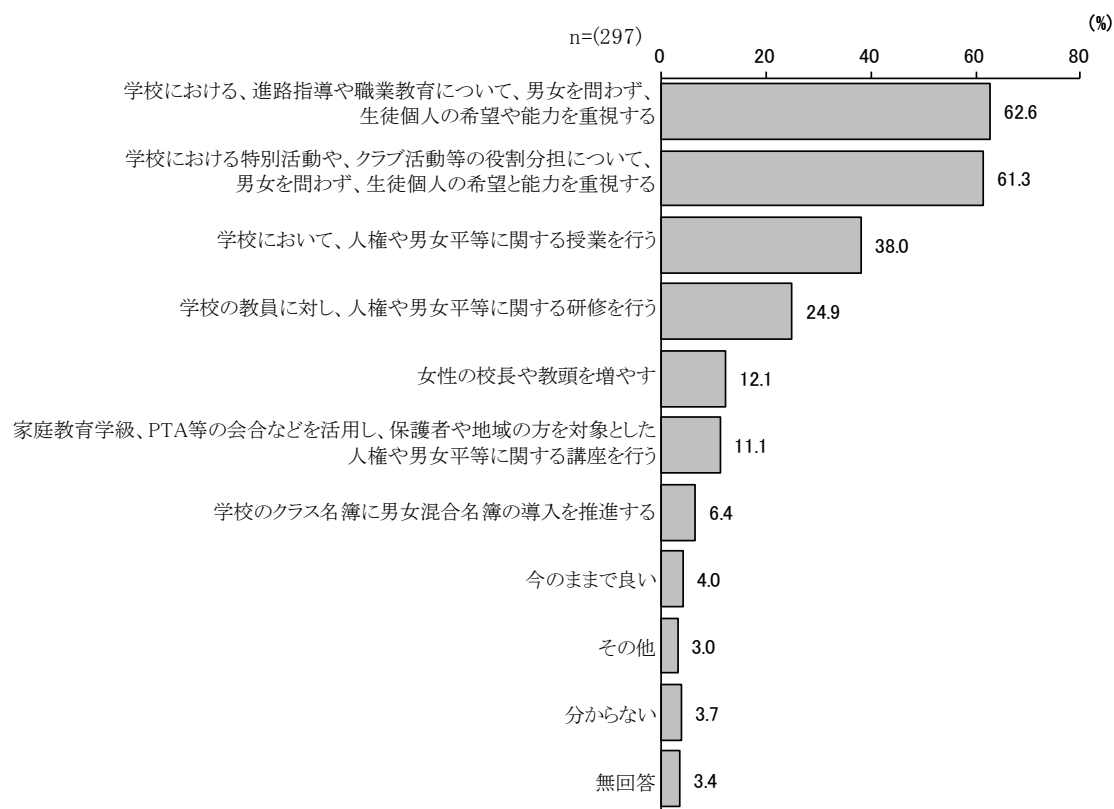
		調査数	性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた(育てたい)	男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるよう育てた(育てたい)	男は仕事ができ、女は家庭を守るよう育てた(育てたい)	男の子は積極的に、女の子は控えめに育てた(育てたい)	その他	無回答
全体		297	229	157	7	11	21	16
		100.0	77.1	52.9	2.4	3.7	7.1	5.4
男女別	男性	137	109	65	5	4	10	5
		100.0	79.6	47.4	3.6	2.9	7.3	3.6
男女別	女性	156	118	90	2	6	10	11
		100.0	75.6	57.7	1.3	3.8	6.4	7.1
年代別	20代以下	59	54	38	1	1	3	0
		100.0	91.5	64.4	1.7	1.7	5.1	0.0
	30～50代	149	109	73	3	3	9	9
		100.0	73.2	49.0	2.0	2.0	6.0	6.0
年代別	60代以上	86	64	44	3	7	8	7
		100.0	74.4	51.2	3.5	8.1	9.3	8.1

上段：件数、下段：%

(2) 人権や男女平等意識の育成を重視した教育に必要なこと

問8 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～10の中から3つ以内で選んで○をしてください。



人権や男女平等意識の育成を重視した教育に必要なことについては、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望や能力を重視する」が62.6%と最も多く、以下、「学校における特別活動や、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」(61.3%)、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行う」(38.0%)となっています。

男女別でみると、男女ともに「学校における特別活動や、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」が多く、ともに6割を超えています。以下、「学校において、人権や男女平等に関する授業を行う」が3割を超えています。

年代別でみると、『20代以下』では「学校における特別活動や、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する」が76.3%、『30～50代』では「女性の校長や教頭を増やす」が14.8%、『60代以上』では「今のままで良い」が9.3%と、それぞれ他の年代に比べ多くなっています。

【人権や男女平等意識の育成を重視した教育に必要なこと/男女別/年代別】

		調査数	生徒個人の希望と能力を重視する	学校の役割分担について、特別活動や、クラブ活動等	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや	学校における、進路指導や職業教育の希望にや
全 体		297 100.0	182 61.3	186 62.6	113 38.0	19 6.4	33 11.1	74 24.9	36 12.1	12 4.0	9 3.0	11 3.7	10 3.4
男女別	男性	137 100.0	85 62.0	90 65.7	49 35.8	11 8.0	12 8.8	39 28.5	20 14.6	5 3.6	5 3.6	3 2.2	3 2.2
	女性	156 100.0	95 60.9	96 61.5	61 39.1	8 5.1	20 12.8	33 21.2	16 10.3	6 3.8	4 2.6	7 4.5	7 4.5
年代別	20代以下	59 100.0	45 76.3	39 66.1	25 42.4	6 10.2	5 8.5	16 27.1	8 13.6	2 3.4	1 1.7	1 1.7	0 0.0
	30～50代	149 100.0	84 56.4	91 61.1	55 36.9	12 8.1	16 10.7	38 25.5	22 14.8	2 1.3	4 2.7	4 2.7	6 4.0
	60代以上	86 100.0	52 60.5	56 65.1	31 36.0	1 1.2	11 12.8	18 20.9	6 7.0	8 9.3	4 4.7	5 5.8	4 4.7

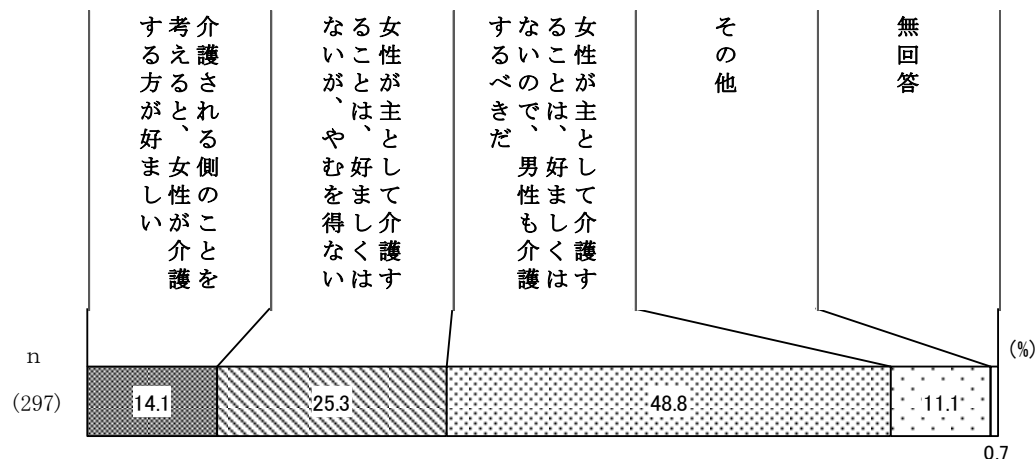
上段：件数、下段：%

6. 介護について

(1) 介護を主として女性が担うことについて

問9 家庭における高齢者等の介護を主として女性が担うことについてどう思いますか。

次の1～4の中からあなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○をしてください。



介護を主として女性が担うことについては、「女性が主として介護することは、好ましくはないので、男性も介護するべきだ」が48.8%と最も多く、以下、「女性が主として介護することは、好ましくはないが、やむを得ない」(25.3%)、「介護される側のことを考えると、女性が介護する方が好ましい」(14.1%)となっています。

男女別でみると、男女ともに「女性が主として介護することは、好ましくはないので、男性も介護するべきだ」が最も多くなっています。

年代別でみると、『30～50代』では「女性が主として介護することは、好ましくはないので、男性も介護するべきだ」が53.0%、『60代以上』では「介護される側のことを考えると、女性が介護する方が好ましい」が22.1%と、それぞれ他の年代に比べ多くなっています。

【介護を主として女性が担うことについて/男女別/年代別】

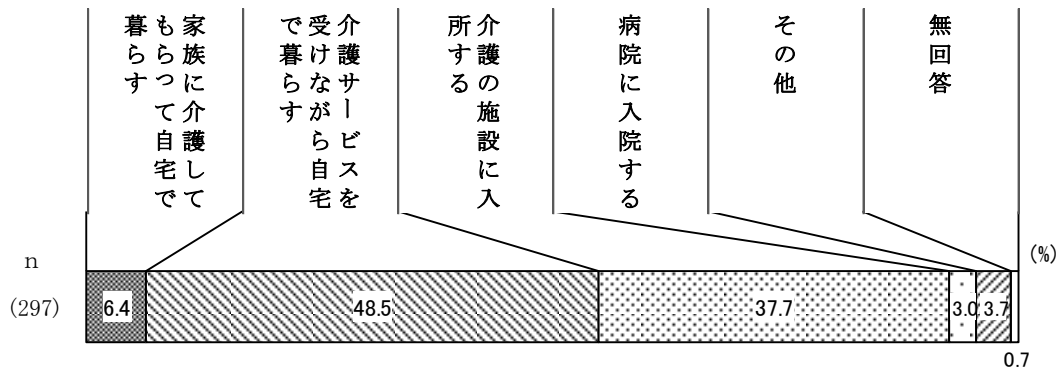
	調査数	好ましく、女性が側を介護することを考える	やむを得ないが、女性も介護すべきだ	女性も介護すべきだ	その他	無回答
全 体	297 100.0	42 14.1	75 25.3	145 48.8	33 11.1	2 0.7
男女別	男性	137 100.0	25 18.2	38 27.7	63 46.0	10 7.3
	女性	156 100.0	17 10.9	36 23.1	79 50.6	23 14.7
年代別	20代以下	59 100.0	8 13.6	12 20.3	31 52.5	8 13.6
	30～50代	149 100.0	15 10.1	39 26.2	79 53.0	15 10.1
	60代以上	86 100.0	19 22.1	24 27.9	32 37.2	10 11.6

上段：件数、下段：%

(2) 援助や介護が必要になったら

問10 あなたが、もし、援助や介護が必要になったら、どうしたいと思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。



援助や介護が必要になったら、どうしたいと思うかについては、「介護サービスを受けながら自宅で暮らす」が48.5%と最も多く、以下、「介護の施設に入所する」(37.7%)、「家族に介護してもらって自宅で暮らす」(6.4%)となっています。

男女別でみると、男女ともに「介護サービスを受けながら自宅で暮らす」が最も多くなっています。

年代別でみると、『30～50代』では「介護の施設に入所する」が43.0%、『60代以上』では「家族に介護してもらって自宅で暮らす」が12.8%と、他の年代に比べ多くなっています。

【援助や介護が必要になったら/男女別/年代別】

		調査数	家族に介護してもらって暮らす	介護サービスを受けながら自宅で暮らす	介護の施設に入所する	病院に入院する	その他	無回答
全 体		297	19	144	112	9	11	2
		100.0	6.4	48.5	37.7	3.0	3.7	0.7
男女別	男性	137	11	61	50	7	6	2
		100.0	8.0	44.5	36.5	5.1	4.4	1.5
女性		156	6	82	61	2	5	0
		100.0	3.8	52.6	39.1	1.3	3.2	0.0
年代別	20代以下	59	4	31	19	1	4	0
		100.0	6.8	52.5	32.2	1.7	6.8	0.0
	30～50代	149	3	70	64	7	5	0
		100.0	2.0	47.0	43.0	4.7	3.4	0.0
	60代以上	86	11	42	28	1	2	2
		100.0	12.8	48.8	32.6	1.2	2.3	2.3

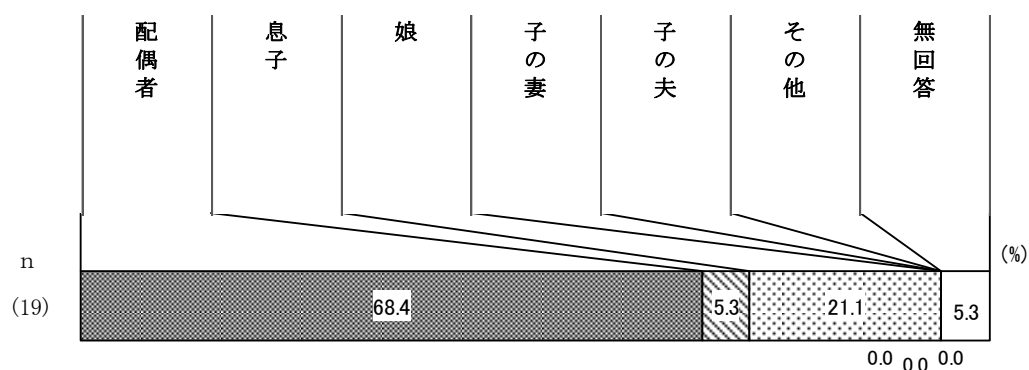
上段：件数、下段：%

(3) 誰に介護してもらいたいのか

* 問 10 で 1 「家族に介護してもらって自宅で暮らす」と答えた方にお聞きします。

問 11 あなたは、家族、親族のどなたに介護してもらいたいですか。

次の 1～6 の中から 1 つだけ選んで○をしてください。

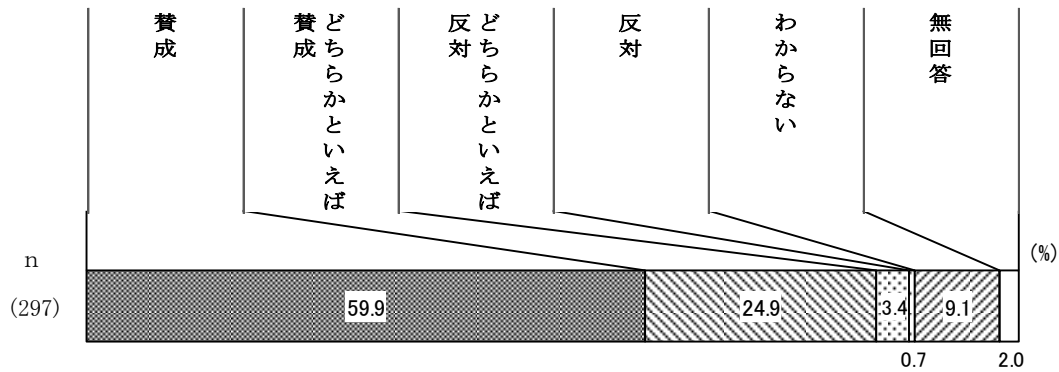


家族、親族のどなたに介護してもらいたいかについては、「配偶者」が 68.4%と最も多く、以下、「娘」(21.1%)、「息子」(5.3%) となっています。

(4) 男性の介護休業取得

問 12 男性が介護休業を取得することについて、どう思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。



男性が介護休業を取得することについては、「賛成」が59.9%と最も多く、以下、「どちらかといえば賛成」(24.9%)、「どちらかといえば反対」(3.4%)となっています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、『20代以下』では「どちらかといえば反対」又は「反対」と回答した人はいません。

【男性の介護休業取得/男女別/年代別】

		調査数	賛成	賛成どちらかといえば	反対どちらかといえば	反対	わからない	無回答
全 体		297 100.0	178 59.9	74 24.9	10 3.4	2 0.7	27 9.1	6 2.0
男女別	男性	137 100.0	82 59.9	36 26.3	4 2.9	0 0.0	12 8.8	3 2.2
	女性	156 100.0	95 60.9	37 23.7	6 3.8	1 0.6	14 9.0	3 1.9
年代別	20代以下	59 100.0	47 79.7	8 13.6	0 0.0	0 0.0	2 3.4	2 3.4
	30～50代	149 100.0	96 64.4	35 23.5	5 3.4	0 0.0	11 7.4	2 1.3
	60代以上	86 100.0	34 39.5	30 34.9	5 5.8	1 1.2	14 16.3	2 2.3

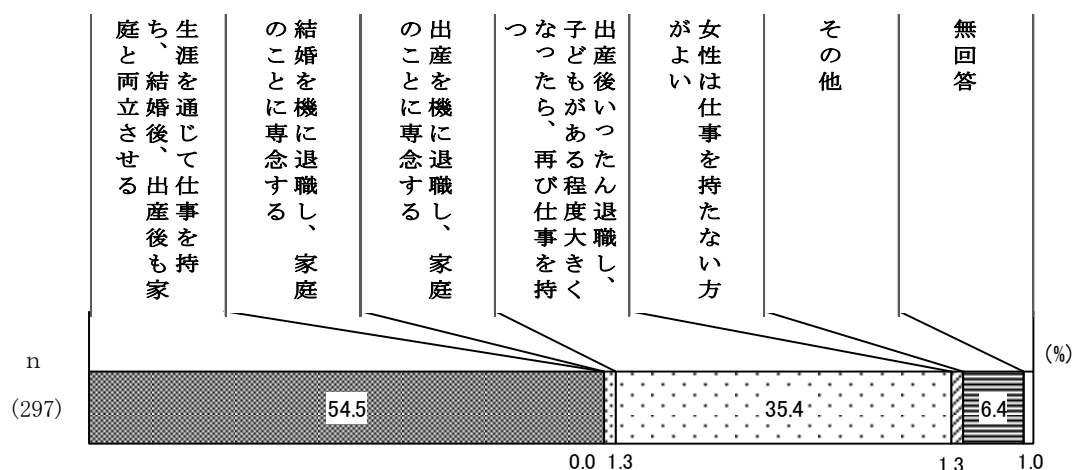
上段：件数、下段：%

7. 就労について

(1) 望ましい女性の就労

問 13 女性の就労について、どれが望ましいと思いますか。

次の1～6の中からあなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○をしてください。



望ましい女性の就労については、「生涯を通じて仕事を持ち、結婚後、出産後も家庭と両立させる」が54.5%と最も多く、以下、「出産後いったん退職し、子どもがある程度大きくなったら、再び仕事を持つ」(35.4%)、「出産を機に退職し、家庭のことに専念する」「女性には仕事を持たない方がよい」(ともに1.3%)となっています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、『60代以上』では「出産後いったん退職し、子どもがある程度大きくなったら、再び仕事を持つ」が43.0%と、他の年代に比べ多くなっています。

【望ましい女性の就労/男女別/年代別】

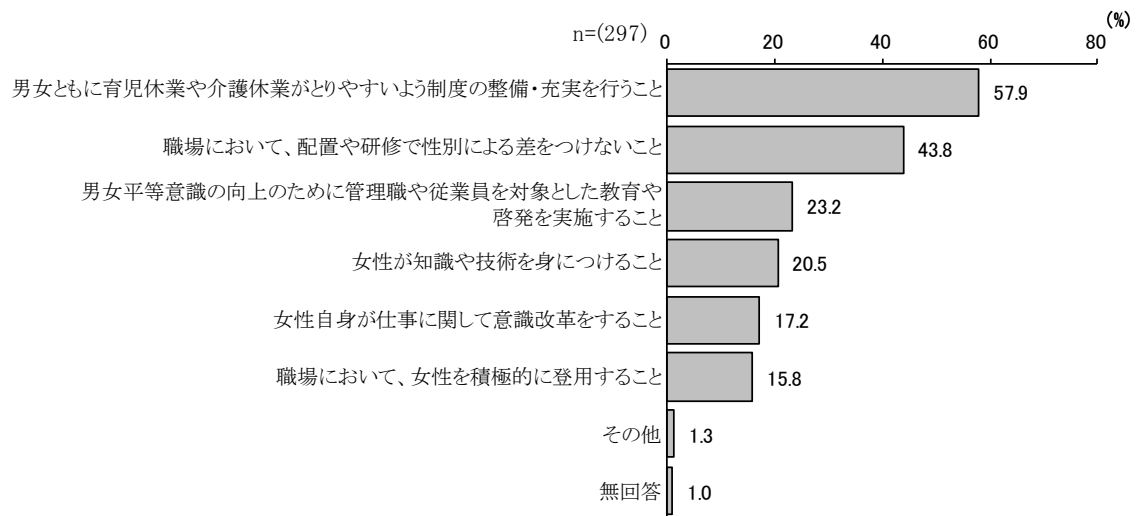
		調 査 数	生 涯 を 通 じ て 仕 事 を 持 ち 、 結 婚 後 、 出 産 後 も 家 庭 と 両 立 さ せ る	結 婚 を 機 に 退 職 し 、 家 庭 の こ と に 専 念 す る	出 産 を 機 に 退 職 し 、 家 庭 の こ と に 専 念 す る	出 産 後 い っ た ん 退 職 し 、 子 ども が あ る 程 度 大 き く な っ た ら 、 再 び 仕 事 を 持 つ	女 性 は 仕 事 を 持 た な い 方 が よ い	そ の 他	無 回 答
全 体		297 100.0	162 54.5	0 0.0	4 1.3	105 35.4	4 1.3	19 6.4	3 1.0
男女別	男性	137 100.0	72 52.6	0 0.0	2 1.5	51 37.2	2 1.5	8 5.8	2 1.5
	女性	156 100.0	89 57.1	0 0.0	2 1.3	53 34.0	1 0.6	10 6.4	1 0.6
年代別	20代以下	59 100.0	35 59.3	0 0.0	0 0.0	20 33.9	0 0.0	4 6.8	0 0.0
	30～50代	149 100.0	88 59.1	0 0.0	1 0.7	47 31.5	1 0.7	12 8.1	0 0.0
	60代以上	86 100.0	39 45.3	0 0.0	3 3.5	37 43.0	2 2.3	2 2.3	3 3.5

上段：件数、下段：%

(2) 職場での女性の地位向上に必要なこと

問 14 職場での女性の地位向上のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～7の中からあなたの考えに近いものを2つ以内で選んで○をしてください。



職場での女性の地位向上のために必要なことについては、「男女ともに育児休業や介護休業がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと」が57.9%と最も多く、以下、「職場において、配置や研修で性別による差をつけないこと」(43.8%)、「男女平等意識の向上のために管理職や従業員を対象とした教育や啓発を実施すること」(23.2%)となっています。

男女別にみると、『女性』では「男女ともに育児休業や介護休業がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと」が51.8%と、『男性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『30～50代』では「職場において、配置や研修で性別による差をつけないこと」が30.9%と、他の年代に比べ20ポイント以上少なくなっています。

【職場での女性の地位向上に必要なこと/男女別/年代別】

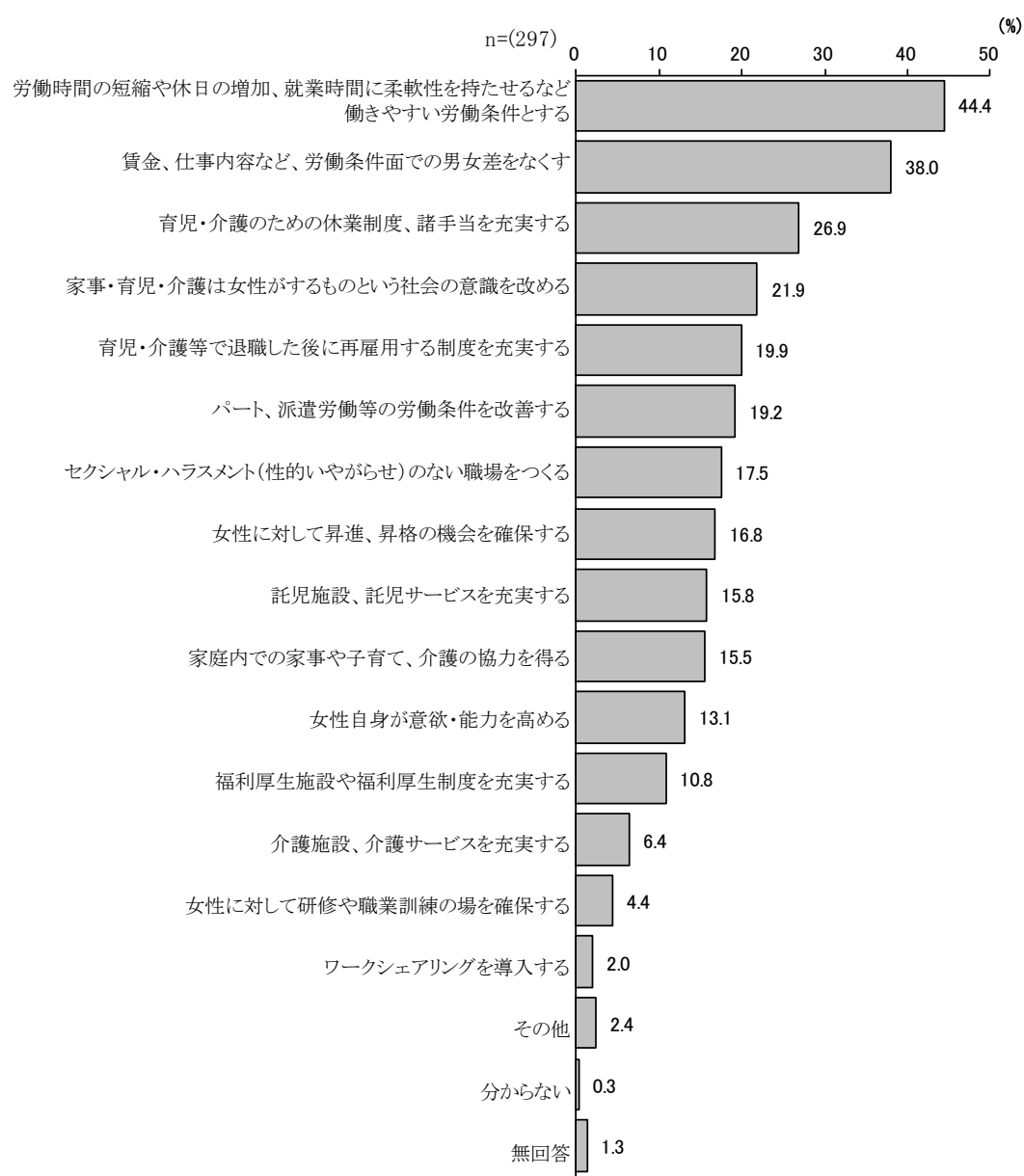
		調査数	職場に 登用する こと、 女性を 積極的 に	性別に よる差 を、 配置 や研 修で	女性 が知 識や 技術 を身 につ け	女性 が自 身の 仕事 に関 して 意 識	管理職 や従業 員を対 象とし て	男女 平等意 識の向 上を促 すこと に	業務充 実や育 児休業 の制度 の整備	その他	無回答
全 体		297	47	130	61	51	69	172	4	3	
		100.0	15.8	43.8	20.5	17.2	23.2	57.9	1.3	1.0	
男女別	男性	137	30	61	31	26	28	71	1	2	
		100.0	21.9	44.5	22.6	19.0	20.4	51.8	0.7	1.5	
	女性	156	17	68	29	24	40	100	3	0	
		100.0	10.9	43.6	18.6	15.4	25.6	64.1	1.9	0.0	
年代別	20代以下	59	9	36	7	5	15	37	0	1	
		100.0	15.3	61.0	11.9	8.5	25.4	62.7	0.0	1.7	
	30～50代	149	31	46	38	26	31	91	2	0	
		100.0	20.8	30.9	25.5	17.4	20.8	61.1	1.3	0.0	
	60代以上	86	7	47	16	20	22	43	2	1	
		100.0	8.1	54.7	18.6	23.3	25.6	50.0	2.3	1.2	

上段：件数、下段：%

(3) 女性が働きつづけるために必要なこと

問 15 女性が働きつづけるために必要なことは何だと思いませんか。

次の1～17の中からあなたの考えに近いものを3つ以内で選んで○をしてください。



女性が働きつづけるために必要なことについては、「労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど働きやすい労働条件とする」が44.4%と最も多く、以下、「賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす」(38.0%)、「育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する」(26.9%)となっています。

男女別にみると、『女性』では「育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する」が26.3%と、『男性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『20代以下』では「セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）のない職場をつくる」が27.1%と、他の年代に比べ多くなっています。

【女性が働きつづけるために必要なこと/男女別/年代別】

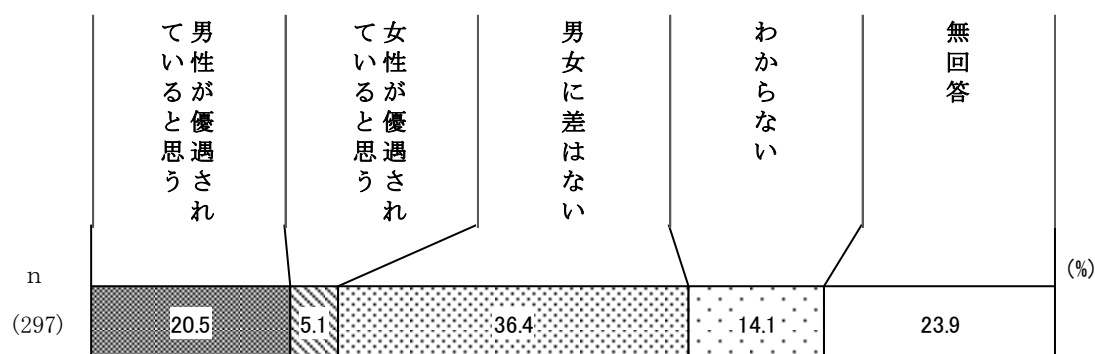
		調査数	賃金、仕事内容など、労働条件を改善する	パート、派遣労働等の労働条件を改善する	就業時間の短縮や休日の増加、働きやすい労働条件とする	ワークシェアリングを導入する	セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）のない職場をつくる	女性に対して研修や職業訓練の場を確保する	女性に対して昇進、昇格の機会を確保する	女性自身が意欲・能力を高める	育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する	福利厚生施設や福利厚生制度を充実する	託児施設、託児サービスを充実する	介護施設、介護サービスを充実する	育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する	家庭内での家事や子育て、介護の協力を得る	家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める	その他	分からない	無回答
全 体		297 100.0	113 38.0	57 19.2	132 44.4	6 2.0	52 17.5	13 4.4	50 16.8	39 13.1	80 26.9	32 10.8	47 15.8	19 6.4	59 19.9	46 15.5	65 21.9	7 2.4	1 0.3	4 1.3
男女別	男性	137 100.0	71 51.8	27 19.7	50 36.5	3 2.2	23 16.8	8 5.8	22 16.1	19 13.9	33 24.1	15 10.9	23 16.8	7 5.1	17 12.4	21 15.3	26 19.0	3 2.2	0 0.0	3 2.2
	女性	156 100.0	41 26.3	30 19.2	80 51.3	3 1.9	28 17.9	5 3.2	27 17.3	20 12.8	47 30.1	17 10.9	24 15.4	12 7.7	41 26.3	25 16.0	39 25.0	4 2.6	0 0.0	0 0.0
年代別	20代以下	59 100.0	27 45.8	8 13.6	21 35.6	3 5.1	16 27.1	0 0.0	12 20.3	5 8.5	17 28.8	7 11.9	6 10.2	1 1.7	10 16.9	12 20.3	12 20.3	1 1.7	0 0.0	1 1.7
	30～50代	149 100.0	54 36.2	30 20.1	72 48.3	2 1.3	25 16.8	6 4.0	26 17.4	23 15.4	35 23.5	14 9.4	27 18.1	11 7.4	30 20.1	22 14.8	32 21.5	5 3.4	0 0.0	0 0.0
	60代以上	86 100.0	31 36.0	19 22.1	38 44.2	1 1.2	10 11.6	7 8.1	12 14.0	11 12.8	28 32.6	11 12.8	14 16.3	7 8.1	19 22.1	12 14.0	21 24.4	1 1.2	0 0.0	2 2.3

上段：件数、下段：%

(4) 仕事の内容や接遇面における男女差

問 16 現在働いている方にお尋ねします。あなたの現在の職場で、仕事の内容や接遇面において、男女で差があると思いますか。

次の1～4の中から1つだけ選んで○をしてください。



仕事の内容や接遇面における男女差については、「男女に差はない」が36.4%と最も多く、以下、「男性が優遇されていると思う」(20.5%)、「女性が優遇されていると思う」(5.1%)となっています。

男女別にみると、『女性』では「男女に差はない」が40.4%と、『男性』に比べ5ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『30～50代』では「男性が優遇されていると思う」が30.2%と、他の年代に比べ多くなっています。

【仕事の内容や接遇面における男女差/男女別/年代別】

		調査数	男性が 優遇 されて いる	女性が 優遇 されて いる	男女に 差は ない	わ か ら な い	無 回 答
全 体		297	61	15	108	42	71
		100.0	20.5	5.1	36.4	14.1	23.9
男女別	男性	137	30	10	45	23	29
		100.0	21.9	7.3	32.8	16.8	21.2
女性		156	31	5	63	17	40
		100.0	19.9	3.2	40.4	10.9	25.6
年代別	20代以下	59	10	3	21	11	14
		100.0	16.9	5.1	35.6	18.6	23.7
	30～50代	149	45	12	65	20	7
		100.0	30.2	8.1	43.6	13.4	4.7
	60代以上	86	6	0	22	10	48
		100.0	7.0	0.0	25.6	11.6	55.8

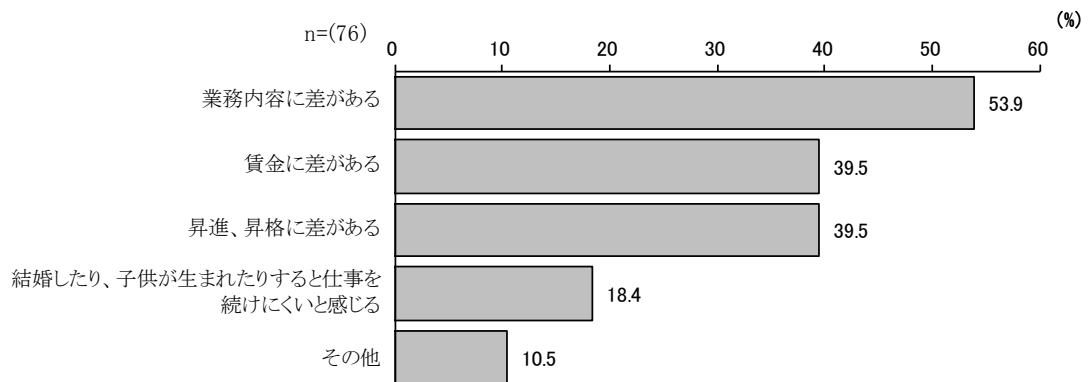
上段：件数、下段：%

(5) 具体的な事例

* 問 16 で 1 または 2 「(男性・女性が) 優遇されていると思う」と答えた方にお聞きします

問 17 それは具体的にどのようなことですか。

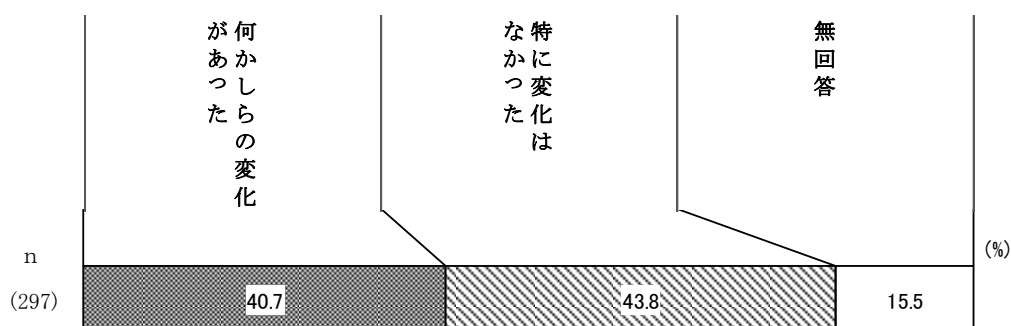
次の 1～5 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



仕事の内容や接遇面においての具体的な事例については、「業務内容に差がある」が 53.9%と最も多く、以下、「賃金に差がある」「昇進、昇格に差がある」（ともに 39.5%）となっています。

(6) 新型コロナウイルス感染症の拡大による、働き方や仕事内容の変化

問 18 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、あなたの働き方や仕事内容に変化はありましたか。
次の1～2の中から1つだけ選んで○をしてください。



新型コロナウイルス感染症の拡大による、働き方や仕事内容の変化については、「特に変化はなかった」が43.8%、「何かしらの変化があった」が40.7%となっています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、『30～50代』では「何かしらの変化があった」が51.0%と、他の年代に比べ多くなっています。

【新型コロナウイルス感染症の拡大による、働き方や仕事内容の変化/男女別/年代別】

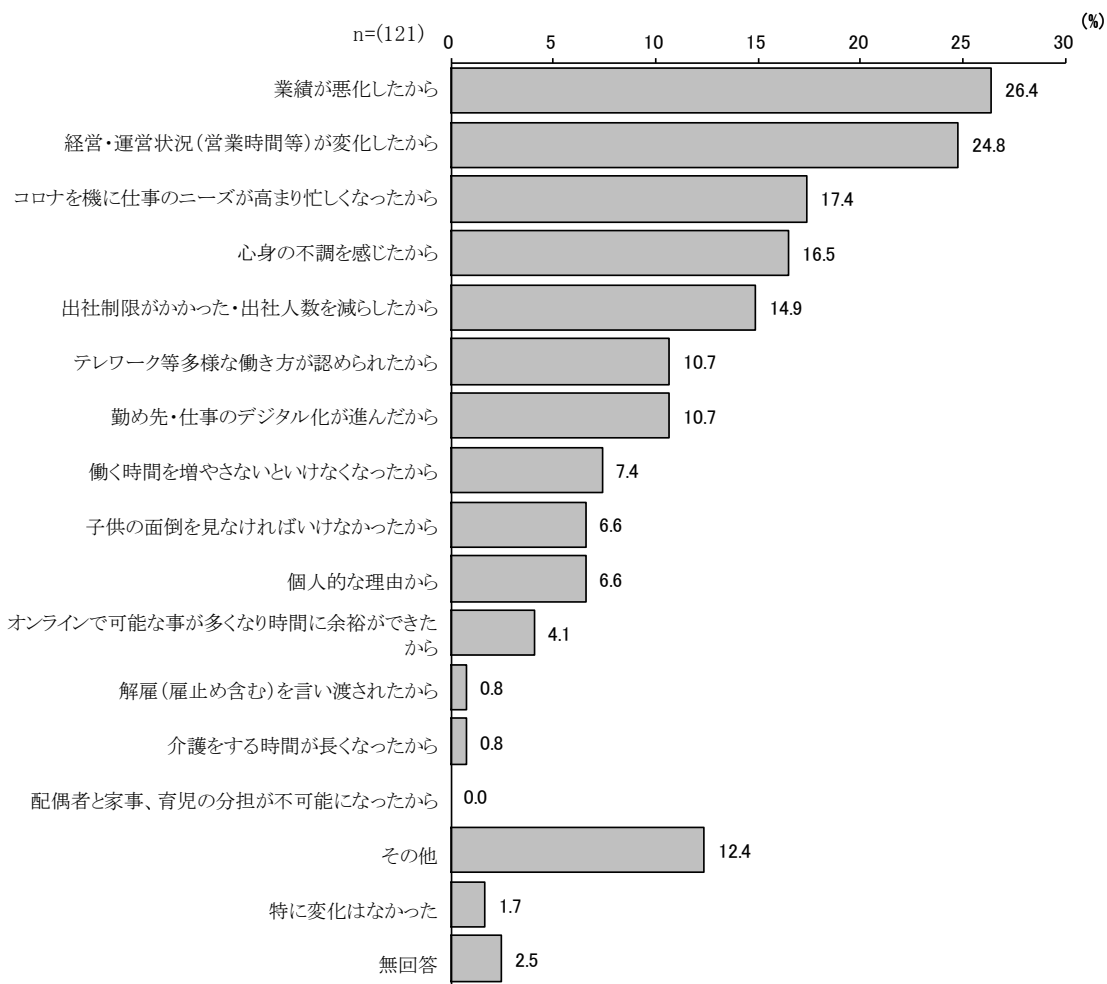
		調査数	何かしらの変化があった	特に変化はなかった	無回答
全 体		297	121	130	46
		100.0	40.7	43.8	15.5
男女別	男性	137	56	61	20
		100.0	40.9	44.5	14.6
女性	女性	156	65	67	24
		100.0	41.7	42.9	15.4
年代別	20代以下	59	23	27	9
		100.0	39.0	45.8	15.3
	30～50代	149	76	72	1
		100.0	51.0	48.3	0.7
	60代以上	86	22	30	34
		100.0	25.6	34.9	39.5

上段：件数、下段：%

(7) 働き方や仕事内容に変化があった理由

* 問 18 で 1 「何かしらの変化があった」と答えられた方にお聞きます。

問 19 働き方や仕事内容に変化があった理由として、次の 1～16 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



働き方や仕事内容に変化があった理由については、「業績が悪化したから」が 26.4%と最も多く、以下、「経営・運営状況(営業時間等)が変化したから」(24.8%)、「コロナを機に仕事のニーズが高まり忙しくなったから」(17.4%)となっています。

男女別にみると、『男性』では「テレワーク等多様な働き方が認められたから」「勤め先・仕事のデジタル化が進んだから」がともに『女性』に比べ10ポイント以上多くなっており、『女性』では「心身の不調を感じたから」が『男性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『20代以下』では「コロナを機に仕事のニーズが高まり忙しくなったから」が26.1%、『30～50代』では「業績が悪化したから」が30.3%、『60代以上』では「心身の不調を感じたから」が31.8%と、それぞれ他の年代に比べ多くなっています。

【働き方や仕事内容に変化があった理由/男女別/年代別】

		調査数	業績が悪化したから	経営・運営状況（営業時間等）が変化したから	解雇（雇止め含む）を言い渡されたから	出社制限がかかったから	子供の面倒を見なければならなかったから	介護をする時間が長くなったから	配偶者と家事・育児の分担が不可能になったから	心身の不調を感じたから	働く時間を増やさないといけないようになったから	テレワーク等多様な働き方が認められたから	勤め先・仕事のデジタル化が進んだから	余裕が多くなり時間に余裕がなくなったから	オンラインで可能なことができたから	コロナを機に仕事のニーズが高まり忙しくなったから	個人的な理由から	その他	特に変化はなかった	無回答
全 体		121 100.0	32 26.4	30 24.8	1 0.8	18 14.9	8 6.6	1 0.8	0 0.0	20 16.5	9 7.4	13 10.7	13 10.7	5 4.1	21 17.4	8 6.6	15 12.4	2 1.7	3 2.5	
男女別	男性	56 100.0	19 33.9	16 28.6	0 0.0	9 16.1	3 5.4	1 1.8	0 0.0	6 10.7	3 5.4	10 17.9	5 8.9	8 14.3	4 7.1	4 7.1	0 0.0	2 3.6		
	女性	65 100.0	13 20.0	14 21.5	1 1.5	9 13.8	5 7.7	0 0.0	0 0.0	14 21.5	6 9.2	3 4.6	3 4.6	0 0.0	13 20.0	4 6.2	11 16.9	2 3.1	1 1.5	
年代別	20代以下	23 100.0	5 21.7	3 13.0	0 0.0	4 17.4	2 8.7	0 0.0	0 0.0	2 8.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3	6 26.1	2 8.7	3 13.0	1 4.3	0 0.0		
	30～50代	76 100.0	23 30.3	22 28.9	1 1.3	10 13.2	6 7.9	0 0.0	0 0.0	13 17.1	7 9.2	11 14.5	10 13.2	4 5.3	13 17.1	2 2.6	9 11.8	0 0.0	1 1.3	
	60代以上	22 100.0	4 18.2	5 22.7	0 0.0	4 18.2	0 0.0	1 4.5	0 0.0	7 31.8	0 0.0	0 0.0	2 9.1	0 0.0	2 9.1	4 18.2	3 13.6	1 4.5	2 9.1	

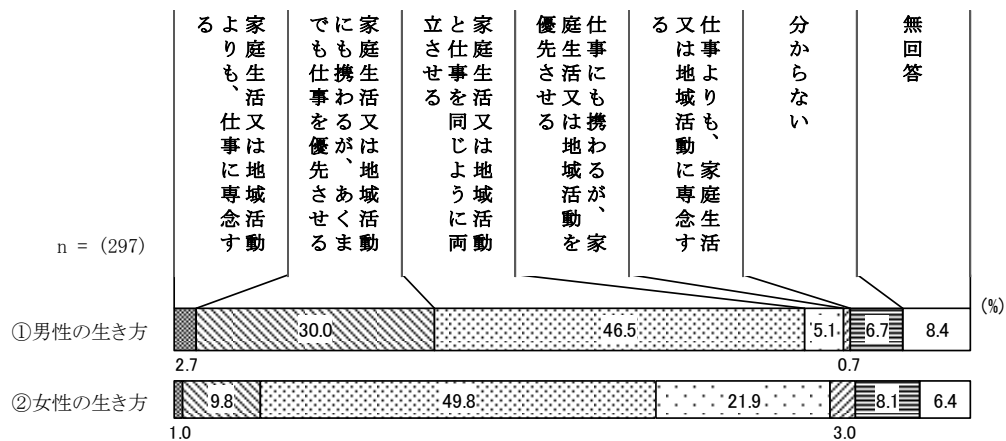
上段：件数、下段：%

8. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 男女の望ましい生き方

問 20 女性及び男性の望ましいと思う生き方はどのような生き方だと思いますか。

それぞれの項目ごと、1～6の中から1つずつ選んで○をしてください。



女性及び男性の望ましいと思う生き方については、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」が、〈①男性の生き方〉、〈②女性の生き方〉ともに最も多くなっていますが、2番目に多いものは、〈①男性の生き方〉では、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」(30.0%)で、〈②女性の生き方〉では、「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」(21.9%)となっています。

《問 20 ①男性の生き方》

【①男性の生き方/男女別/年代別】

〈①男性の生き方〉について男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、『60代以上』では「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまでも仕事を優先させる」が36.0%と最も多くなっており、他の年代に比べ5ポイント以上多くなっています。

		調 査 数	る 家 庭 生 活 も 、 仕 事 に 専 念 す	も 携 わ る が 、 あ く ま も 仕 事 を 優 先 さ せ る	家 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	立 と 仕 事 を 同 じ よ う に 両 さ せ る	家 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	優 庭 生 活 又 は 地 域 活 動 を	仕 事 に も 携 わ る が 、 家	又 は 地 域 活 動 に 専 念 す	分 か ら な い	無 回 答
全 体		297 100.0	8 2.7	89 30.0	138 46.5	15 5.1	2 0.7	20 6.7	25 8.4			
男女別	男性	137 100.0	4 2.9	41 29.9	66 48.2	9 6.6	1 0.7	7 5.1	9 6.6			
	女性	156 100.0	4 2.6	47 30.1	71 45.5	6 3.8	1 0.6	11 7.1	16 10.3			
年代別	20代以下	59 100.0	1 1.7	13 22.0	39 66.1	3 5.1	0 0.0	1 1.7	2 3.4			
	30～50代	149 100.0	7 4.7	44 29.5	68 45.6	9 6.0	2 1.3	12 8.1	7 4.7			
	60代以上	86 100.0	0 0.0	31 36.0	30 34.9	3 3.5	0 0.0	6 7.0	16 18.6			

上段：件数、下段：%

《問 20 ②女性の生き方》

【②女性の生き方/男女別/年代別】

〈②女性の生き方〉について男女別にみると、『男性』では「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」が24.8%と、『女性』に比べ多くなっています。

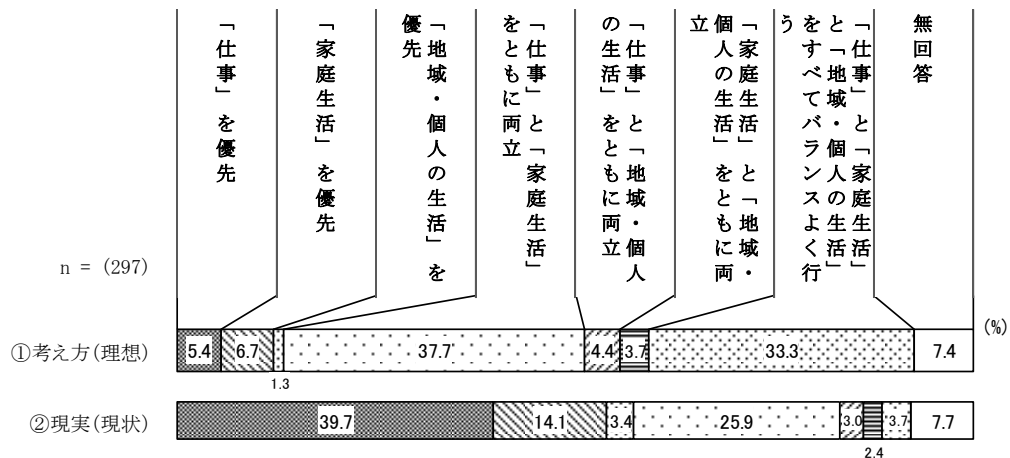
年代別にみると、『30～50代』では「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」が他の年代に比べ5ポイント以上多くなっています。

		調 査 数	る 家 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	も 携 わ る が 、 あ く ま で も 仕 事 を 優 先 さ せ る	家 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	立 と 仕 事 を 同 じ よ う に 両 さ せ る	家 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	優 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	仕 事 に も 携 わ る が 、 家 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	又 は 地 域 活 動 に 専 念 す る	仕 事 に も 携 わ る が 、 家 庭 生 活 又 は 地 域 活 動	分 か ら な い	無 回 答
全 体		297 100.0	3 1.0	29 9.8	148 49.8	65 21.9	9 3.0	24 8.1	19 6.4				
男女別	男性	137 100.0	2 1.5	11 8.0	67 48.9	34 24.8	5 3.6	7 5.1	11 8.0				
	女性	156 100.0	1 0.6	17 10.9	80 51.3	31 19.9	4 2.6	15 9.6	8 5.1				
年代別	20代以下	59 100.0	0 0.0	5 8.5	39 66.1	11 18.6	1 1.7	1 1.7	2 3.4				
		149 100.0	3 2.0	14 9.4	67 45.0	40 26.8	5 3.4	15 10.1	5 3.4				
	30～50代	86 100.0	0 0.0	9 10.5	41 47.7	14 16.3	3 3.5	7 8.1	12 14.0				
		60代以上											

上段：件数、下段：%

(2) 仕事と生活について

問 21 仕事と生活について、あなた自身の考え方（理想）と現実（現状）に最も近いものはどれですか。それぞれの項目ごと、1～7の中から1つずつ選んで○をしてください。



仕事と生活について、最も近い考え方については、〈①考え方（理想）〉では、「仕事」と「家庭生活」をともに両立が、37.7%と最も多く、以下、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う（33.3%）、「家庭生活」を優先（6.7%）となっています。

〈②現実（現状）〉では、「仕事」を優先が39.7%と最も多く、以下「仕事」と「家庭生活」をともに両立が25.9%、「家庭生活」を優先が14.1%となっています。

《問 21 ①考え方（理想）》

【①考え方（理想）/男女別/年代別】

〈①考え方（理想）〉について男女別にみると、『女性』では、「仕事」と「家庭生活」をともに両立」が41.0%と、『男性』に比べ5ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『30～50代』では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべてバランスよく行う」が38.9%と最も多くなっており、他の年代に比べ5ポイント以上多くなっています。

		調査数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	と「仕事」と「家庭生活」を	生活「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	人の「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	べて「地域・個人の生活」を優先	無回答
全 体		297 100.0	16 5.4	20 6.7	4 1.3	112 37.7	13 4.4	11 3.7	99 33.3	22 7.4
男女別	男性	137 100.0	10 7.3	10 7.3	1 0.7	47 34.3	5 3.6	7 5.1	46 33.6	11 8.0
	女性	156 100.0	5 3.2	9 5.8	3 1.9	64 41.0	8 5.1	3 1.9	53 34.0	11 7.1
年代別	20代以下	59 100.0	3 5.1	4 6.8	1 1.7	30 50.8	0 0.0	0 0.0	19 32.2	2 3.4
	30～50代	149 100.0	9 6.0	15 10.1	3 2.0	49 32.9	5 3.4	5 3.4	58 38.9	5 3.4
	60代以上	86 100.0	4 4.7	0 0.0	0 0.0	32 37.2	8 9.3	5 5.8	22 25.6	15 17.4

上段：件数、下段：%

《問 21 ②現実（現状）》

【②現実（現状）/男女別/年代別】

〈②現実（現状）〉について男女別にみると、『男性』では「仕事」を優先」が、『女性』に比べ10ポイント以上多く、『女性』では「家庭生活」を優先」が、『男性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『30～50代』では「仕事」を優先」が46.3%と、他の年代に比べ5ポイント以上多くなっています。

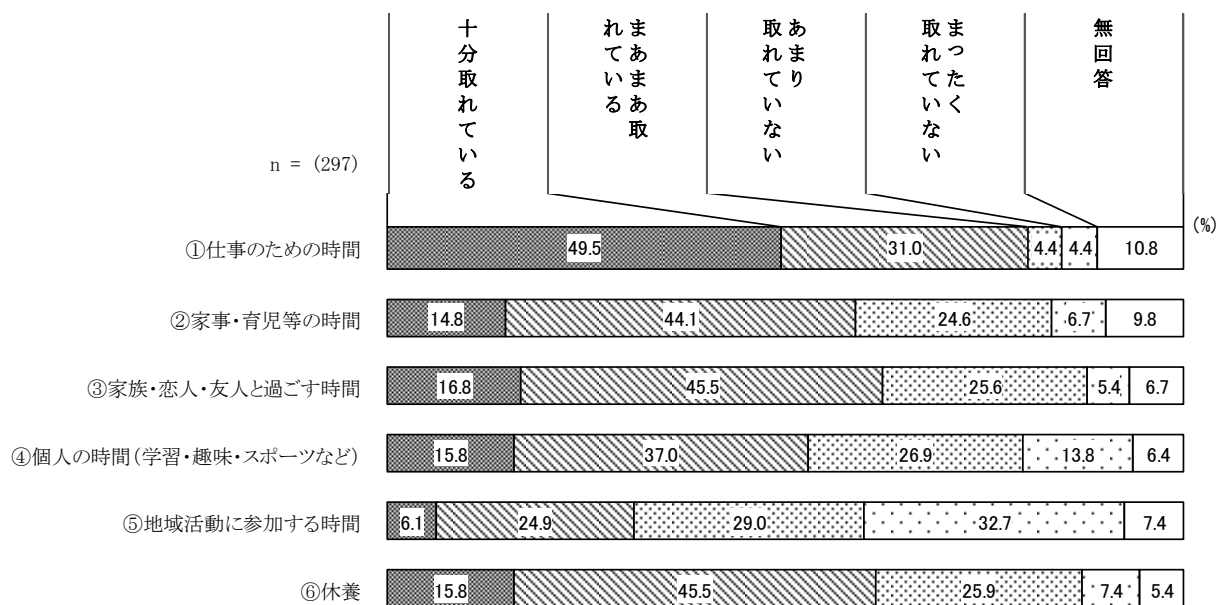
		調査数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	と「仕事」と「家庭生活」を	生活「仕事」と「地域・個人の生活」をともに両立	人の「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに両立	べて「地域・個人の生活」を優先	無回答
全 体		297 100.0	118 39.7	42 14.1	10 3.4	77 25.9	9 3.0	7 2.4	11 3.7	23 7.7
男女別	男性	137 100.0	67 48.9	10 7.3	5 3.6	31 22.6	5 3.6	4 2.9	4 2.9	11 8.0
	女性	156 100.0	50 32.1	31 19.9	5 3.2	45 28.8	4 2.6	3 1.9	6 3.8	12 7.7
年代別	20代以下	59 100.0	24 40.7	8 13.6	3 5.1	13 22.0	3 5.1	0 0.0	2 3.4	6 10.2
	30～50代	149 100.0	69 46.3	20 13.4	4 2.7	40 26.8	4 2.7	2 1.3	5 3.4	5 3.4
	60代以上	86 100.0	24 27.9	13 15.1	3 3.5	24 27.9	2 2.3	5 5.8	3 3.5	12 14.0

上段：件数、下段：%

(3) 日常生活の中で満足する時間がとれているか

問 22 あなたは、日常生活の中で次の項目について満足する時間が取れていますか。

それぞれの項目ごと、1～4の中から1つずつ選んで○をしてください。



日常生活の中で満足する時間が取れているかについて、「十分取れている」又は「まあまあ取れている」と回答した割合は、〈①仕事のための時間〉が80.5%と最も多く、以下、〈③家族・恋人・友人と過ごす時間〉(62.3%)、〈⑥休養〉(61.3%)となっており、6割を超えています。一方、「あまり取れていない」又は「まったく取れていない」と回答した割合は、〈⑤地域活動に参加する時間〉が61.7%と最も多く、以下、〈④個人の時間(学習・趣味・スポーツなど)〉(40.7%)、〈⑥休養〉が33.3%となっています。

《問 22 ①仕事のための時間》

【①仕事のための時間/男女別/年代別】

〈①仕事のための時間〉が取れているかについて男女別にみると、『男性』では「十分取れている」が59.1%と、『女性』に比べ、5ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、50代以下では「十分取れている」又は「まあまあ取れている」が8割を超えています。

		調査数	十分取れている	まあまあ取れている	あまり取れていない	取れなかったくない	無回答
全 体		297 100.0	147 49.5	92 31.0	13 4.4	13 4.4	32 10.8
男女別	男性	137 100.0	81 59.1	40 29.2	3 2.2	5 3.6	8 5.8
	女性	156 100.0	66 42.3	51 32.7	10 6.4	7 4.5	22 14.1
年代別	20代以下	59 100.0	33 55.9	16 27.1	0 0.0	5 8.5	5 8.5
	30～50代	149 100.0	89 59.7	45 30.2	8 5.4	4 2.7	3 2.0
	60代以上	86 100.0	25 29.1	30 34.9	5 5.8	4 4.7	22 25.6

上段：件数、下段：%

《問 22 ②家事・育児等の時間》

【②家事・育児等の時間/男女別/年代別】

〈②家事・育児等の時間〉が取れているかについて男女別にみると、『男性』では「あまり取れていない」が33.6%と、『女性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、『30～50代』では「あまり取れていない」が32.9%と、他の年代に比べ、10ポイント以上多くなっています。

		調査数	十分取れている	まあまあ取れている	あまり取れていない	取れなかったくない	無回答
全 体		297 100.0	44 14.8	131 44.1	73 24.6	20 6.7	29 9.8
男女別	男性	137 100.0	17 12.4	54 39.4	46 33.6	12 8.8	8 5.8
	女性	156 100.0	27 17.3	76 48.7	27 17.3	8 5.1	18 11.5
年代別	20代以下	59 100.0	8 13.6	25 42.4	12 20.3	9 15.3	5 8.5
	30～50代	149 100.0	22 14.8	66 44.3	49 32.9	8 5.4	4 2.7
	60代以上	86 100.0	14 16.3	39 45.3	12 14.0	3 3.5	18 20.9

上段：件数、下段：%

《問 22 ③家族・恋人・友人と過ごす時間》

【③家族・恋人・友人と過ごす時間/男女別/年代別】

〈③家族・恋人・友人と過ごす時間〉が取れているかについて男女別にみると、『男性』では「あまり取れていない」が 29.9%と、『女性』に比べ 5 ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、『30～50 代』では「あまり取れていない」又は「まったく取れていない」が 38.2%と、他の年代に比べ 10 ポイント以上多くなっています。

		調査数	十分取れている	まあまあ取れている	あまり取れていない	取まわってたくない	無回答
全 体		297 100.0	50 16.8	135 45.5	76 25.6	16 5.4	20 6.7
男女別	男性	137 100.0	20 14.6	61 44.5	41 29.9	7 5.1	8 5.8
	女性	156 100.0	30 19.2	73 46.8	35 22.4	9 5.8	9 5.8
年代別	20代以下	59 100.0	14 23.7	31 52.5	7 11.9	5 8.5	2 3.4
	30～50代	149 100.0	22 14.8	69 46.3	48 32.2	9 6.0	1 0.7
	60代以上	86 100.0	14 16.3	34 39.5	21 24.4	2 2.3	15 17.4

上段：件数、下段：%

《問 22 ④個人の時間（学習・趣味・スポーツなど）》

【④個人の時間（学習・趣味・スポーツなど）/男女別/年代別】

〈④個人の時間（学習・趣味・スポーツなど）〉が取れているかについて男女別にみると、『男性』では「十分取れている」が 19.7%と、『女性』に比べ 5 ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、『30～50 代』では「あまり取れていない」又は「まったく取れていない」が 51.6%と、他の年代に比べ 10 ポイント以上多くなっています。

		調査数	十分取れている	まあまあ取れている	あまり取れていない	取まわってたくない	無回答
全 体		297 100.0	47 15.8	110 37.0	80 26.9	41 13.8	19 6.4
男女別	男性	137 100.0	27 19.7	48 35.0	38 27.7	16 11.7	8 5.8
	女性	156 100.0	19 12.2	60 38.5	42 26.9	25 16.0	10 6.4
年代別	20代以下	59 100.0	13 22.0	25 42.4	14 23.7	5 8.5	2 3.4
	30～50代	149 100.0	19 12.8	52 34.9	51 34.2	26 17.4	1 0.7
	60代以上	86 100.0	14 16.3	31 36.0	15 17.4	10 11.6	16 18.6

上段：件数、下段：%

《問 22 ⑤地域活動に参加する時間》

【⑤地域活動に参加する時間/男女別/年代別】

〈⑤地域活動に参加する時間〉が取れているかについて男女別にみると、『女性』では「まったく取れていない」が37.8%と、最も多くなっています。

年齢別にみると、『60代以上』では「十分取れている」又は「まあまあ取れている」が45.3%と、他の年代に比べ10ポイント以上多くなっています。

		調査数	十分取れている	まあまあ取れている	あまり取れていない	取れていない	無回答
全 体		297 100.0	18 6.1	74 24.9	86 29.0	97 32.7	22 7.4
男女別	男性	137 100.0	10 7.3	33 24.1	48 35.0	37 27.0	9 6.6
	女性	156 100.0	8 5.1	40 25.6	38 24.4	59 37.8	11 7.1
年代別	20代以下	59 100.0	3 5.1	10 16.9	19 32.2	25 42.4	2 3.4
	30～50代	149 100.0	7 4.7	32 21.5	50 33.6	56 37.6	4 2.7
	60代以上	86 100.0	8 9.3	31 36.0	17 19.8	16 18.6	14 16.3

上段：件数、下段：%

《問 22 ⑥休養》

【⑥休養/男女別/年代別】

〈⑥休養〉について男女別による、特徴的な差はみられません。

年齢別にみると、『30～50代』では「あまり取れていない」又は「まったく取れていない」が41.7%と、他の年代に比べ10ポイント以上多くなっています。

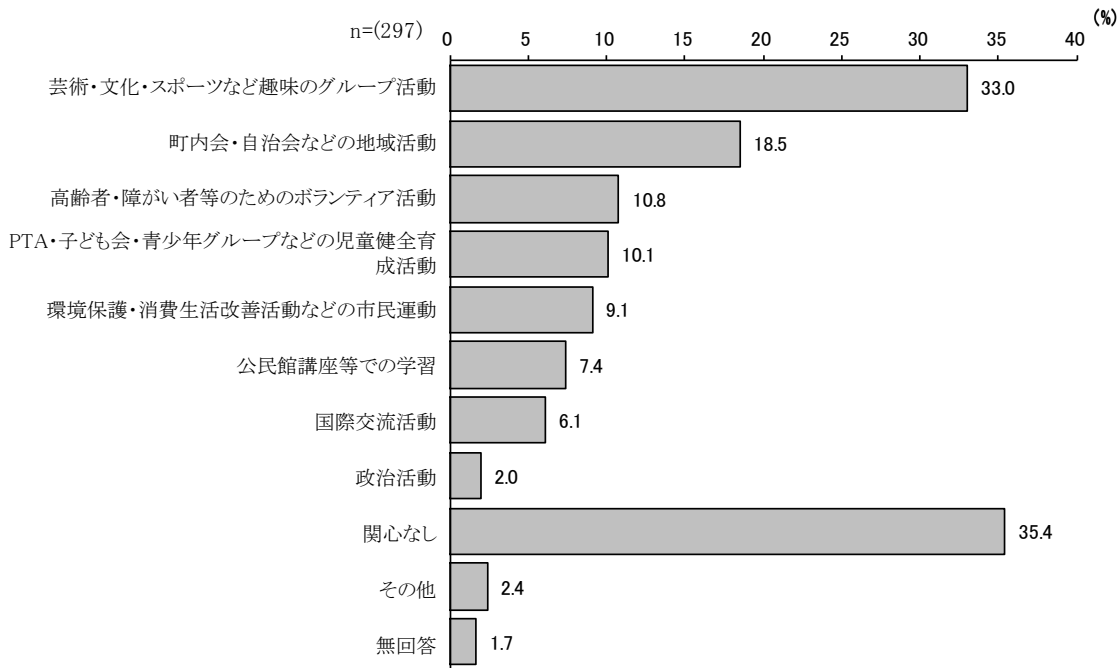
		調査数	十分取れている	まあまあ取れている	あまり取れていない	取れていない	無回答
全 体		297 100.0	47 15.8	135 45.5	77 25.9	22 7.4	16 5.4
男女別	男性	137 100.0	24 17.5	58 42.3	40 29.2	7 5.1	8 5.8
	女性	156 100.0	23 14.7	74 47.4	37 23.7	14 9.0	8 5.1
年代別	20代以下	59 100.0	13 22.0	27 45.8	12 20.3	5 8.5	2 3.4
	30～50代	149 100.0	17 11.4	69 46.3	50 33.6	12 8.1	1 0.7
	60代以上	86 100.0	17 19.8	36 41.9	15 17.4	5 5.8	13 15.1

上段：件数、下段：%

9. 社会参加について

(1) 現在、関心のある活動

問 23 あなたが現在、関心のある活動は何ですか。
次の1～10の中から2つ以内で選んで○をしてください。



現在、関心のある活動については、「芸術・文化・スポーツなど趣味のグループ活動」が33.0%と最も多く、以下、「町内会・自治会などの地域活動」(18.5%)、「高齢者・障がい者等のためのボランティア活動」(10.8%)となっています。なお、「関心なし」は35.4%と、3割を超えています。

男女別にみると、『女性』では「高齢者・障がい者等のためのボランティア活動」が『男性』よりも多くなっています。

年代別にみると、『60代以上』では、「町内会・自治会などの地域活動」が30.2%と、最も多くなっています。

【現在、関心のある活動/男女別/年代別】

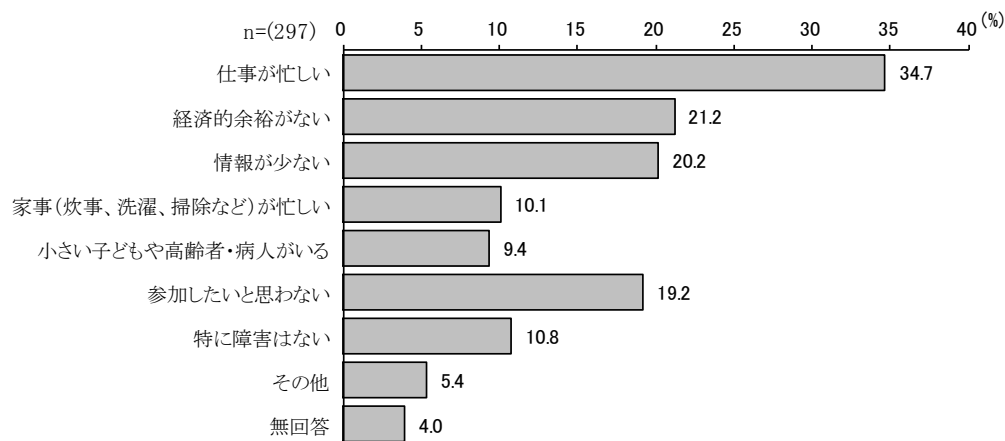
		調査数	町内会・自治会などの地域活動	PTA・子ども会・青少年グループなどの児童健全育成活動	高齢者・障がい者等のためのボランティア活動	芸術・文化・スポーツなど趣味のグループ活動	環境保護・消費生活改善活動などの市民運動	公民館講座等での学習	政治活動	国際交流活動	関心なし	その他	無回答
全 体		297 100.0	55 18.5	30 10.1	32 10.8	98 33.0	27 9.1	22 7.4	6 2.0	18 6.1	105 35.4	7 2.4	5 1.7
男女別	男性	137 100.0	37 27.0	16 11.7	12 8.8	46 33.6	14 10.2	5 3.6	5 3.6	8 5.8	46 33.6	2 1.5	4 2.9
	女性	156 100.0	17 10.9	14 9.0	19 12.2	51 32.7	12 7.7	17 10.9	1 0.6	10 6.4	58 37.2	4 2.6	1 0.6
年代別	20代以下	59 100.0	11 18.6	8 13.6	3 5.1	24 40.7	6 10.2	2 3.4	0 0.0	2 3.4	25 42.4	0 0.0	0 0.0
	30～50代	149 100.0	17 11.4	22 14.8	12 8.1	48 32.2	13 8.7	9 6.0	4 2.7	14 9.4	57 38.3	1 0.7	0 0.0
	60代以上	86 100.0	26 30.2	0 0.0	16 18.6	25 29.1	7 8.1	11 12.8	2 2.3	2 2.3	23 26.7	5 5.8	5 5.8

上段：件数、下段：%

(2) 活動に参加しようとするときの障害

問 24 あなたが、問 23 の活動に参加しようとするとき、障害となるものがありますか。

次の 1～8 の中から 2 つ以内で選んで○をしてください。



活動に参加しようとするときの障害については、「仕事が忙しい」が 34.7%と最も多く、以下、「経済的余裕がない」(21.2%)、「情報が少ない」(20.2%)となっています。

男女別にみると、『女性』では「情報が少ない」が 21.8%と、『男性』に比べて多くなっています。

年代別にみると、『60代以上』では「情報が少ない」が 25.6%と、最も多くなっています。

【活動に参加しようとするときの障害/男女別/年代別】

		調査数	仕事が忙しい	掃除など(炊事、洗濯、掃除など)が忙しい	小さい子どもや高齢者・病人がいる	経済的余裕がない	情報が少ない	特に障害はない	参加したいと思わない	その他	無回答
全 体		297 100.0	103 34.7	30 10.1	28 9.4	63 21.2	60 20.2	32 10.8	57 19.2	16 5.4	12 4.0
男女別	男性	137 100.0	63 46.0	9 6.6	9 6.6	32 23.4	25 18.2	13 9.5	20 14.6	7 5.1	8 5.8
	女性	156 100.0	40 25.6	21 13.5	19 12.2	29 18.6	34 21.8	19 12.2	37 23.7	7 4.5	4 2.6
年代別	20代以下	59 100.0	21 35.6	4 6.8	2 3.4	14 23.7	14 23.7	5 8.5	15 25.4	4 6.8	2 3.4
	30～50代	149 100.0	70 47.0	20 13.4	18 12.1	33 22.1	23 15.4	14 9.4	25 16.8	5 3.4	3 2.0
	60代以上	86 100.0	12 14.0	6 7.0	8 9.3	14 16.3	22 25.6	13 15.1	17 19.8	6 7.0	7 8.1

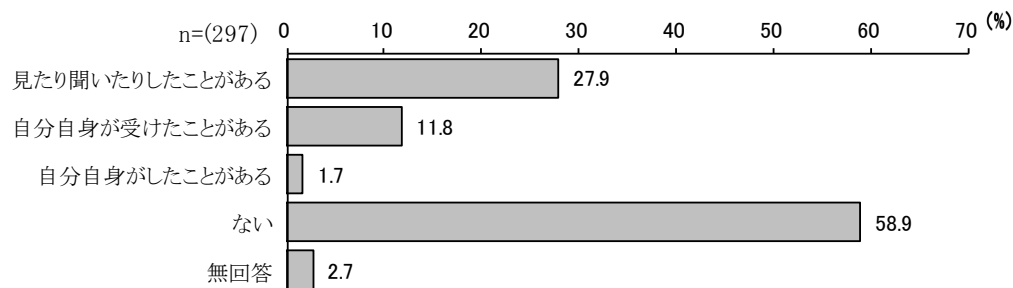
上段：件数、下段：%

10. セクシャル・ハラスメント、DVについて

(1) 身近なところのセクシャル・ハラスメント

問 25 あなたの身近なところ（職場・地域・学校）にセクシャル・ハラスメントがありますか。

次の1～4の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



身近なところ（職場・地域・学校）のセクシャル・ハラスメントについては、「見たり聞いたりしたことがある」が27.9%と最も多く、以下、「自分自身が受けたことがある」（11.8%）、「自分自身がしたことがある」（1.7%）となっています。なお、「ない」は58.9%と、過半数を占めています。

男女別にみると、『女性』では「自分自身が受けたことがある」が17.3%と、『男性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『30～50代』では「見たり聞いたりしたことがある」が、他の年代に比べ多くなっています。

【身近なところのセクシャル・ハラスメント/男女別/年代別】

		調査数	自分自身が受けたことがある	自分自身がしたことがある	見たり聞いたりしたことがある	ない	無回答
全 体		297 100.0	35 11.8	5 1.7	83 27.9	175 58.9	8 2.7
男女別	男性	137 100.0	8 5.8	4 2.9	44 32.1	77 56.2	5 3.6
	女性	156 100.0	27 17.3	1 0.6	39 25.0	94 60.3	3 1.9
年代別	20代以下	59 100.0	9 15.3	0 0.0	13 22.0	39 66.1	0 0.0
	30～50代	149 100.0	19 12.8	2 1.3	47 31.5	85 57.0	0 0.0
	60代以上	86 100.0	7 8.1	3 3.5	23 26.7	48 55.8	8 9.3

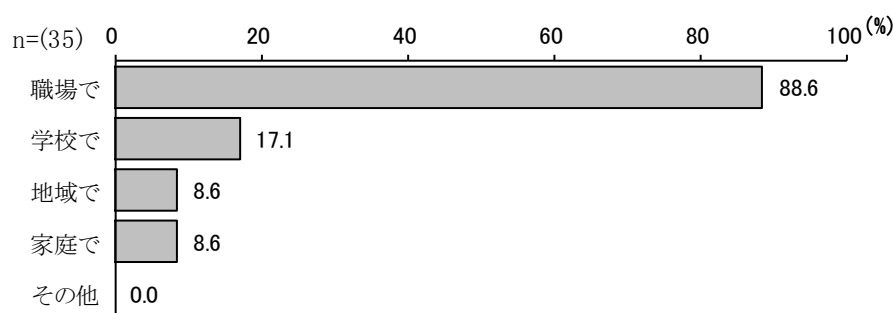
上段：件数、下段：%

(2) セクシャル・ハラスメントを受けた場

* 問 25 で 1「自分自身が受けたことがある」と答えられた方にお聞きます。

問 26 そのハラスメントは、どこで受けたものでしょうか。

次の 1～5 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



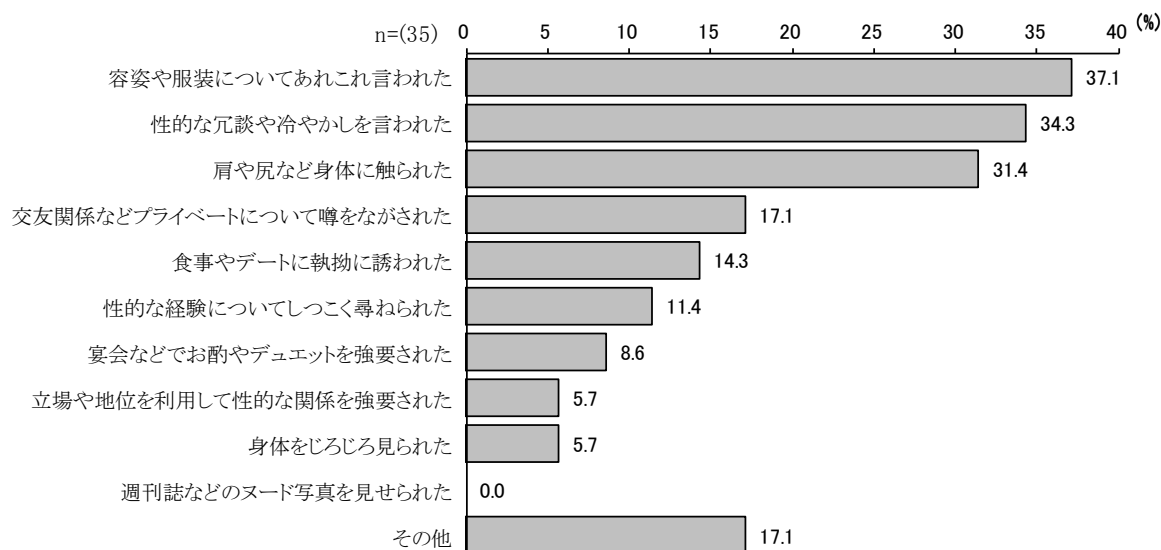
セクシャル・ハラスメントを受けた場については、「職場で」が 88.6%と最も多く、以下、「学校で」(17.1%)、「地域で」「家庭で」(ともに 8.6%) となっています。

(3) セクシャル・ハラスメントの内容

* 問 25 で 1「自分自身が受けたことがある」と答えられた方にお聞きます。

問 27 その内容はどんなものだったのでしょうか。

次の 1～11 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

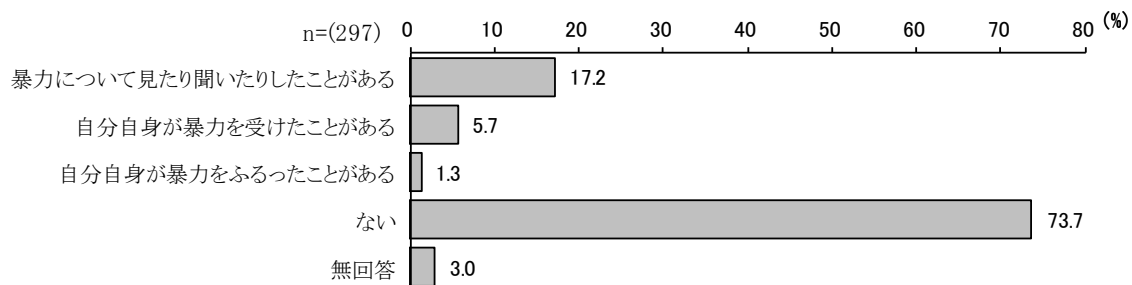


受けたことがあるセクシャル・ハラスメントの内容については、「容姿や服装についてあれこれ言われた」が 37.1%と最も多く、以下、「性的な冗談や冷やかしを言われた」(34.3%)、「肩や尻など身体に触られた」(31.4%) となっています。

(4) 身近なところのDV

問 28 DV が社会問題になっていますが、あなたの身近にこのような暴力がありますか。

次の1～4の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



身近なところのDVについては、「暴力について見たり聞いたりしたことがある」が17.2%と最も多く、以下、「自分自身が暴力を受けたことがある」(5.7%)、「自分自身が暴力をふるったことがある」(1.3%)となっています。なお、「ない」は73.7%と、7割を超えています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、『30～50代』では「暴力について見たり聞いたりしたことがある」が21.5%と、他の年代に比べ多くなっています。

【身近なところのDV/男女別/年代別】

		調査数	自分自身が暴力を受けたことがある	自分自身が暴力をふるったことがある	暴力について見たり聞いたりしたことがある	ない	無回答
全 体		297 100.0	17 5.7	4 1.3	51 17.2	219 73.7	9 3.0
男女別	男性	137 100.0	4 2.9	2 1.5	26 19.0	102 74.5	4 2.9
	女性	156 100.0	13 8.3	2 1.3	25 16.0	115 73.7	3 1.9
年代別	20代以下	59 100.0	3 5.1	0 0.0	7 11.9	49 83.1	0 0.0
	30～50代	149 100.0	13 8.7	2 1.3	32 21.5	103 69.1	1 0.7
	60代以上	86 100.0	1 1.2	2 2.3	12 14.0	66 76.7	6 7.0

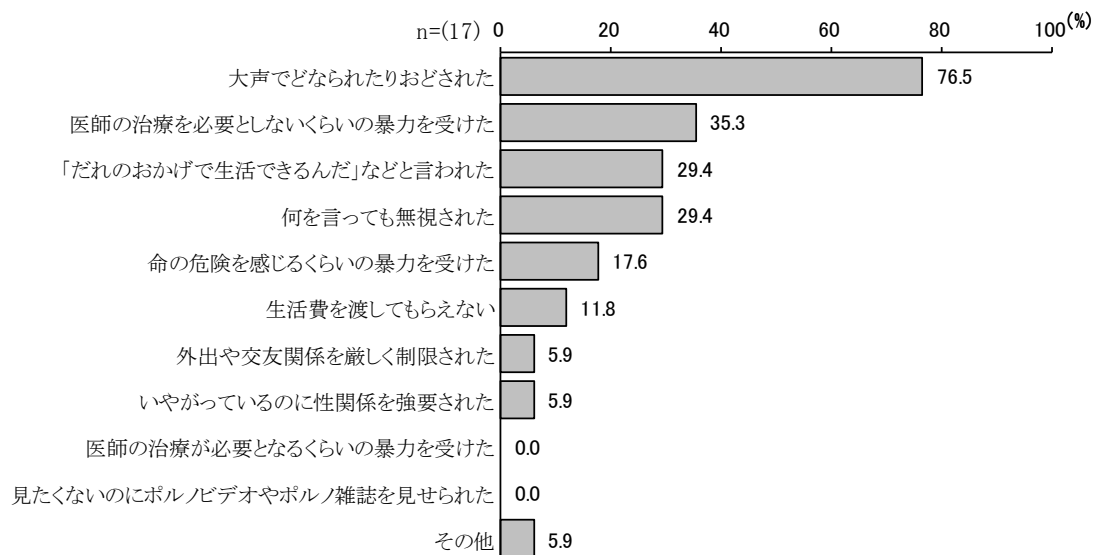
上段：件数、下段：%

(5) DVの内容

* 問 28 で 1 「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きします。

問 29 その内容はどんなものだったのでしょうか。

次の 1～11 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



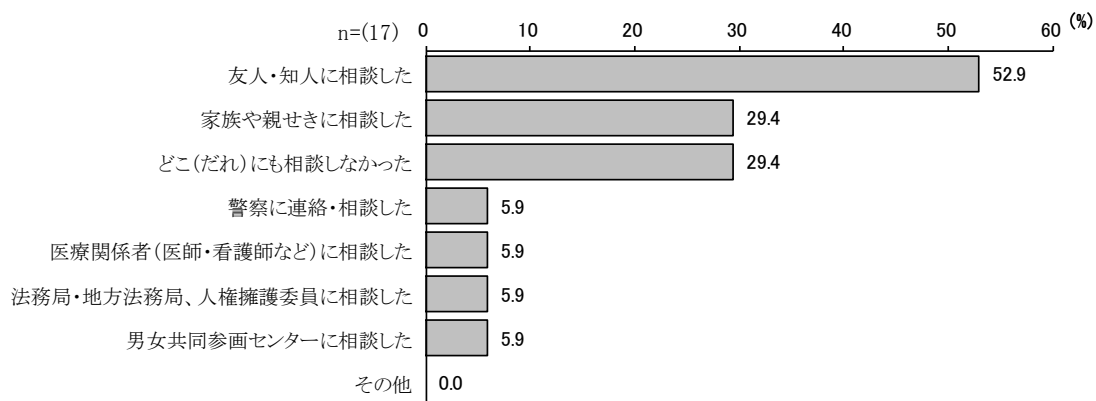
DVの内容については、「大声でどなられたりおどされた」が76.5%と最も多く、以下、「医師の治療を必要としないくらいの暴力を受けた」(35.3%)、「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われた」「何を言っても無視された」(ともに29.4%)となっています。

(6) DVを受けたことについての相談先

* 問 28 で 1「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きします。

問 30 暴力を受けたことについて、誰かに相談しましたか。相談先はどこでしたか。

次の 1～8 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



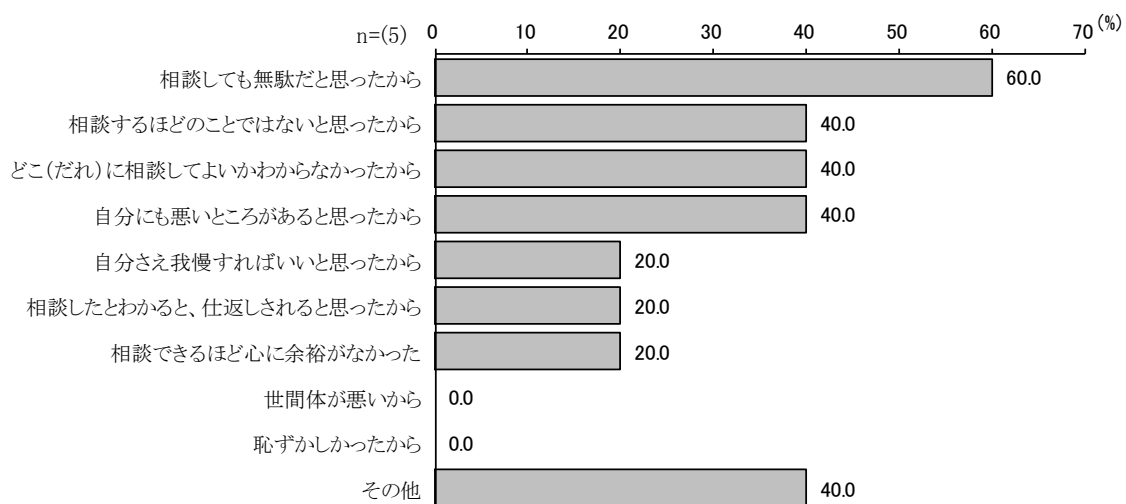
DVを受けたことについての相談先については、「友人・知人に相談した」が 52.9%と最も多く、以下、「家族や親せきに相談した」「どこ（だれ）にも相談しなかった」（ともに 29.4%）となっています。

(7) 相談しなかった、出来なかった理由

* 問 30 で 7「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えられた方にお聞きします。

問 31 どこ（だれ）にも相談しなかった、出来なかった理由は何ですか。

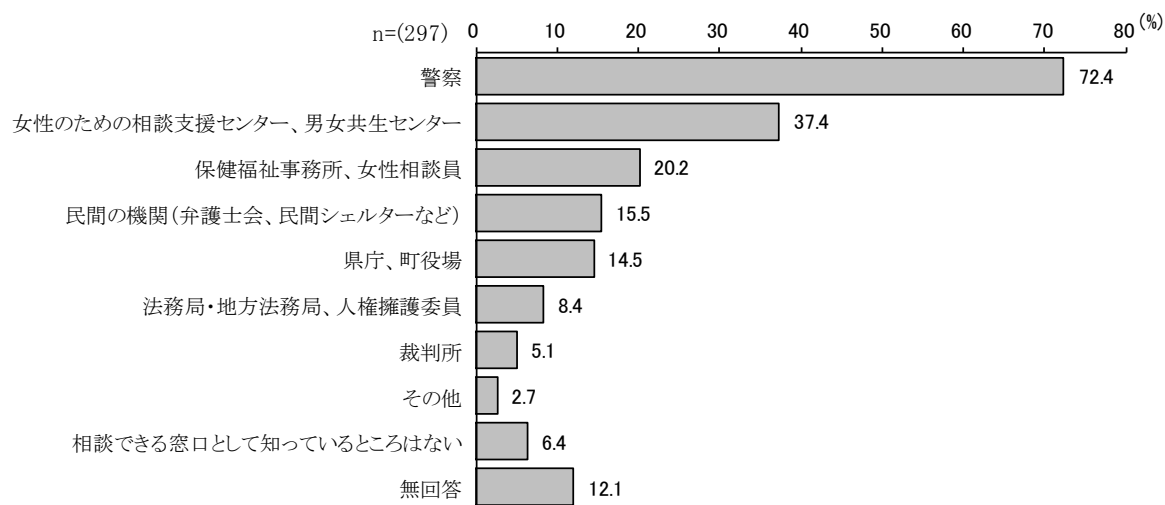
次の 1～10 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



相談しなかった、出来なかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」が 60.0%と最も多く、以下、「相談するほどのことではないと思ったから」「どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」（ともに 40.0%）となっています。

(8) DVについて相談できる窓口の認知度

問 32 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。
次の1～9の中からあなたが知っているものすべて選んで○をしてください。



DVについて相談できる窓口の認知度については、「警察」が72.4%と最も多く、以下、「女性のための相談支援センター、男女共生センター」(37.4%)、「保健福祉事務所、女性相談員」(20.2%)となっています。

男女別にみると、『女性』では「女性のための相談支援センター、男女共生センター」が46.8%と、『男性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、「警察」については、年代が上がるにつれ少なくなっています。

【DVについて相談できる窓口の認知度/男女別/年代別】

	調査数	警察	女性のための相談支援センター、男女共生センター	保健福祉事務所、女性相談員	民間の機関(弁護士会、民間シェルターなど)	県庁、町役場	法務局・地方法務局、人権擁護委員	裁判所	その他	相談できる窓口として知っているところはない	無回答
全 体	297 100.0	215 72.4	111 37.4	60 20.2	46 15.5	43 14.5	25 8.4	15 5.1	8 2.7	19 6.4	36 12.1
男女別	男性	137 100.0	96 70.1	38 27.7	25 18.2	20 14.6	16 11.7	5 3.6	4 2.9	13 9.5	14 10.2
	女性	156 100.0	118 75.6	73 46.8	35 22.4	26 16.7	9 5.8	10 6.4	4 2.6	6 3.8	19 12.2
年代別	20代以下	59 100.0	50 84.7	25 42.4	11 18.6	11 18.6	6 10.2	6 10.2	3 5.1	2 3.4	4 6.8
	30～50代	149 100.0	109 73.2	60 40.3	29 19.5	25 16.8	9 6.0	7 4.7	5 3.4	8 5.4	12 8.1
	60代以上	86 100.0	55 64.0	26 30.2	20 23.3	10 11.6	10 11.6	2 2.3	0 0.0	9 10.5	18 20.9

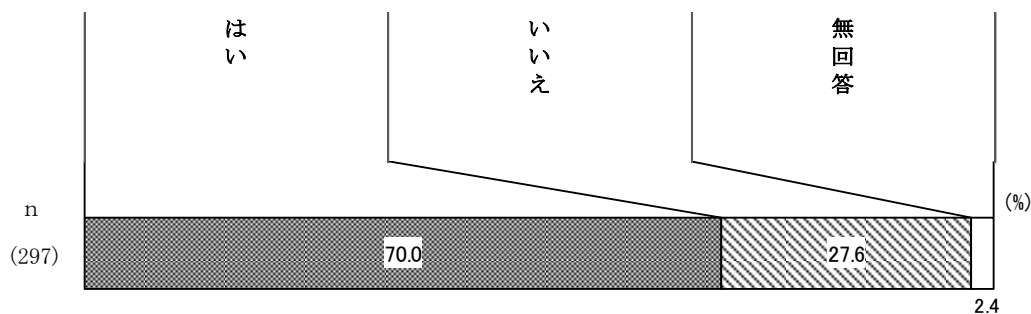
上段：件数、下段：%

11. 性的マイノリティについて

(1) 性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉の認知度

問 33 あなたは、性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っていますか。

次の1～2の中から1つだけ選んで○をしてください。



性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉を知っているかについては、「はい」が70.0%、「いいえ」が27.6%となっています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、「はい」が、年代が上がるにつれ少なくなっています。

【性的マイノリティ（またはLGBT等）という言葉の認知度/男女別/年代別】

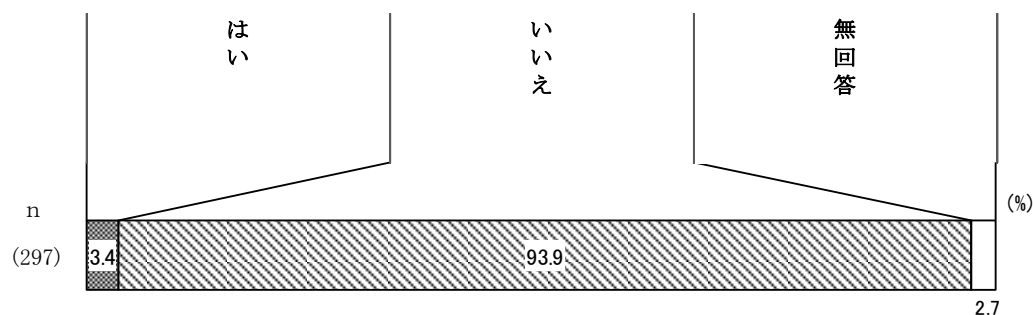
		調査数	はい	いいえ	無回答
全 体		297	208	82	7
		100.0	70.0	27.6	2.4
男女別	男性	137	97	37	3
		100.0	70.8	27.0	2.2
女性		156	110	43	3
		100.0	70.5	27.6	1.9
年代別	20代以下	59	46	13	0
		100.0	78.0	22.0	0.0
	30～50代	149	111	38	0
		100.0	74.5	25.5	0.0
60代以上		86	50	29	7
		100.0	58.1	33.7	8.1

上段：件数、下段：%

(2) 自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか

問 34 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。

次の1～2の中から1つだけ選んで○をしてください。



自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるかについては、「はい」が3.4%、「いいえ」が93.9%となっています。

男女別、年代別による特徴的な差はみられません。

【自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるか/男女別/年代別】

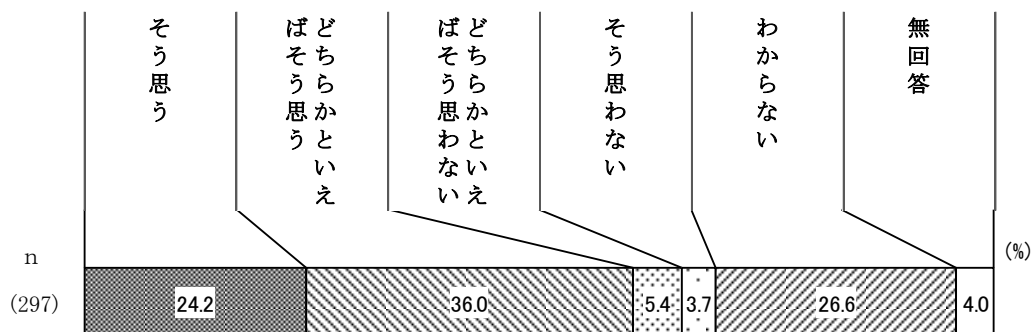
		調査数	はい	いいえ	無回答
全 体		297	10	279	8
		100.0	3.4	93.9	2.7
男女別	男性	137	3	131	3
		100.0	2.2	95.6	2.2
	女性	156	6	146	4
		100.0	3.8	93.6	2.6
年代別	20代以下	59	6	53	0
		100.0	10.2	89.8	0.0
	30～50代	149	3	145	1
		100.0	2.0	97.3	0.7
	60代以上	86	0	79	7
		100.0	0.0	91.9	8.1

上段：件数、下段：%

(3) 性的マイノリティ（またはLGBT等）にとって生活しづらい社会か

問 35 現在、性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。



性的マイノリティ（またはLGBT等）にとって生活しづらい社会かについては、「どちらかといえばそう思う」が36.0%と最も多く、以下、「そう思う」(24.2%)、「どちらかといえばそう思わない」(5.4%)となっています。なお、「わからない」は26.6%となっています。

男女別にみると、『女性』では「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が64.1%と、『男性』に比べ5ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『60代以上』では「わからない」が36.0%と、他の年代に比べ10ポイント以上多くなっています。

【性的マイノリティ（またはLGBT等）にとって生活しづらい社会か/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全 体		297	72	107	16	11	79	12
		100.0	24.2	36.0	5.4	3.7	26.6	4.0
男女別	男性	137	39	38	6	7	42	5
		100.0	28.5	27.7	4.4	5.1	30.7	3.6
女性		156	32	68	10	4	36	6
		100.0	20.5	43.6	6.4	2.6	23.1	3.8
年代別	20代以下	59	18	19	5	2	14	1
		100.0	30.5	32.2	8.5	3.4	23.7	1.7
	30～50代	149	37	66	6	6	33	1
		100.0	24.8	44.3	4.0	4.0	22.1	0.7
60代以上		86	16	21	5	3	31	10
		100.0	18.6	24.4	5.8	3.5	36.0	11.6

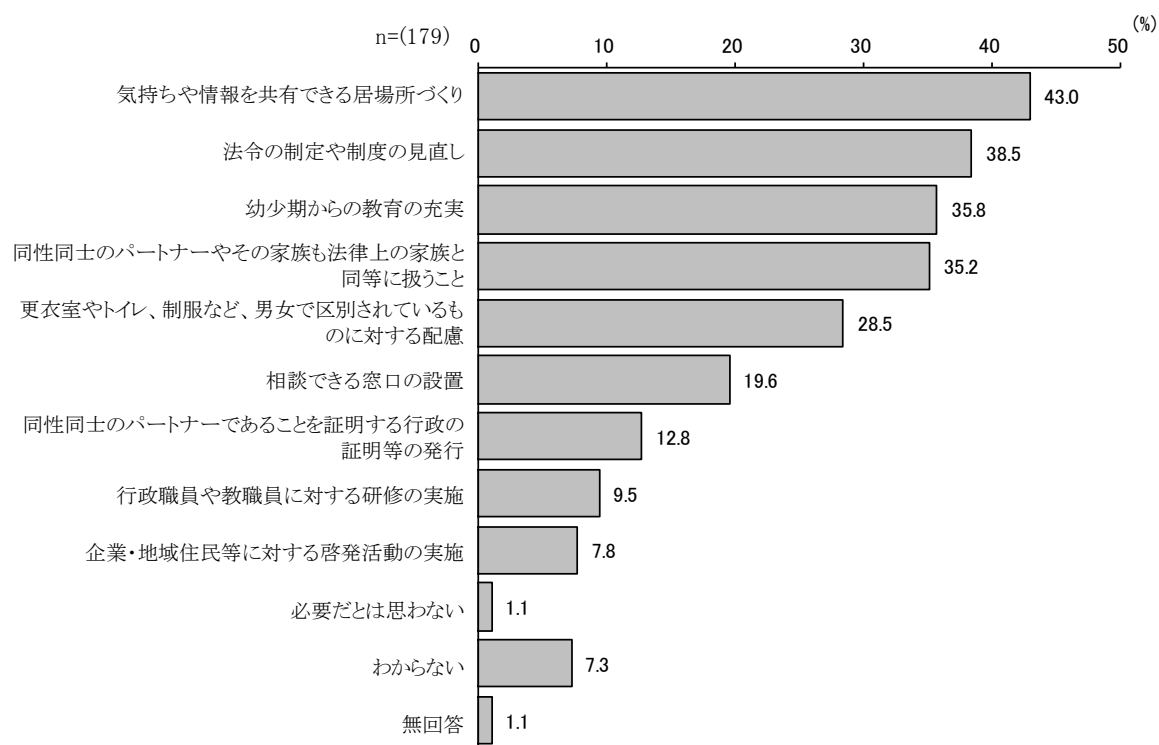
上段：件数、下段：%

(4) 性的マイノリティ（またはLGBT等）が生活しやすくなるための対策

* 問 35 で 1「そう思う」または 2「どちらかといえばそう思う」と答えられた方にお聞きます

問 36 性的マイノリティ（またはLGBT等）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。

次の 1～11 の中から 3 つ以内で選んで○をしてください。



性的マイノリティ（またはLGBT等）が生活しやすくなるための対策については、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が43.0%と最も多く、以下、「法令の制定や制度の見直し」（38.5%）、「幼少期からの教育の充実」（35.8%）となっています。

男女別にみると、『女性』では「法令の制定や制度の見直し」が43.0%と、最も多くなっています。

年代別にみると、『30～50代』では「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」「法令の制定や制度の見直し」「幼少期からの教育の充実」がともに38.8%と、最も多くなっています。

【性的マイノリティ（またはLGBT等）が生活しやすくなるための対策/男女別/年代別】

		調査数	居場所や情報共有でき	法令の制定や制度の見直し	幼少期からの教育の充実	同性家族の法律上の家族や	相談できる窓口の設置	更衣室やトイレ、制服など、男女別配慮	同性士の発明・発注・行政での	行政職員の業務に対する	企業・活動の実施等に対する	必要だとは思わない	わからない	無回答
全 体		179	77	69	64	63	35	51	23	17	14	2	13	2
		100.0	43.0	38.5	35.8	35.2	19.6	28.5	12.8	9.5	7.8	1.1	7.3	1.1
男女別	男性	77	35	25	23	21	19	13	12	6	9	2	8	1
		100.0	45.5	32.5	29.9	27.3	24.7	16.9	15.6	7.8	11.7	2.6	10.4	1.3
	女性	100	42	43	40	41	15	38	11	11	4	0	5	1
		100.0	42.0	43.0	40.0	41.0	15.0	38.0	11.0	11.0	4.0	0.0	5.0	1.0
年代別	20代以下	37	19	15	11	15	8	11	10	3	2	1	1	0
		100.0	51.4	40.5	29.7	40.5	21.6	29.7	27.0	8.1	5.4	2.7	2.7	0.0
	30～50代	103	40	40	40	36	18	30	10	9	8	0	9	1
		100.0	38.8	38.8	38.8	35.0	17.5	29.1	9.7	8.7	7.8	0.0	8.7	1.0
	60代以上	37	18	13	12	11	8	10	3	5	3	1	3	1
		100.0	48.6	35.1	32.4	29.7	21.6	27.0	8.1	13.5	8.1	2.7	8.1	2.7

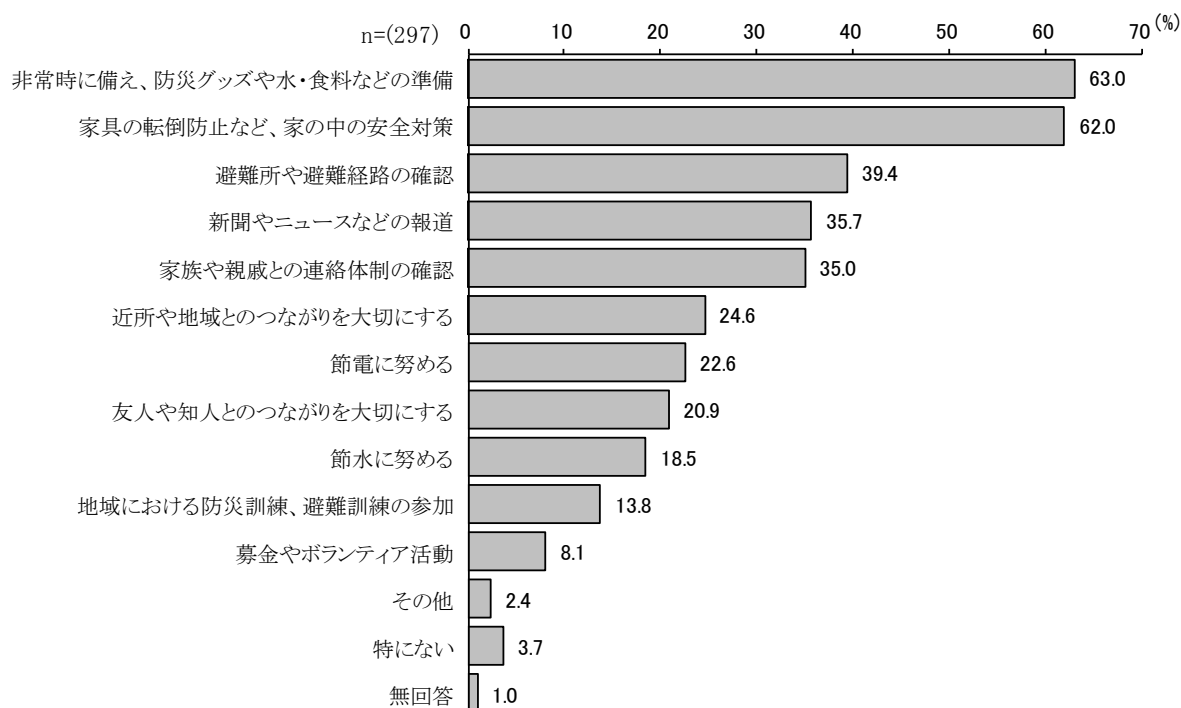
上段：件数、下段：%

12. 防災・災害復興について

(1) 震災後、生活において強く意識していること

問 37 東日本大震災後、生活において強く意識するようになったことは何ですか。

次の1～13の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。



震災後、生活において強く意識していることについては、「非常時に備え、防災グッズや水・食料などの準備」が63.0%と最も多く、以下、「家具の転倒防止など、家の中の安全対策」(62.0%)、「避難所や避難経路の確認」(39.4%)となっています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、『60代以上』では「新聞やニュースなどの報道」が50.0%と、他の年代に比べ10ポイント以上多くなっています。

【震災後、生活において強く意識していること/男女別/年代別】

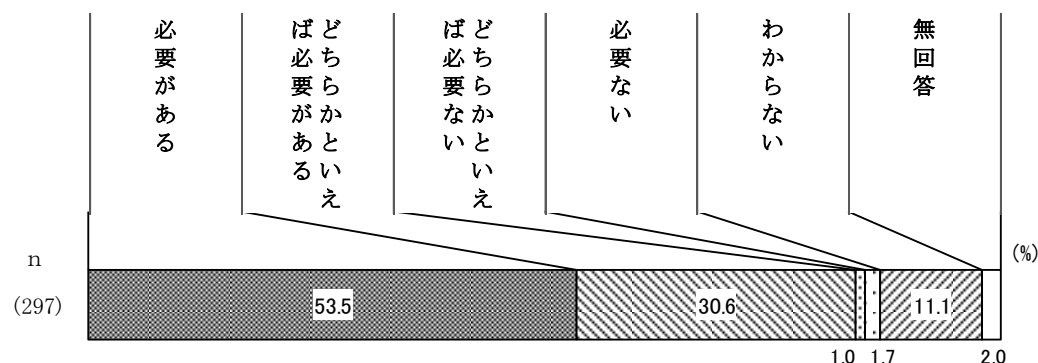
	調査数	節電に努める	節水に努める	非常時に備え、防災グッズや水・食料などの準備	避難所や避難経路の確認	家族や親戚との連絡体制の確認	家具の転倒防止など、家の中の安全対策	近所や地域とのつながりを大切にする	友人や知人とのつながりを大切にする	新聞やニュースなどの報道	活動募金やボランティア	地域における防災訓練の参加	その他	特にない	無回答
全体	297 100.0	67 22.6	55 18.5	187 63.0	117 39.4	104 35.0	184 62.0	73 24.6	62 20.9	106 35.7	24 8.1	41 13.8	7 2.4	11 3.7	3 1.0
男女別															
男性	137 100.0	34 24.8	30 21.9	87 63.5	55 40.1	46 33.6	84 61.3	33 24.1	25 18.2	46 33.6	16 11.7	26 19.0	3 2.2	5 3.6	3 2.2
女性	156 100.0	31 19.9	24 15.4	99 63.5	60 38.5	56 35.9	99 63.5	39 25.0	36 23.1	57 36.5	8 5.1	15 9.6	4 2.6	6 3.8	0 0.0
年代別															
20代以下	59 100.0	8 13.6	8 13.6	37 62.7	16 27.1	19 32.2	32 54.2	8 13.6	16 27.1	18 30.5	2 3.4	5 8.5	2 3.4	3 5.1	0 0.0
30～50代	149 100.0	31 20.8	24 16.1	97 65.1	57 38.3	48 32.2	97 65.1	30 20.1	22 14.8	42 28.2	12 8.1	17 11.4	2 1.3	6 4.0	0 0.0
60代以上	86 100.0	27 31.4	23 26.7	52 60.5	42 48.8	35 40.7	54 62.8	34 39.5	23 26.7	43 50.0	10 11.6	19 22.1	3 3.5	2 2.3	3 3.5

上段：件数、下段：%

(3) 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要か

問 39 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。



防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要かについては、「必要がある」が53.5%と最も多く、以下、「どちらかといえば必要がある」(30.6%)、「必要ない」(1.7%)となっています。

男女別にみると、『女性』では「必要がある」が60.3%と、『男性』に比べ10ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、「必要がある」が、年代が下がるにつれ多くなっています。

【防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要か/男女別/年代別】

		調査数	必要がある	どちらかといえば必要がある	どちらかといえば必要ない	必要ない	わからない	無回答
全 体		297	159	91	3	5	33	6
		100.0	53.5	30.6	1.0	1.7	11.1	2.0
男女別	男性	137	63	49	1	3	17	4
		100.0	46.0	35.8	0.7	2.2	12.4	2.9
男女別	女性	156	94	41	2	2	15	2
		100.0	60.3	26.3	1.3	1.3	9.6	1.3
年代別	20代以下	59	36	12	2	0	9	0
		100.0	61.0	20.3	3.4	0.0	15.3	0.0
	30～50代	149	81	50	0	3	15	0
		100.0	54.4	33.6	0.0	2.0	10.1	0.0
年代別	60代以上	86	40	28	1	2	9	6
		100.0	46.5	32.6	1.2	2.3	10.5	7.0

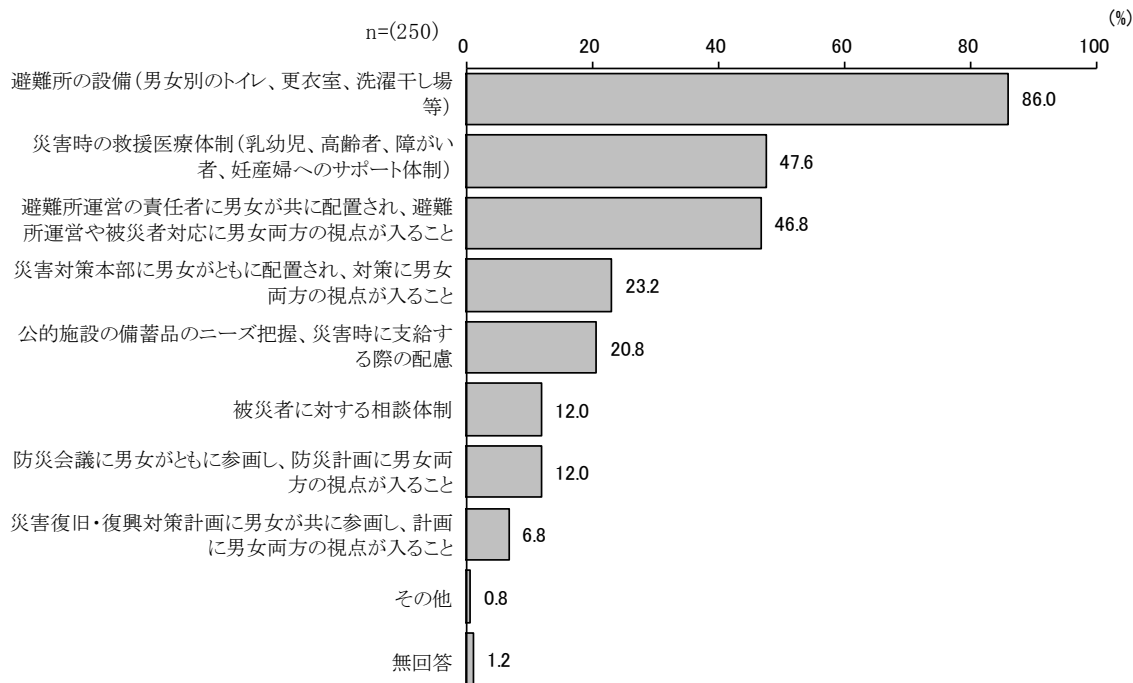
上段：件数、下段：%

(4) 性別に配慮した対応が必要なこと

* 問 39 で 1「必要がある」または 2「どちらかといえば必要がある」と答えられた方にお聞きます

問 40 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか。

次の 1～9 の中から 3 つ以内で選んで○をしてください。



防災・災害復興対策で、性別に配慮した対応が必要だと思うことについては、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」が 86.0%と最も多く、以下、「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）」（47.6%）、「避難所運営の責任者に男女が共に配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」（46.8%）となっています。

男女別にみると、『男性』では「防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること」が17.0%と、『女性』に比べ多くなっています。

年代別にみると、『20代以下』では「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）」が54.2%と、他の年代に比べ多くなっています。

【性別に配慮した対応が必要なこと/男女別/年代別】

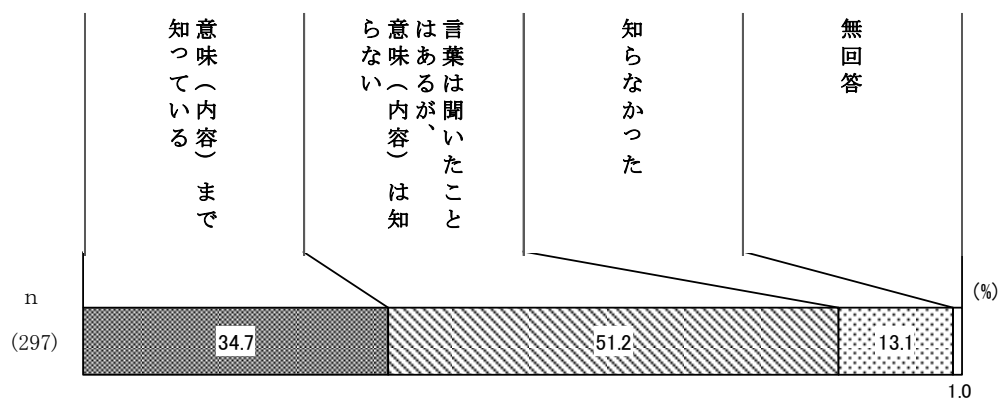
		調査数	避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）	避難所の運営の責任者に入ること	避難所の運営の責任者に入ること	高齢者の障がい者、妊産婦へのサポート体制）	災害時の救援医療体制（乳幼児の災害時に支給する際の配慮	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制	防災計画に男女両方の視点が入ること	防災会議に男女両方の視点が入ること	災害対策本部に男女両方の視点が入ること	災害復旧・復興計画に男女両方の視点が入ること	その他	無回答
全 体		250 100.0	215 86.0	117 46.8	119 47.6	52 20.8	30 12.0	30 12.0	58 23.2	17 6.8	2 0.8	3 1.2			
男女別	男性	112 100.0	96 85.7	52 46.4	52 46.4	22 19.6	15 13.4	19 17.0	26 23.2	9 8.0	2 1.8	2 1.8			
	女性	135 100.0	116 85.9	65 48.1	65 48.1	30 22.2	12 8.9	11 8.1	32 23.7	7 5.2	0 0.0	1 0.7			
年代別	20代以下	48 100.0	44 91.7	21 43.8	26 54.2	15 31.3	2 4.2	5 10.4	10 20.8	2 4.2	0 0.0	1 2.1			
	30～50代	131 100.0	106 80.9	64 48.9	61 46.6	26 19.8	12 9.2	15 11.5	27 20.6	8 6.1	2 1.5	1 0.8			
	60代以上	68 100.0	62 91.2	32 47.1	30 44.1	11 16.2	13 19.1	10 14.7	21 30.9	6 8.8	0 0.0	1 1.5			

上段：件数、下段：%

13. SDGs(エス・ディー・ジーズ)について

(1) SDGs(持続可能な開発目標)の認知度

問 41 2015 年 9 月の国連サミットで採択された、SDGs(持続可能な開発目標)を知っていますか。
次の 1～3 の中から 1 つだけ選んで○をしてください。



SDGs(持続可能な開発目標)の認知度については、「言葉は聞いたことはあるが、意味(内容)は知らない」が 51.2%と最も多く、以下、「意味(内容)まで知っている」(34.7%)、「知らなかった」(13.1%)となっています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、「意味(内容)まで知っている」が、年代が下がるにつれ多くなっています。

【SDGs(持続可能な開発目標)の認知度/男女別/年代別】

		調査数	知っている(内容)まで	言葉は聞いたことがあるが、意味(内容)は知らない	知らなかった	無回答
全 体		297	103	152	39	3
		100.0	34.7	51.2	13.1	1.0
男女別	男性	137	48	71	16	2
		100.0	35.0	51.8	11.7	1.5
女性		156	55	79	21	1
		100.0	35.3	50.6	13.5	0.6
年代別	20代以下	59	28	25	6	0
		100.0	47.5	42.4	10.2	0.0
	30～50代	149	58	79	12	0
		100.0	38.9	53.0	8.1	0.0
60代以上		86	17	47	19	3
		100.0	19.8	54.7	22.1	3.5

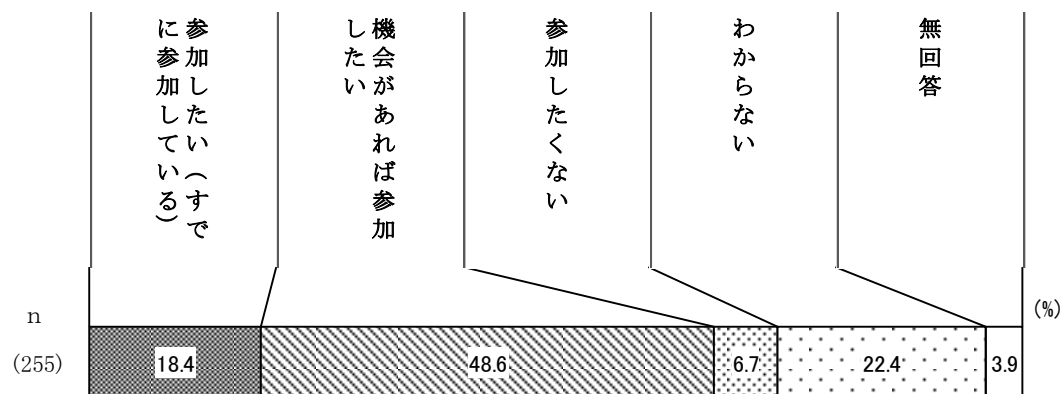
上段：件数、下段：%

(2) SDGs の取り組みに参加したいか

* 問 41 で 1「意味（内容）まで知っている」または 2「言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」と答えられた方にお聞きします。

問 42 あなたは、SDGs の取り組みに参加したいと思いますか。

次の 1～4 の中から 1 つだけ選んで○をしてください。



SDGs の取り組みに参加したいかについては、「機会があれば参加したい」が 48.6%と最も多く、以下、「参加したい（すでに参加している）」(18.4%)、「参加したくない」(6.7%)となっています。

男女別にみると、『女性』では「機会があれば参加したい」が 58.2%と、『男性』に比べ 20 ポイント以上多くなっています。

年代別にみると、『60 代以上』では「わからない」が 39.1%と、他の年代に比べ 10 ポイント以上多くなっています。

【SDGs の取り組みに参加したいか/男女別/年代別】

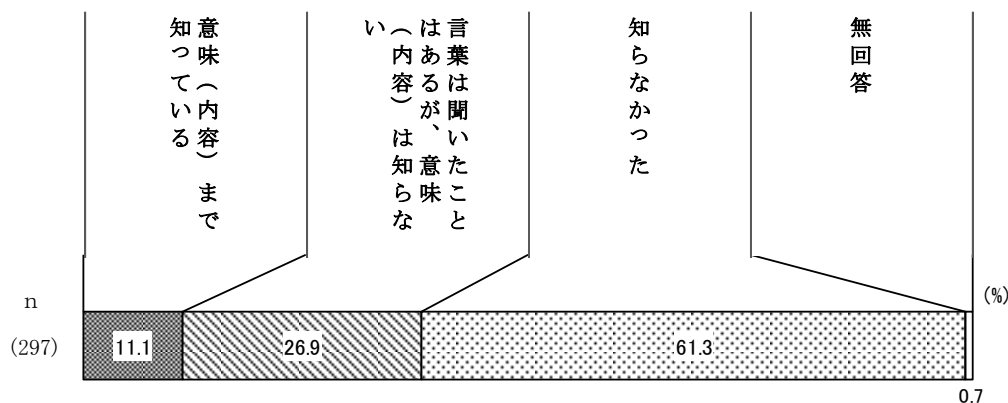
		調査数	参加したい（すでに参加している）	機会があれば参加したい	参加したくない	わからない	無回答
全 体		255	47	124	17	57	10
		100.0	18.4	48.6	6.7	22.4	3.9
男女別	男性	119	26	45	14	30	4
		100.0	21.8	37.8	11.8	25.2	3.4
女性		134	21	78	3	26	6
		100.0	15.7	58.2	2.2	19.4	4.5
年代別	20代以下	53	12	27	3	7	4
		100.0	22.6	50.9	5.7	13.2	7.5
	30～50代	137	32	63	12	25	5
		100.0	23.4	46.0	8.8	18.2	3.6
60代以上		64	3	33	2	25	1
		100.0	4.7	51.6	3.1	39.1	1.6

上段：件数、下段：%

(3)「桑折町 SDGs 推進町民会議」の認知度

問 43 桑折町では 2022 年 5 月に「桑折町 SDGs 推進町民会議」を発足し、全町挙げて SDGs に取り組もうとしていますが、こうした取り組みについて知っていますか。

次の 1～3 の中から 1 つだけ選んで○をしてください。



「桑折町 SDGs 推進町民会議」の認知度については、「知らなかった」が 61.3%と最も多く、以下、「言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」（26.9%）、「意味（内容）まで知っている」（11.1%）となっています。

男女別にみると、『女性』では「言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」が 33.3%と、『男性』に比べ多くなっています。

年代別にみると、『20 代以下』では「知らなかった」が 72.9%と、他の年代に比べ 10 ポイント以上多くなっています。

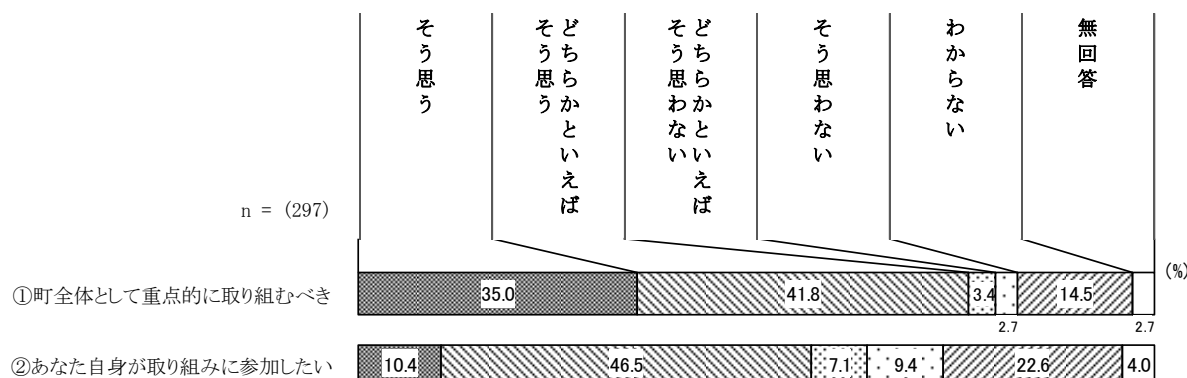
【「桑折町 SDGs 推進町民会議」の認知度/男女別/年代別】

		調査数	知っている（内容）まで	言葉は聞いたことがあるが、意味（内容）は知らない	知らなかった	無回答
全 体		297	33	80	182	2
		100.0	11.1	26.9	61.3	0.7
男女別	男性	137	21	28	86	2
	女性	156	12	52	92	0
		100.0	7.7	33.3	59.0	0.0
年代別	20代以下	59	6	10	43	0
	30～50代	149	23	39	87	0
	60代以上	86	4	31	49	2
		100.0	4.7	36.0	57.0	2.3

上段：件数、下段：%

(4) 桑折町 SDGs 推進町民会議の取り組みについて

問 44 SDGs への理解を高め、町内への浸透を図っていく「桑折町 SDGs 推進町民会議」の取り組みについて、どう思いますか。
それぞれの項目ごと、1～5の中から1つずつ選んで○をしてください。



桑折町 SDGs 推進町民会議の取り組みについて、〈①町全体として重点的に取り組むべき〉については、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が 76.8%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」は 6.1%となっています。

また、〈②あなた自身が取り組みに参加したい〉については、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が 56.9%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」は 16.5%となっています。

《問 44 ①町全体として重点的に取り組むべき》

〈①町全体として重点的に取り組むべき〉を男女別にみると、『女性』では「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が79.5%と、『男性』に比べ多くなっています。

年代別にみると、50代以下では「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が、8割を超えています。

【①町全体として重点的に取り組むべき/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう 思う か と い え ば	そ ど う 思 わ な い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		297 100.0	104 35.0	124 41.8	10 3.4	8 2.7	43 14.5	8 2.7
男女別	男性	137 100.0	48 35.0	53 38.7	3 2.2	7 5.1	20 14.6	6 4.4
	女性	156 100.0	55 35.3	69 44.2	7 4.5	0 0.0	23 14.7	2 1.3
年代別	20代以下	59 100.0	25 42.4	24 40.7	1 1.7	1 1.7	8 13.6	0 0.0
	30～50代	149 100.0	56 37.6	66 44.3	5 3.4	4 2.7	17 11.4	1 0.7
	60代以上	86 100.0	23 26.7	32 37.2	4 4.7	2 2.3	18 20.9	7 8.1

上段：件数、下段：%

《問 44 ②あなた自身が取り組みに参加したい》

〈②あなた自身が取り組みに参加したい〉について男女別にみると、『女性』では「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が60.3%と、『男性』に比べ多くなっています。

年代別にみると、『20代以下』では「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」が64.4%と、他の年代に比べ多くなっています。

【②あなた自身が取り組みに参加したい/男女別/年代別】

		調査数	そう思う	そう 思う か と い え ば	そ ど う 思 わ な い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		297 100.0	31 10.4	138 46.5	21 7.1	28 9.4	67 22.6	12 4.0
男女別	男性	137 100.0	14 10.2	59 43.1	10 7.3	21 15.3	24 17.5	9 6.6
	女性	156 100.0	16 10.3	78 50.0	11 7.1	6 3.8	42 26.9	3 1.9
年代別	20代以下	59 100.0	10 16.9	28 47.5	1 1.7	4 6.8	15 25.4	1 1.7
	30～50代	149 100.0	15 10.1	74 49.7	16 10.7	17 11.4	26 17.4	1 0.7
	60代以上	86 100.0	6 7.0	35 40.7	4 4.7	6 7.0	25 29.1	10 11.6

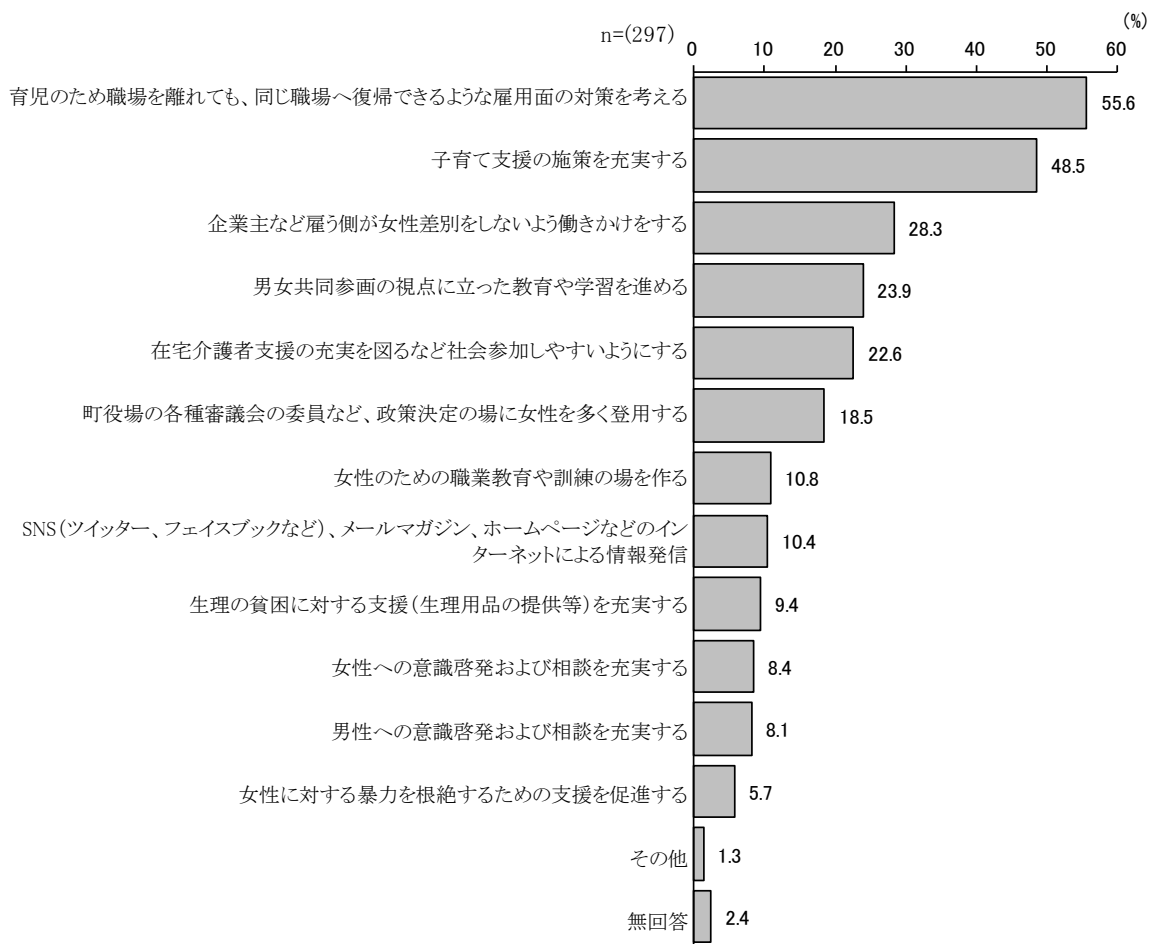
上段：件数、下段：%

14. 行政の役割について

(1) 男女共同参画社会実現のため行政に望むこと

問 45 男女共同参画社会の実現のため、行政に対してどのようなことを要望しますか。

次の1～13の中から3つ以内で選んで○をしてください。



男女共同参画社会実現のため行政に望むことについては、「育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える」が55.6%と最も多く、以下、「子育て支援の施策を充実する」(48.5%)、「企業主など雇う側が女性差別をしないよう働きかけをする」(28.3%)となっています。

男女別による、特徴的な差はみられません。

年代別にみると、『20代以下』では「子育て支援の施策を充実する」が59.3%と最も多く、他の年代に比べ10ポイント以上多くなっています。

【男女共同参画社会実現のため行政に望むこと/男女別/年代別】

		調査数	町役場の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する	企業主など雇う側が女性差別をしないよう働きかけをする	育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える	女性のための職業教育や訓練の場を作る	子育て支援の施策を充実する	在宅介護者支援の充実を図るなど社会参加しやすいようにする	男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める	女性への意識啓発および相談を充実する	男性への意識啓発および相談を充実する	女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する	生理の貧困に対する支援（生理用品の提供等）を充実する	SNS（ツイッター、フェイスブックなど）のインターネットによる情報発信	その他	無回答
全 体		297 100.0	55 18.5	84 28.3	165 55.6	32 10.8	144 48.5	67 22.6	71 23.9	25 8.4	24 8.1	17 5.7	28 9.4	31 10.4	4 1.3	7 2.4
男女別	男性	137 100.0	29 21.2	38 27.7	74 54.0	10 7.3	69 50.4	29 21.2	29 21.2	17 12.4	15 10.9	9 6.6	9 6.6	19 13.9	2 1.5	2 1.5
	女性	156 100.0	25 16.0	44 28.2	90 57.7	22 14.1	73 46.8	37 23.7	42 26.9	7 4.5	9 5.8	7 4.5	19 12.2	11 7.1	2 1.3	5 3.2
年代別	20代以下	59 100.0	12 20.3	19 32.2	34 57.6	2 3.4	35 59.3	6 10.2	13 22.0	2 3.4	2 3.4	5 8.5	11 18.6	11 18.6	1 1.7	1 1.7
	30～50代	149 100.0	24 16.1	39 26.2	83 55.7	21 14.1	72 48.3	33 22.1	30 20.1	17 11.4	16 10.7	7 4.7	12 8.1	13 8.7	2 1.3	1 0.7
	60代以上	86 100.0	18 20.9	24 27.9	48 55.8	9 10.5	35 40.7	28 32.6	28 32.6	5 5.8	6 7.0	4 4.7	5 5.8	6 7.0	1 1.2	5 5.8

上段：件数、下段：%

Ⅲ. 自由記述

問46. 男女共同参画社会づくりに向けて、ご自由にご意見をお書きください。

順位	内容	件数
1	仕事について	14
2	男女の地位に関する意識について	12
3	男女共同参画社会の形成に関する意識について	11
4	行政への要望	7
5	人権の尊重について	6
6	教育について	6
7	日常生活や子育てについて	2
8	健康や地域活動、老後の暮らしについて	1
-	その他	10
合 計		72

※複数回答を含むため、件数は回答者数より多くなっています。

本町の男女共同参画社会づくりについて、45人の方からご意見を頂戴しました。

記載内容をテーマごとに分類したところ、最も多かったのは「仕事について」が14件と最も多く、以下、「男女の地位に関する意識について」(12件)、「男女共同参画社会の形成に関する意識について」(11件)、「行政への要望」(7件)となっています。

以下にテーマごとの主な意見を抜粋しました。

◆ 仕事について

- ・男性も育児休暇をとりやすくするようにする。賃金を上げる。セクハラをなくす。(男性・20代)
- ・子育ては、社会の中で、1番重大で、重要な仕事だと思います。その為、家庭の中での母親の役割りは、とても大きいと思います。しかしながら、この不況の中で共働きでなければ、家庭生活がまかなえず、仕事の責任を果たしながら、家庭の重役を果たすのは容易ではないと痛感しています。社会が思う以上に企業・職場は、男女平等化していると思います。福利厚生も、スキルアップ制度も、男女の差は少ないと感じています。だからこそ、女性だけが心身ともにひっ迫しているように思います。環境を整えると同時に収入・経済の安定をはかることが、優先されるべきなのではないかと思います。(女性・40代)
- ・特に若くして育児を始めた人(社会経験が少ない人)が子育てをしながら研修・職業訓練が出来るよう預かり保育等の拡充と告知を充実させてほしい。※これは若くして父親になった男性にも当てはまりますが。(男性・40代)
- ・子供の急な(対応、熱やケガ)事態に備えて男女共に仕事を抜け出せる用な職場を作ってほしい。(男性・10代)

- ・男女平等は良い取組だと思うけど選択させてほしい。子どもを産んでまで働きたくない。育児と仕事の重要度を平等にしてほしい。働きたい女性は男性と同等に働き、家にいたい女性は家にいる。それで良いと思う。でも金がないので働くけど（女性・20代）

◆ 男女の地位に関する意識について

- ・男女平等、男性の家事・育児の参加、介護への介入と言えど、行政や地域での取り組みは充分であると考えます。しかし、家事や育児をされる側や介護を受ける側が女性を求めているという事実から目を背けては解決出来ないと思う。子供が育つ環境において女性や母親の存在は圧倒的に必要で父親では子の心の成長に充分とは言えないという調査結果もある事を理解し、女性が就業しながら子育てや介護が出来るよう社会的な面からの男性の参加と介入でいいのではないかと思います。（女性・40代）
- ・女性は家庭、男性は仕事優先という考え方は捨てるべきだ。子育ても母と父が平等にするべきだ。長いようで短い子供と両親で過ごせる時間を大切にしてほしい。（女性・10代）
- ・男女共同と一言で言っても、女性側が意識をかえていかないといけない部分もあると思う。役職なども男性におまかせしていることも多いが、今後は女性もやっていかなければいけないと思う。“いいとこどり”の男女共同では本来の共同ではないように感じる。（女性・40代）
- ・「男性だから」「女性だから」というステレオタイプを取り除くことが、必要だと感じる。男女共同参画社会づくりというと、女性の社会進出というイメージがあるが、男性ならではの苦しさ、生きづらさもあると思う。例えば、自殺や社会的孤立のリスクは圧倒的に男性の方が高い。男女双方があゆみよれるような社会づくりの方針になればと感じている。（女性・20代）

◆ 男女共同参画社会の形成に関する意識について

- ・現実問題として男女が同じ立場で同じ行動をするのは難しいと思います。人にはそれぞれの能力と価値感と資質や個性があり、「自分に出来る事をする」だけで良いのではないのでしょうか。無理をしたり必要以上のプレッシャーを与える事は心の負担を大きくして、逆効果ではないかとも思えます。（男性・60代）
- ・男女共同参画が叫ばれて幾久しいが、まだまだ完遂には至っていない現状と認識している。こうした参画社会構築の裏腹で、女性自身のおごり、権利主張ばかりが飛び交う社会に至ってしまうのではと懸念している。本来の男女共同参画の目的から逸脱しないよう、女性の方々にも、権利主張とともに大きな社会的責任があることを自覚していただき、よりよい男女共同参画社会が構築されていくことを願っている。（男性・60代）
- ・強制すると反発することもあるし、権利を主張する人も少なからずいるので少しずつ時間をかけて環境を変えていけば男女共に選択肢が増えて共同参画出来る社会もくるかなと思います。（男性・40代）

◆ 行政への要望

- ・子育てについて、周りの人が桑折町は支援が手厚いとよく言われているので、続けて頂きたいです。授業で習ったことですが、職場でセクハラがあった時、相談窓口が上司で加害者である場合があり相談できない人が多いと知りました。行政の窓口や他団体への相談のできる場所を強く示してほしいです。また、セクハラで告発で職を失った場合、精心的にも社会復帰が難しくなりやすいです。そのような被害者への支援をして頂けると嬉しいです。（女性・20代）

- ・桑折町のような小さな自治体でこのような取り組みが成功すれば、おのずと近隣の自治体にも影響していくと思う。一気に推し進めていくのではなく、住民と町長および役場職員との理解を深めながら徐々に進めていってほしい。(男性・40代)

◆ 人権の尊重について

- ・年配の男性には、まだまだ「女のくせに」という発言や考え方が多くごくごく身近にある。その考えを孫世代に世間話の中ですり込む。その中には、LGBTの方々に配慮のない考え方もあり注意をしたいが、「女のくせに」と思っている年上の男性に対して意見をしづらい。年配男性にはしっかりとと言える立場の人がきちんと新しい世の中の考え方を教えていただきたいと強く思います。孫世代にまで考え方がすり込まれてしまわない様に。(女性・30代)
- ・現在、男・女という性別だけでなく性的マイノリティといった多様な考えをもつ人がいる。何が性差別となるのか、自分自身も気づかなかったり、知識が足りなかつたりしている。まずは、家庭・教育の場で幼い頃から性別を越えた人権教育が必要だと思う。また、子どもだけでなく大人も共に学ぶ・知ることが必要で、そのための情報を行政が発信していくことが必要である。行政や教育ほどなかなか考え方や体制が変わらない。男だから、女だからではなく、誰にとってもよりよい社会、一人一人が充実した生活を送れるように改革できるところから行っていってほしい。(女性・40代)

◆ 教育について

- ・特別支援を必要とする児童が増えていると思います。特に小学校では、男性の先生の手も必要かと思いますが、実際は女性が多いと思います。もっと小学校に男性の先生がいてほしいと思います。(特別支援に限らず)(女性・60代)
- ・学校でもこの分野について学習し、考え、討論する機会があると良いと思う。(男性・10代)
- ・男女平等とはいえ役割(もともと?の)のちがいもあるので個人個人に合わせた社会づくりが必要だと思う。男だから女だからという固定概念をとり除くための教育が重要だと感じます。(女性・60代)

◆ 日常生活や子育てについて

- ・桑折町は出産祝い金等が充実していないと思います。(3人目の祝い金)過疎化、少子高齢化を止めるため若い世代に引越して長く住み続けてもらうためにも必要な制度の1つなのではないかと思います。(女性・20代)
- ・家庭では出来ることをお互いに協力し助け合うようにして生活を送りたいです。(女性・60代)

◆ 健康や地域活動、老後の暮らしについて

- ・各町内においても、若者の生活が少なく子供達も少なく、高齢者社会が現実にあります。これからの先行きが心配になります。(男性・70代以上)

◆ その他

- ・今までの取組みで十分だと私は思いますが、どの場所でも「話し合い」が重要だと思います。(女性・70代)
- ・ハラスメントで、問27の内容は、セクハラの内容になっていた。意識調査と言ってるが、男性目線の調査に感じた。(女性・40代)

第3章 資料（調査票）

第3章 資料（調査票）

桑折町 男女共同参画に関する町民意識調査

～アンケート調査へのご協力のお願い～

日頃より、町政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
このたび、当町にお住まいの15歳以上の方800名を無作為に抽出させていただき、男女共同参画に関する意識や問題点、考え方等についてお伺いし、皆様のご意見を参考にして、今後の男女共同参画計画につなげていきたいと考えております。日々お忙しいことと思いますが、少しでもお時間をつくっていただき、あなたの思いを町政に届けていただければ幸いです。

なお、ご回答の内容は、すべて統計的に処理し、プライバシーの保護はもとより、他の目的に利用することは一切ございませんので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和4年7月 桑折町 総合政策課

ご記入にあたってのお願い

1. このアンケートは、宛名のご本人がお答えください。なお、病気等やむを得ない事情がある場合など、ご家族の方が代筆していただいても結構です。
2. 回答は、あてはまる回答の番号に○をつけてください。質問によって「○は1つ」「あてはまるものすべてに○」のように○をつける数を指定している場合があります。質問文の案内に沿って回答してください。
3. 「その他（ ）」とお答えの場合は、（ ）の中に具体的にお書きください。
4. 回答は無記名でお願いします（住所や氏名のご記入は必要ありません）。

●ご記入済みのアンケートは、同封の返信用封筒（切手は不要です）を用いて、

7月29日（金）までに郵便ポストにご投函ください。

※町役場へ直接お持ち込みいただくことも可能です。

●本アンケートはパソコンやスマートフォンなどからもご回答いただけます。

以下のQRコードを読み取りいただくか、URLから回答フォームにアクセスできます。

下記に記載されている整理番号をご入力の上、画面の指示にしたがって回答ください。

※インターネットでご回答いただいた場合、本調査票の返送は不要です。

QRコード



インターネット回答用整理番号（数字5桁）

※重複回答を防ぐため、ランダムに生成された番号です。個人を特定する番号ではありません。

URL : https://www15.webcas.net/form/pub/s-tohoku/koori_gender

このアンケート調査についてのお問い合わせ先

〒969-1692 福島県伊達郡桑折町大字谷地字道下22番地7 総合政策課

TEL : 024-582-2111（代）

FAX : 024-582-2479

【はじめに、あなた自身についておたずねします】

問1 次の項目について、あなたにあてはまるものに○をしてください。

性別（自認する性）（○は1つ）

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

年齢（○は1つ）

1 10代	4 40代	7 70代以上
2 20代	5 50代	
3 30代	6 60代	

職業（○は1つ）

1 会社員（正社員）	5 自営業・農業	9 家事専念
2 会社員（非正規）	6 会社役員	10 学生
3 公務員（正職員）	7 自由業	11 無職
4 公務員（非正規）	8 パート・アルバイト	12 その他（ ）

婚姻の状況（○は1つ）

1 既婚（配偶者あり）	2 離婚・死別	3 未婚
-------------	---------	------



* 婚姻の状況で1「既婚（配偶者あり）」と答えた方にお聞きます

共働きの状況（○は1つ）

1 共働き	2 一方が家事専念	3 共に無職
-------	-----------	--------

同居の状況（○は1つ）

1 あなただけの単身世帯	3 親と子の世帯	5 その他（ ）
2 夫婦だけの世帯	4 親と子と孫の世帯	

世帯の収入（○は1つ）

1 100万円未満	4 500～700万円未満	7 1,100万円以上
2 100～300万円未満	5 700～900万円未満	
3 300～500万円未満	6 900～1,100万円未満	

現在の居住地（○は1つ）

1 桑折地域	3 伊達崎地域
2 睦合地域	4 半田地域

【男女平等についておたずねします】

問2 次の各分野で男女が平等になっていると思いますか。

それぞれの項目で1～6の中から1つだけ選んで○をしてください。

	1 男性が優遇 されている	2 どちらかとい えば男性 が優遇され ている	3 平等になっ ている	4 どちらかとい えば女性 が優遇され ている	5 女性が優遇 されている	6 わからない
① 家庭の中で	1	2	3	4	5	6
② 職場の中で	1	2	3	4	5	6
③ 政治の場で	1	2	3	4	5	6
④ 学校の中で	1	2	3	4	5	6
⑤ 社会通念・しきたり上で	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度上で	1	2	3	4	5	6
⑦ 地域社会で	1	2	3	4	5	6

【結婚と家庭生活についておたずねします】

問3 次の項目について、あなたはどのように思いますか。

それぞれ1～4の中から1つだけ選んで○をしてください。

	1 そう思う	2 どちらかとい えばそう思う	3 どちらかとい えばそう思わ ない	4 そう思わない
① 一人で暮らしていければ、あえて結婚 する必要はない	1	2	3	4
② 結婚したい場合でも、経済的な事情等 で実際には結婚が難しい側面もある	1	2	3	4
③ 特定の人と一緒に暮らしていく場合で も、結婚という形式に拘る必要はない	1	2	3	4
④ 結婚しても、必ずしも子供をもたなく てもよい	1	2	3	4
⑤ 選択的夫婦別姓の結婚が認められても よい	1	2	3	4
⑥ 男性は外で働き、女性は家庭を守るべ きだ	1	2	3	4
⑦ 男性も家事や子育てなどの家庭の責任 を分担して担うべきだ	1	2	3	4

- 問4** 既婚の方にお尋ねします。あなたの家庭では、次の項目の仕事は夫婦のうち、どちらが主に担当されていますか。
それぞれ1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。

	1 主として妻	2 夫婦同程度	3 主として夫	4 その他の 家族等	5 該当なし
① 生活費を得る	1	2	3	4	5
② 掃除	1	2	3	4	5
③ 洗濯	1	2	3	4	5
④ 食事のしたく	1	2	3	4	5
⑤ 食事の片づけ	1	2	3	4	5
⑥ 家計の管理	1	2	3	4	5
⑦ 育児・教育	1	2	3	4	5
⑧ 高齢者の世話・介護	1	2	3	4	5
⑨ 地域活動（PTA や町内会等）	1	2	3	4	5

【男性の家事・育児の参加についておたずねします】

- 問5** 男性が育児休業を取得することについて、どう思いますか。
次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。

1 賛成	4 反対
2 どちらかといえば賛成	5 わからない
3 どちらかといえば反対	

問6 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～16の中から3つ以内で選んで○をしてください。

- | | |
|----|--|
| 1 | 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりなどを改めること |
| 2 | 学校教育や生涯学習の場において、男女共同参画について学習を充実すること |
| 3 | 男女ともに家事などができるような能力を身につけること |
| 4 | 男性が生活面において自立できるような能力を身につけること |
| 5 | 女性自身が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること |
| 6 | 行政や民間、地域社会などにおける政策・方針決定の場に女性を積極的に登用すること |
| 7 | 雇用機会や昇進など、職場における男女の対等な取扱いを徹底すること |
| 8 | 労働時間短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇、休業制度を普及させること |
| 9 | 年功序列、終身雇用等の従来の雇用制度を見直し、再雇用や中途採用枠の拡大など柔軟な制度を普及させること |
| 10 | パートタイマー、派遣労働者等の労働条件を向上させること |
| 11 | 官民ともに、育児・介護に係る施設や、家事・育児・介護に係るサービス等を充実させること |
| 12 | 男女の賃金の格差を解消すること |
| 13 | フレックスタイム制、テレワークなどの柔軟な勤務制度を導入すること |
| 14 | SDGs等、国際的な価値観や規範を浸透させること |
| 15 | その他（ ） |
| 16 | 分からない |

【子育てについて（お子さんのいらっしゃる方は考えをお聞かせください）】

問7 お子さんをどのような教育方針で育てられましたか。また、どのように育てたいと思いますか。

次の1～5の中から2つ以内で選んで○をしてください。

- 1 性別にとらわれることなく、男女のわけへだてなく育てた（育てたい）
- 2 男も家事ができるよう、女も経済的に自立できるよう育てた（育てたい）
- 3 男の子は積極的に、女の子は控えめに育てた（育てたい）
- 4 男は仕事ができ、女は家庭を守るよう育てた（育てたい）
- 5 その他（ ）

問8 次の世代を担う子どもたちに対して、家庭や学校で人権や男女平等意識の育成を重視した教育が重要であるという考え方がありますが、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～10の中から3つ以内で選んで○をしてください。

- 1 学校における特別活動や、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、生徒個人の希望と能力を重視する
- 2 学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、生徒個人の希望や能力を重視する
- 3 学校において、人権や男女平等に関する授業を行う
- 4 学校のクラス名簿に男女混合名簿の導入を推進する
- 5 家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う
- 6 学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う
- 7 女性の校長や教頭を増やす
- 8 今のままで良い
- 9 その他（ ）
- 10 分からない

【介護についておたずねします】

問9 家庭における高齢者等の介護を主として女性が担うことについてどう思いますか。

次の1～4の中からあなたの考えに最も近いものを1つだけ選んで○をしてください。

- 1 介護される側のことを考えると、女性が介護する方が好ましい
- 2 女性が主として介護することは、好ましくはないが、やむを得ない
- 3 女性が主として介護することは、好ましくはないので、男性も介護するべきだ
- 4 その他（ ）

問 14 職場での女性の地位向上のためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～7の中からあなたの考えに近いものを2つ以内で選んで○をしてください。

- 1 職場において、女性を積極的に登用すること
- 2 職場において、配置や研修で性別による差をつけないこと
- 3 女性が知識や技術を身につけること
- 4 女性自身が仕事に関して意識改革をすること
- 5 男女平等意識の向上のために管理職や従業員を対象とした教育や啓発を実施すること
- 6 男女ともに育児休業や介護休業がとりやすいよう制度の整備・充実を行うこと
- 7 その他()

問 15 女性が働きつづけるために必要なことは何だと思いますか。

次の1～17の中からあなたの考えに近いものを3つ以内で選んで○をしてください。

- 1 賃金、仕事内容など、労働条件面での男女差をなくす
- 2 パート、派遣労働等の労働条件を改善する
- 3 労働時間の短縮や休日の増加、就業時間に柔軟性を持たせるなど働きやすい労働条件とする
- 4 ワークシェアリングを導入する
- 5 セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）のない職場をつくる
- 6 女性に対して研修や職業訓練の場を確保する
- 7 女性に対して昇進、昇格の機会を確保する
- 8 女性自身が意欲・能力を高める
- 9 育児・介護のための休業制度、諸手当を充実する
- 10 福利厚生施設や福利厚生制度を充実する
- 11 託児施設、託児サービスを充実する
- 12 介護施設、介護サービスを充実する
- 13 育児・介護等で退職した後に再雇用する制度を充実する
- 14 家庭内での家事や子育て、介護の協力を得る
- 15 家事・育児・介護は女性がするものという社会の意識を改める
- 16 その他()
- 17 分からない

問 16 現在働いている方にお尋ねします。あなたの現在の職場で、仕事の内容や接遇面において、男女で差があると思いますか。

次の1～4の中から1つだけ選んで○をしてください。

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 男性が優遇されていると思う | 3 男女に差はない |
| 2 女性が優遇されていると思う | 4 わからない |

* **問 16** で1または2「(男性・女性が) 優遇されていると思う」と答えた方にお聞きます

問 17 それは具体的にどのようなことですか。

次の1～5の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | |
|---------------------------------|
| 1 賃金に差がある |
| 2 昇進、昇格に差がある |
| 3 業務内容に差がある |
| 4 結婚したり、子供が生まれたりすると仕事を続けにくいと感じる |
| 5 その他() |

問 18 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、あなたの働き方や仕事内容に変化はありましたか。

次の1～2の中から1つだけ選んで○をしてください。

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 何かしらの変化があった | 2 特に変化はなかった |
|---------------|-------------|

* 問18 で1「何かしらの変化があった」と答えられた方にお聞きします

問19 働き方や仕事内容に変化があった理由として、次の1～16の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- 1 業績が悪化したから
- 2 経営・運営状況（営業時間等）が変化したから
- 3 解雇（雇止め含む）を言い渡されたから
- 4 出社制限がかかった・出社人数を減らしたから
- 5 子供の面倒を見なければいけなかったから
- 6 介護をする時間が長くなったから
- 7 配偶者と家事、育児の分担が不可能になったから
- 8 心身の不調を感じたから
- 9 働く時間を増やさないといけなくなったから
- 10 テレワーク等多様な働き方が認められたから
- 11 勤め先・仕事のデジタル化が進んだから
- 12 オンラインで可能な事が多くなり時間に余裕ができたから
- 13 コロナを機に仕事のニーズが高まり忙しくなったから
- 14 個人的な理由から
- 15 その他（ ）
- 16 特に変化はなかった

【ワーク・ライフ・バランスについておたずねします】

問20 女性及び男性の望ましいと思う生き方はどのような生き方だと思いますか。
それぞれの項目ごと、1～6の中から1つずつ選んで○をしてください。

	1 家庭生活又は地域活動 よりも、仕事に専念する	2 家庭生活又は地域活動にも 携わるが、あくまでも仕事を 優先させる	3 家庭生活又は地域活動と 仕事を同じように両立させる	4 仕事にも携わるが、家庭生活 又は地域活動を優先させる	5 仕事よりも、家庭生活又は地域 活動に専念する	6 分からない
① 男性の生き方	1	2	3	4	5	6
② 女性の生き方	1	2	3	4	5	6

問 21 仕事と生活について、あなた自身の考え方（理想）と現実（現状）に最も近いものはどれですか。

それぞれの項目ごと、1～7の中から1つずつ選んで○をしてください。

	1 「仕事」を優先	2 「家庭生活」を優先	3 「地域・個人の生活」を優先	4 「仕事」と「家庭生活」を ともに両立	5 「仕事」と「地域・個人の 生活」をともに両立	6 「家庭生活」と「地域・個人 の生活」をともに両立	7 「仕事」と「家庭生活」と「地 域・個人の生活」をすべてバ ランスよく行う
① 考え方（理想）	1	2	3	4	5	6	7
② 現実（現状）	1	2	3	4	5	6	7

問 22 あなたは、日常生活の中で次の項目について満足する時間が取れていますか。

それぞれの項目ごと1～4の中から1つずつ選んで○をしてください。

	1 十分取れている	2 まあまあ取れて いる	3 あまり取れて いない	4 まったく取れて いない
① 仕事のための時間	1	2	3	4
② 家事・育児等の時間	1	2	3	4
③ 家族・恋人・友人と過ごす時間	1	2	3	4
④ 個人の時間 （学習・趣味・スポーツなど）	1	2	3	4
⑤ 地域活動に参加する時間	1	2	3	4
⑥ 休養	1	2	3	4

【社会参加についておたずねします】

問 23 あなたが現在、関心のある活動は何ですか。
次の1～10の中から2つ以内で選んで○をしてください。

- 1 町内会・自治会などの地域活動
- 2 PTA・子ども会・青少年グループなどの児童健全育成活動
- 3 高齢者・障がい者等のためのボランティア活動
- 4 芸術・文化・スポーツなど趣味のグループ活動
- 5 環境保護・消費生活改善活動などの市民運動
- 6 公民館講座等での学習
- 7 政治活動
- 8 国際交流活動
- 9 関心なし
- 10 その他()

問 24 あなたが、問 23 の活動に参加しようとするとき、障害となるものがありますか。
次の1～8の中から2つ以内で選んで○をしてください。

- 1 仕事が忙しい
- 2 家事（炊事、洗濯、掃除など）が忙しい
- 3 小さい子どもや高齢者・病人がいる
- 4 経済的余裕がない
- 5 情報が少ない
- 6 特に障害はない
- 7 参加したいと思わない
- 8 その他()

【セクシャル・ハラスメント、DV についておたずねします】

ハラスメントや DV を受けた嫌な体験を思い出させてしまい申し訳ありませんが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご回答いただければ幸いです。

問 25 あなたの身近なところ（職場・地域・学校）にセクシャル・ハラスメントがありますか。
次の 1～4 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 自分自身が受けたことがある | 3 見たり聞いたりしたことがある |
| 2 自分自身がしたことがある | 4 ない |

* **問 25** で 1「自分自身が受けたことがある」と答えられた方にお聞きます

問 26 そのハラスメントは、どこで受けたものでしょうか。
次の 1～5 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1 職場で | 4 家庭で |
| 2 地域で | 5 その他（ ） |
| 3 学校で | |

* **問 25** で 1「自分自身が受けたことがある」と答えられた方にお聞きます

問 27 その内容はどんなものだったのでしょうか。
次の 1～11 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | |
|--|
| 1 性的な経験についてしつこく尋ねられた |
| 2 容姿や服装についてあれこれ言われた |
| 3 立場や地位を利用して性的な関係を強要された |
| 4 肩や尻など身体に触られた |
| 5 身体をじろじろ見られた |
| 6 食事やデートに執拗に誘われた |
| 7 宴会などでお酌やデュエットを強要された |
| 8 週刊誌などのヌード写真を見せられた |
| 9 性的な冗談や冷やかしを言われた |
| 10 交友関係などプライベートについて噂をながされた |
| 11 その他（ ） |

問 28 DV が社会問題になっていますが、あなたの身近にこのような暴力がありますか。

次の 1～4 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 自分自身が暴力を受けたことがある | 3 暴力について見たり聞いたりしたことがある |
| 2 自分自身が暴力をふるったことがある | 4 ない |

* **問 28** で 1「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きます

問 29 その内容はどんなものだったのでしょうか。

次の 1～11 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | |
|-----------------------------|
| 1 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた |
| 2 医師の治療が必要となるくらいの暴力を受けた |
| 3 医師の治療を必要としないくらいの暴力を受けた |
| 4 外出や交友関係を厳しく制限された |
| 5 「だれのおかげで生活できるんだ」などと言われた |
| 6 大声でどなられたりおどされた |
| 7 いやがっているのに性関係を強要された |
| 8 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた |
| 9 何を言っても無視された |
| 10 生活費を渡してもらえない |
| 11 その他() |

* **問 28** で 1「自分自身が暴力を受けたことがある」と答えられた方にお聞きます

問 30 暴力を受けたことについて、誰かに相談しましたか。相談先はどこでしたか。

次の 1～8 の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | |
|-------------------------|
| 1 友人・知人に相談した |
| 2 家族や親せきに相談した |
| 3 警察に連絡・相談した |
| 4 医療関係者（医師・看護師など）に相談した |
| 5 法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した |
| 6 男女共同参画センターに相談した |
| 7 どこ（だれ）にも相談しなかった |
| 8 その他() |

* 問 30 で7「どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えられた方にお聞きます

問 31 どこ（だれ）にも相談しなかった、出来なかった理由は何ですか。

次の1～10の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- 1 相談しても無駄だと思ったから
- 2 自分さえ我慢すればいいと思ったから
- 3 相談するほどのことではないと思ったから
- 4 相談したとわかると、仕返しされと思ったから
- 5 相談できるほど心に余裕がなかった
- 6 どこ（だれ）に相談してよいかわからなかったから
- 7 自分にも悪いところがあると思ったから
- 8 世間体が悪いから
- 9 恥ずかしかったから
- 10 その他()

問 32 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。

次の1～9の中からあなたが知っているものすべて選んで○をしてください。

- 1 警察
- 2 女性のための相談支援センター、男女共生センター
- 3 保健福祉事務所、女性相談員
- 4 民間の機関（弁護士会、民間シェルターなど）
- 5 県庁、町役場
- 6 法務局・地方法務局、人権擁護委員
- 7 裁判所
- 8 その他()
- 9 相談できる窓口として知っているところはない

【性的マイノリティについておたずねします】

問 33 あなたは、性的マイノリティ（または LGBT 等）という言葉を知っていますか。

次の 1～2 の中から 1 つだけ選んで○をしてください。

1 はい

2 いいえ

問 34 あなたは、今までに自分の体の性、心の性または性的指向に悩んだことがありますか。

次の 1～2 の中から 1 つだけ選んで○をしてください。

1 はい

2 いいえ

問 35 現在、性的マイノリティ（または LGBT 等）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

次の 1～5 の中から 1 つだけ選んで○をしてください。

1 そう思う

4 そう思わない

2 どちらかといえばそう思う

5 わからない

3 どちらかといえばそう思わない

* **問 35** で 1「そう思う」または 2「どちらかといえばそう思う」と答えられた方にお聞きします

問 36 性的マイノリティ（または LGBT 等）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生計しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。

次の 1～11 の中から 3 つ以内で選んで○をしてください。

1 気持ちや情報を共有できる居場所づくり

2 法令の制定や制度の見直し

3 幼少期からの教育の充実

4 同性同士のパートナーやその家族も法律上の家族と同等に扱うこと

5 相談できる窓口の設置

6 更衣室やトイレ、制服など、男女で区別されているものに対する配慮

7 同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明等の発行

8 行政職員や教職員に対する研修の実施

9 企業・地域住民等に対する啓発活動の実施

10 必要だとは思わない

11 わからない

【防災・災害復興についておたずねします】

問 37 東日本大震災後、生活において強く意識するようになったことは何ですか。

次の1～13の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | | |
|--------------------------|---|
| 1 節電に努める | |
| 2 節水に努める | |
| 3 非常時に備え、防災グッズや水・食料などの準備 | |
| 4 避難所や避難経路の確認 | |
| 5 家族や親戚との連絡体制の確認 | |
| 6 家具の転倒防止など、家の中の安全対策 | |
| 7 近所や地域とのつながりを大切にする | |
| 8 友人や知人とのつながりを大切にする | |
| 9 新聞やニュースなどの報道 | |
| 10 募金やボランティア活動 | |
| 11 地域における防災訓練、避難訓練の参加 | |
| 12 その他（ | ） |
| 13 特にない | |

問 38 今後、災害が発生して避難が必要になった時に心配なことは何ですか。

次の1～7の中からあてはまるものすべて選んで○をしてください。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1 災害についての的確な情報が得られるか | |
| 2 家族との連絡がとれなくなるのではないか | |
| 3 病人・高齢者・障がい者の避難（介助してくれる人がいるかどうか） | |
| 4 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか | |
| 5 近隣の人たちと助けあって避難できるか | |
| 6 避難所が安心か | |
| 7 その他（ | ） |

問 39 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。

次の1～5の中から1つだけ選んで○をしてください。

- | | |
|-----------------|---------|
| 1 必要がある | 4 必要ない |
| 2 どちらかといえば必要がある | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば必要ない | |

* 問 39 で1「必要がある」または2「どちらかといえば必要がある」と答えられた方にお聞きします

問 40 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか。
次の1～9の中から3つ以内で選んで○をしてください。

- 1 避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）
- 2 避難所運営の責任者に男女が共に配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
- 3 災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制）
- 4 公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮
- 5 被災者に対する相談体制
- 6 防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること
- 7 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること
- 8 災害復旧・復興対策計画に男女が共に参画し、計画に男女両方の視点が入ること
- 9 その他（ ）

【SDGs（エス・ディー・ジーズ）についておたずねします】

SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標で、17のゴール（目標）を定めています。

これらの目標は、国による取組だけでは達成が困難であり、企業や地方自治体はもちろんのこと、個人一人一人に至るまで、すべてのひとの行動が求められる点が特徴です。

「5：ジェンダー平等」、「11：住み続けられるまちづくりを」「16：平和と公正をすべてのひとに」など、男女共同参画に関する目標も掲げられています。



問 41 2015年9月の国連サミットで採択された、SDGs（持続可能な開発目標）を知っていますか。

次の1～3の中から1つだけ選んで○をしてください。

- 1 意味（内容）まで知っている
- 2 言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない
- 3 知らなかった

* 問 41 で1「意味（内容）まで知っている」または2「言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない」と答えられた方にお聞きします。

問 42 あなたは、SDGs の取り組みに参加したいと思いますか。
次の1～4の中から1つだけ選んで○をしてください。

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1 参加したい（すでに参加している） | 3 参加したくない |
| 2 機会があれば参加したい | 4 わからない |

問 43 桑折町では2022年5月に「桑折町 SDGs 推進町民会議」を発足し、全町挙げて SDGs に取り組もうとしています。こうした取り組みについて知っていますか。
次の1～3の中から1つだけ選んで○をしてください。

- | |
|----------------------------|
| 1 意味（内容）まで知っている |
| 2 言葉は聞いたことはあるが、意味（内容）は知らない |
| 3 知らなかった |

問 44 SDGs への理解を高め、町内への浸透を図っていく「桑折町 SDGs 推進町民会議」の取り組みについて、どう思いますか。
それぞれの項目ごと、1～5の中から1つずつ選んで○をしてください。

	1 そう 思う	2 どちらか といえ ばそう 思う	3 どちらか といえ ばそう 思わ ない	4 そう 思わ ない	5 わか らな い
① 町全体として重点的に取り組むべき	1	2	3	4	5
② あなた自身が取り組みに参加したい	1	2	3	4	5

【行政の役割についておたずねします】

問 45 男女共同参画社会の実現のため、行政に対してどのようなことを要望しますか。
次の1～13の中から3つ以内で選んで○をしてください。

- 1 町役場の各種審議会の委員など、政策決定の場に女性を多く登用する
- 2 企業主など雇う側が女性差別をしないよう働きかけをする
- 3 育児のため職場を離れても、同じ職場へ復帰できるような雇用面の対策を考える
- 4 女性のための職業教育や訓練の場を作る
- 5 子育て支援の施策を充実する
- 6 在宅介護者支援の充実を図るなど社会参加しやすいようにする
- 7 男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める
- 8 女性への意識啓発および相談を充実する
- 9 男性への意識啓発および相談を充実する
- 10 女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する
- 11 生理の貧困に対する支援（生理用品の提供等）を充実する
- 12 SNS（ツイッター、フェイスブックなど）、メールマガジン、ホームページなどのインターネットによる情報発信
- 13 その他（ ）

問 46 男女共同参画社会づくりに向けて、ご自由にご意見をお書きください。
（家庭で、職場で、学校生活で、地域社会で、行政の対応についてなど）

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

ご記入済みのアンケートは、記入もれがないか確認の上、同封の返信用封筒（切手は不要です）を用いて、**7月29日（金）までに**郵便ポストに投函して頂きますよう、お願い申し上げます。

**桑折町男女共同参画に関する町民意識調査
調査報告書**

令和 4 年 9 月

調査実施主体：桑折町総合政策課

〒969-1692 福島県伊達郡桑折町大字谷地字道下 22 番地 7

TEL：024-582-2111（代）

FAX：024-582-2479

編集：株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所

〒980-0811 仙台市青葉区一番町 2-4-1

TEL：022-225-3871